



外史

14
683

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始



立博士講述

(非賣品)

外交史 全

大正十三年度 東京帝國大學 講義

14-683



立博士講述

外交史

(非賣品)

全



大正十三年度 東京帝國大學 講義



大正十三年刊 附大正編纂



外

交

史

全



立憲主義

(非賣品)

外交史 目次

第一章

ウィーン會議

及 外交上ノ思想

一

第二章

クリミア戦争及巴里條約

九一

附
ニ公國戦争
ルクセンブルグ事件

第三章

普佛戦争

一七五

第四章

露土戦争及伯林會議

二一三

第五章

三国同盟

二三八

第六章	露佛同盟及モロッコ事件 並 英露協商伊士戰爭	二五二
第七章	極東ニ於ケル外交問題	三〇九
第八章	第一バルカン戰爭	三二五
第九章	第二バルカン戰爭	三三一
第十章	欧州大戰	三三四

外交史 目次 終り

參考書

歐洲近古外交史 林 毅
 最近古風外交史 長 岡 春 一
 近時外交史 有 賀 博 士
 最近三十年外交史 有 賀 博 士
 最近外交事情(極東ニツキ) 牧 野 義 智
 Delidantz 外交史譯 煙 井 雄 三 郎
 Delidantz; Histoire dip. de l'Europe 煙 山 尊 太郎
 Larivaet Lamboud; Histoire generale

Hyte; History of modern Europe (1878年註、1911)
 Andrieu; Historique de l'evolution de m.
 E. (1897年註)
 Phillips; modern E.

Idagren; Europe since 1815.
 5 Fifty ye of Europe (—1919)
 Robinson & Beard; Development of
 m. E. (經濟史, 1747)
 moise; American Diplomacy
 Foster; A Century of American D.
 Hill; History of European Diplomacy
 (18世紀, 1747)
 Bulle; Geschichte der neuesten Geist
 stern; Geschichte der seit dem 17-
 thagen von 1815 bis zum 19. Jahrh.
 ten F. Needen von 1871.
 Gneken; Allgemeines geschichte.

外交史

立 博 士 送



Wien. Vienna 會議

Napoleone I. カル大革命後ニ於テ内外ノ動搖ニ策シテ仏ノ實力を収
 メシヨリ共和政治時代ニ已ニ行ハレシトコロノ国土擴張政策ヲ踏襲シテ更
 ニカカ木件聯ニシ政全部ヲ動搖シ政諸國ノ内部ノ制度及ヒ外部ノ干渉ヲ一
 變セシメ其ノ首時ノ領土ニ加フルニ當ニ「バルギー」及ヒ「ライ
 シ」地方ヲ入
 Prosdsee 沿岸ノ地方・伊ノ略三分ノ一ノ土地及ヒ
 Kalmatia 地方ノ諸州ヲ以テスルニ至リテ
 Naples, Westphalia 四王国・独乙ノ西部ノ諸邦
 Savois, Gen-

mark, Mandates. ヲシテ自國ト攻守同盟ヲ結ハシメ四王國中三ツハ
 其ノ兄弟姻戚ヲ以テ王タラシメ而シテ皆王國ニ王トナリ又独乙西部ノ諸邦
 ラシテ Confederation of Rhein ヲ組織セシメ之ヲ己ノ實權ノ下ニ
 オケリ。一八一二年ニ於テハ独乙内ノニ大國タル墺及普ヲシテ露ニ對シテ
 仏ト攻守同盟ヲ結ハシメタリ、當時ノ歐諸國ニシテ彼ノ勢力ノモトニユタ
 サリシモノハ政ノ僻境タル露、露、Sweden, Sicily, Portugal
 並ニ Spain 是於ケル S.g. 教徒ノ勢力ヲ有スル地方ニ限リ政全体ハ Na-
 poleon ノ味方ト其ノ敵トニツニ合レテ相對峙シタリキ。
 一八一四年二月四日ハニツニ合レテ同盟ノ露、墺、普ノ四國ハ Châtin-
 Non. 會議ヲ向テ四國ノ同盟カ一體ヲナス政ノ名ニ於テ仏ト議和ノ款
 判ヲナスヘク四國カ議和條約ニ定ムル決定ハ四國以外ノ聯合國ヲシテ承認
 セシムヘキヲ世ニ宣言シタリ。之ハ四國カ自ラ所謂歐洲協調 European
 Concert ノ枢軸トナリ、政ノ事態ヲ四國共同シテ左右セントスルノ意思
 ラ明示スルモノナリ。次テ一八一四年三月一日ニヨリ四國ハソノ間ニ二十
 年ノ長期間ヲ有効期限トスル Chaumont ノ同盟ヲ結ビシキ Louis

ノカカ聯合國ト一八一四年五月ニ結ハル第一ノ巴黎議和條約ニヨリ Wien
 會議ヲ開カントコトヲ定メタリ、而シテ其ノ議和條約締結ノ際ニ於テ四強
 國ノ間ニ秘密條約ヲ結ビ Napoleon ノ没落ノタメニ如分スヘキニ至レル
 土地ノ処分及政ニ於ケル系統スヘキ勢力均衡 Balance of power ノ
 組織ノ決定ニ関シテ豫メ四國ノ間ニ決定ヲ行ヒ而シテ歐諸國ノ列國會議ヲ
 開キ四國決定ヲ基礎トシテ會議ニ於テ決定ヲナスヘキヲ定メタリ。 Paris
 條約ハ其ノ調印ノ時ヨリニヶ月以内ニ Wien 會議ヲ開クコトヲ約セシカ
 四強國ノ間ニ會議ノ決定ノ基礎ニ關スル協議マトマラサルヨリ遲延シテ十
 一月一日ヲ以テ會議ノ Journal ノ開会ヲナスコトヲ定ムルニ至レリ。
 同盟四強國ノ代表者ハ第一ノ Paris 議和條約ニ於テステニ決定セル如
 白 Rhein 左岸等ノ諸國邊以外ノ未決問題即チ独乙向德 Poland
 及 Savoy 問題 Savoy 問題等ニ関シテ四國カ前約ニ基キ先ツ決定ヲ
 ナシ而ル後仏及西國ノ代表者ヲシテ意見ヲ述フルヲ得セシメ最後ノ決定ハ
 之ヲ四國ニ留保シ自余ノ諸國ニ至リテハ一切決定ニ妥ラスシテ單ニ四國ノ
 決定ヲ承認セシメントシタリ。

Talleyrand ハ戰敗國タル仏ノ代表者トシテ *Wien* = 着スルカ彼
 強國ノ代表者ニ伍シテ政ノ組織ニ関スル審議ニ与ラント欲シ四強國ノ意
 見ノ一致セサルニ策シソノ目的ヲ達セントシタリ、九月廿八日、英、露、
 墮、仏、普、西、六ヶ國ノ代表者ノ會合ニ於テ墮ノ *Metternich* カ四
 同盟國ノ代表者ノ先ツ申ヲ決シテ後ニ西仏ノ代表者ニ抗議ヲナスコトノ核
 心ヲ承認スルヲ求メタルニ *Talleyrand* ハ *Paris* 議和條約ニ於テ同
 盟國ト称スヘキモノアリトセハ其ノ條約ノ締結國タルハヶ國タルヘキ仏モ
 亦其ノ中ニアラサルハカラストナシ共同ノ敵タル *Napoleon* 没落ノ後
 ニ於テ四國カ仏ニ對シテ同盟ト称スル不正確ナルヲ説ケリ、又十月四日ニ
 ハーツノ *Memorandum* ヲ出シテ *Paris* 條約ノ締結國タルハヶ國
 カ列國會議ノ決議ヲ準備スルニツキ同等ノ権利ヲ有スヘキヲ説ケリ。
Talleyrand ハ *Paris* 條約ノ定ムル所ニ從ヒテ列國ノ總會議ヲ開
 クヘキコトヲ要求シ又四強國代表者ノシヨリ成ル秘密條約ヲ承認セシテ
 列國ノ總會議ヲ決定スヘキ議事ヲ準備ノタメニ *Paris* 條約ノ締結國ノ代
 表者ヨリ成ル正式ノ準備會議ヲ開クヘキコトヲ要求セリ、 *Talleyrand*

主眼ノ名義正シキヲ以テ當時會議ノ牛耳ヲトレル *Metternich*、
Metternich, *Castlereagh* 侯等モ之ヲ無視スルコトヲ得スシテ遂ニ
Paris 條約締結國タルハヶ國ノ代表者ヨリナル準備會ヲ開カサルヲ得サルニ
 至リ又十一月一日ヨリ列國總會議ヲ開クコトヲ宣言シタリ、但シ實際ニ於
 テ總會議ニ於テ可決シタルニ非スシテ又ハヶ國代表者ヨリナル準備會モ必
 スシモ實際ノ決定ヲナセルニ非ラサルヲ以テ準備ニ形式上ノ讓歩ヲ得タルニ
 スキサルノ外觀アルニスキサルモコノ讓歩ヲ得タルニヨリ仏ノ威信ヲ高メ
 タルコト著シキモノアリ、
Wien 會議ニ於テ諸國ノ代表者カ會シテ申ヲ決シタルニアラス、特別
 ノ問題ニ関シ強國ノ代表者ト其ノ事項ニ直接ニ關係ヲ有スル強國以外ノ代
 表者トカ相會シテ特別ノ委員會ヲ組織シテ協議ヲナシ時ニハ諸國ノ君主外
 交家ノ秘密會議ニヨリ申ヲ決シ諸問題ニ関スル條約又ハ議定書ヲ議定セル
 モノニシテ實際ニ於テ強國ノ意見ニヨリ凡テノ事項ヲ左右スルコトヲ得タ
 リ、
Wien 會議ニ關係シテ諸國ヨリ集合セル代表者及ヒ君主ハ大多數ニ反

ニ皇帝 Francis II. ロマノ帝 Alexander I. 普三 Frederick
William III. フト抹 Bayern, Wirttemberg, ノ諸王ノノ地
ノ数多ノ君主ナ Wien ニ集ニ Metternich, Talleyrand, 等ノ諸
國ノ外交家モ多ク集レリ。

當時政國家ニ代表者ヲ會議ニ送ラサリシハ土耳其ノ一國アルニ、
實ノミ故ヲニ多クシラ或ハ會議進行セズシテ舞踏スト稱セラレ、
She

congrès ne marche pas, il s'écroule

一八一四年五月ノ Paris 講和條約ニヨリハノ主権及保護權ヲ放棄セル
ニ至レル地域ハ極メテ廣ク自耳義、Saxony ノ一部、伊太利ノ大部分、
Rhein ノ西岸ニ亘ル地也。Navarre、公國タル Portugal、土
地又含シ當時略三四二百万ノ人口ヲ有シタリ。Wien 會議ニハ之等土地
ノ処分ヲ其ノ主ナル議題トセリ。Saxony 及 Naples、ニ國ハ旧米國ヨ
リ併セシ獨立國タリシモ前者ハ最後マテ Napoleon ニ安セシニヨリ又
後者ハ Napoleon、義弟タル Murat、ヲ君主トセルニヨリ會議ニヨリ外
余スニキ土地ノ中ニ加ヘラレタリ。

Talleyrand ハ四強國ノ專横ヲ制スルカ爲メ、政小國ヲ率ヒテ巴レ
ノ援助トナサントシ機會ヲボメテ他國カ自命一國ノ利益ヲ求メサルコトヲ
公表シ又小國ノ権利ナルモノヲ主張シテ會議ニ召集サレタル諸國ノ平等ナ
ルコトヲ主張シ且會議ノ決議カ公法ニ遵由スルヲ期スヘキ旨ヲ宣言公中ニ
明言スルコトヲ主張シテ諸小邦ノ聲ヲ振セシメタリ。Talleyrand ハ又
四強國ノ領土ノ拡張ヲ妨ケントシ所謂正統主義ナルモノヲ唱ヘ、(Legiti-
mism) 正統君主ノ権利ヲ維持スヘシトナセリ、所謂正統主義ハ主
権及領土ヲ革命前ノ狀態ニ復セントスル、復古主義ニシテ、換言スレハ革
命及共レニヨリテ起レル諸國ノ主権領土ニ干スル影響ヲ否認セントスルノ
主義ニ外ナラス。此ノ主義ハ征服ニヨリテ主張及領土ノ獲得ヲナスコトヲ
否認セントスルモノナルモ偏ハニ君主ノ統制ノ権利ニ重キヲオキテ土地
ニ住居スレ人民ノ志望利益ヲ顧ミサルノ弊ヲリトシテ屢々論難セラル、所
ナリ。

Talleyrand ハスデニ一八一四年五月ノ巴黎條約締結ニ先于此ノ主
義ニヨリ Bonaparte ノ王家ヲ以テ回復シ以テテ同盟ノ敵ナル Napo-

Leon ト松田ト分高セシメテ仏ヲシテ Bourbon 王家ノ治政ノ折ノ
旧ノ境界ヲ維持セシメントシタリ。 Valleyrand ハ更ニ比ノ主義ニヨリ
Wien 会議ニ於テ諸強國ノ慾ヲ制セント欲シテ正統主義ヲ唱ヘテ已ノ嘗
テ推薦セル Napoleon 王ノ Murat ノ正統君主ニ非サルノ故ヲ以テ其
ノ Naples 王タルコトヲ認メサランニシテ Savoy ノ問題ニ干シテ
全一ノ主義ヲ採用シテ Savoy ノ旧ノ土地ヲ其ノ王ヲシテ保有セシメ
ントシタリ。正統主義ハ終ニ Wien 會議ニ採用サル、ニ至リシカ終始一
貫セル適用ヲ見スシテ強國ノ利害ニヨリ適用ヲ左右セラル、コトヲ免レサ
リキ。

Valleyrand ヲシテ其ノ外交手腕ヲ振フヲ得セシメタル原因ノ主ナル
モノハ四強國間ノ利害ノ衝突ニアリ。四國間ノ紛議ノ最モ著シキハ
Prussia 問題及ヒ Savoy 問題ナリ。 Napoleon ノ味方ナリシ Sa-
vond 王ハ兼テ Warsaw 大公國ノ君主タリシカ露帝ハ Poland
王國ヲ恢復シテ立憲制度ノ國トシテ巴カ兼テ之ニ王ヲラント欲ス。普王
ハ初メ之レニ及対セシカ露帝ハ遂ニ普王ヲシテ Savoy 全三國ヲトリテ

自ラ償ヒ之ニ代ヘテ露帝ハ Poland ノ大部分ヲ自己ノ奴カノ下ニオクコ
トヲ諾セシムルヲ得タリ。茲ニ於テ露普ノ結合ナトリ。元來別物ナリシ兩
問題ハ組合ハサル、ニ至レリ。
英及奥ハ露帝ノ勢力カ Vitalis 河ヲ越エテ政ノ中央部ニ及ハンコトヲ
以テ歐大陸ノ Balance of power ヲ害スルトナシ及 Prussia (Bohemian) ノ境領
ヲナセリ。他方ニ於テ奥ハ普ノ領地カ Bohemia (Bohemian) ノ境領
上ニ拡張サル、ヲ最モ厭ヒ Savoy 王國全部ノ普ニ併合サル、コトヲ
以テ独乙ノ勢力均衡ヲ害スルトナシ及 Prussia ト共ニ之ニ及対ス。
コ、ニ於テ孤立ナリシ仏國ハ英奥ト共ニ普及露ノ主張ニ及対スルノ地位ニ
立ツヲ得ルニ至レリ。英ハ政諸國ヲシテ勢力均衡ヲ維持シ相牽制シテ英ト
普ヲ構フルノ余裕ナカラシメントシテ元來 Poland ヲシテ全然孤立セシム
ルコトヲ欲スト虽モ當時ノ事情ハ此ノ計畫ノ實現ヲ許サ、ルヲ以テ Pr-
ussia ヲ東改三國ノ間ニ分割セシメテ以ツテ勢力ノ偏重ヲ防カントセリ。
而シテ独乙ニ於テ普ハ Savoy ヲトリテ奥ト勢力均衡ヲ維持シ得ルニ至
レコトハ英ノ感フトコロニ非ラサレヲ以テ一方ニハ露國ノ全然 Poland

ヲ領有セントスルニ対シテ勢力均衡ヲ破ルノ故ヲ以テ強ク抗議ヲナシ、又
 他方ニハ普ヲ露ヨリ分離セシメント欲シテ普國ニシテ「ロシア」ノ *Po-*
land = 対スル計畫ニ反對セハ莫ハ必スシモ *Saxony* フ普ニ与フル
 コトニ反對セサルヘキコトヲ暗示セリ、 墺ハ普露ノ主張ニ対シテ表面上強
 硬ナル反對ヲナスヲサケタルモ他國ヲシテ反對ノ衝ニ當ラシメテ以テ事ヲ
 破ラント欲シタリ、 露帝ハ英、 墺、 仏ノ反對ノ態度ヲ見テ普トノ結合ヲ固
 クスルノ必要ヲ感シ十一月十日其ノ占領セル *Saxony* ノ土地ヲ普ノ占
 領ニ移セリ、 コレニ於テ仏ハ *Bavaria* 及其他ノ他乙諸國ト共ニ抗議ヲナ
 シ *Saxony* ニシテ自由且獨立ニアラサレハ他乙ハ堅固ナル聯邦トシテ存
 立シ得ヘカラサルヲ説ケリ、 一方ニ於テ仏墺地方ニ於テハ露普カ互ニ対峙
 シテ戦備ヲ治メタリ。

Talleyrand ハ英墺兩國ノ代表者ニ説キ遂ニコノ兩國ト共ニ普露間
 ノ條約ニ反對スルタメニ一八一五年一月三日秘密同盟條約ヲ結ヒ三國相約
 シテ巴里媾和條約ノ実行ヲ固リシモ平和ノ手段ニヨリ此ノ目的ヲ達スルヲ
 得サレハ各々十五万ノ兵ヲ出シ他カシテコノ目的ヲ達スルコトヲ期スヘキ

ヲ約セリ、 *Bavaria*, *Hannover*, *Holland* モ之ニ加盟スルニ
 至レリ、 遂ニ於テ仏ニ對スル同盟ハ白ラ壞崩スルニ至レルノミナラス嘗テ
 孤立シタル仏ハ却ツテ同盟ヲ結フヲ得タリ。

仏露兩國ハ *Poland* 又 *Saxony* ノ問題ニ関シ仏ヲ除外シテ英墺ト協
 議セントセルニ英カ之ヲ峻拒セルヨリ兩國ハ秘密同盟ノ成レルヲ知り終ニ
 驟歩ナシ茲ニ於テ英、 露、 墺、 仏ノ五ヶ國ノ代表者ヨリ成ル所謂 *Paris*
Congress 及 *Poland* 問題委員會ニ於テ其ノ問題カ議定サルノニ至レリ、 一八
 一五年二月十六日 *Poland* 及 *Saxony* 二國スル確定條約調印サレタ
 リ。

Poland = 関シテ *Napoleon* カ創立セル *Warsaw* 大公國ノ土地ヲ
 東歐三國ノ間ニ分割シ露帝ハ *Poland* 全部ヲソノ叔カノモトニオクヲ得
 サルニ至レリ、 又併露帝ハ *Poland* ノ大部分ヲ始メ *Poland* 一ノ稱
 号ヲ兼ネタリ、 普ハ *Posen*, *Blangig*, *Thorn* ヲ得、 墺ハ東部
Galicia ヲ得、 *Cracow* ノ市ハ自由ニシテ永ク中立ナル共和國ヲナ
 サシメ之ヲ東歐三國ノ保護ノ下ニオクト称シタリ、 *Saxony* = 則シ普ハ

其ノ五分ノニ土地ヲ得シカ、殘余ノ五分ノ三ノ土地ヲ以テ *Saxony*
ノ王國ヲ存立セシメ普ハ殘余ノ土地ヲ得サリシ賠償トシテ *Rhein* 地方
ニ土地ヲ得タリ。

Talleyrand ハ *Wien* 會議ニ於テ其ノ外交手腕ヲ逞ウシム、利益
ヲ收メシム。 *Napoleon* 再挙ヲシテ *Bolha* ヲ脱シ百回天下ヲ生シタ
ルカタメニ *Talleyrand* ノ苦心ヲ以テ蔽レタル同盟軍ト成レリ。會議
ハ *Napoleon* ノ再挙ニ拘ハラズ審議ヲ繼續シ列國ハ *Napoleon* ニ
當ルタメニ共カスルノ必要上交讓的精神ヲ以テ議事ヲ進捗セシメ紛議ヲ掃
クハキ問題ニシテ殊更ニ之ニ言及スルヲ避ケタルモノ少ナカラス、諸特別
問題ニ関スル議決、要矣ヲ摘録シテ *Wien* 會議ノ最終決議書 (*Final Act of the Wien Conference*) 百七十一條ニ依リ一
八一五年六月九日之ニ調印シタリ。而シテ特別問題ニ関スル諸條約ハ最終
決議書ト全然一塊ヲナスモノトセリ。

第一 *Paris* 條約ノ締結國タルハケ國ハ最終調印ヲナシ他國ニ之ヲ加
盟ヲ促シタリ。 *Napoleon* ハ一八一五年六月十七日 *Waterloo* ノ戦ニ

敗レ、*Bourbon* 家ノ *Stuarts* 皇位ニ復スルヲ得、一八一五年十一
月二十日

第二 *Paris* 條約ニヨリ仏ヲ一七九〇年ノ境界ニ復シ十五方ノ同盟軍ハ
五年ヲ起エサルノ期間東部及北部ニ於ケル仏ノ城塞ヲ占領シ而シテ三年ノ
後同盟諸國ハ會議ヲ開キ占領ヲ繼續スヘキヤ否ヤヲ議スヘキヲ定メタリ。
Wien 會議ノ決議ニシテ *Poland* 及 *Saxony* 以外ニ関スル問題ハ次
ニ述フル所ノ如シ。

独乙問題ニ関シテハ独乙ノ自由主義論者、民族統一主義論者カ一八一五
年ニ於テ瓦解シタル独乙國民ノ神聖ローマ帝國再興論ヲ唱ヘ独乙小聯邦中
再興ヲ希望セルモノナキニ非サリシモ中邦ノ君主ハ各々其ノ專制的権力ヲ
維持スルタメ帝國再興論ニ反対セリ。

獨其ノ勢力ノ衰ヘシテ自覚シ帝位ヲ擁スルモ虚名ニスキスシテ徒ラ煩
累ヲ加フルニスキサルモノトナシ普モ亦甚ダ独乙皇帝ノ位ヲ得ルノ威望ヲ
欠クテ自覚シ共ニ帝國再興ニ反対シタリ。隣國タル仏及露ハ独乙ノ勢力カ
統一ヲ得スシテ外交上ニ勢力ヲ振フ能ハサルヲ望ミタリ。

独乙ノ内外形勢カクノ如キヲ以テ帝國再興論ノ行ハレサルハ勿論多少中
 央集权的ナル聯邦ヲ作ラントスルノ普ノ主張モ蘇ラレ大體ニ於テ諸邦間ノ
 干係ノ疎漫ナル現状維持ヲ論メントスルノ塊ノ説行ハレタリ。斯クノ如ク
 ニシテ独乙ニ内シテ結合ノ弱キ聯邦制度ヲトルコトナレリ。
 聯邦ノ中央組織ハ宣戰媾和ヲナシ同盟ヲ結ヒ外交官接受派遣スルノ权限
 ヲ保有ス。独乙ノ三十九邦ハ其ノ共同的利害ニ干スル向懸ヲ議スルカキメ
 各邦ヲ代表スル委員ヨリ成ル聯邦議會 (Bundesversammlung) = *Fürstentag*
 = *Fürstentag* = 開キ塊ノ代表者ヲ議長トナセリ。議事カ聯邦ノ基本法ニ干スル
 カ各個人ノ权利ニ干係スルカスハ宗教問題ニ干係スル場合ニハ決議ニ全会
 一致ヲ要ストナセリ。聯邦内ノ各邦ハ独乙全部ヲ防禦スルノ義務アリ。又
 之ヲ組織スル諸邦ノ間ニ於テ互ニソノ恩ヲ放フノ義務アリ。而シテ聯邦ノ
 共同の戦争ニ際シテハ各邦ハ其ノ敵國ト別ニ條約ヲ結フヲ得テ、而シテ聯邦
 全体スハ其一部ヲ敵トセサル以上ハ各邦ハ他國ト攻守同盟又ハ其ノ他ノ政
 治上ノ條約ヲ結フヘク又戦争ヲモ行フヲ得ヘキモノトス。但シ諸邦ノ手
 ニ際シテハ其間ニ戦争ヲナスコトヲ嚴禁シ先ツ *Frankfurt* 聯邦議會

議會ニ調停ヲ乞ハシメ調停ナラサレハ聯邦議會ノ組織スヘキ最高裁判所ノ
 判決ヲ受テサルヘカラストス。若シソノ判決ニ従ハサル邦アルトキハ聯邦
 内ノ諸邦ノ兵力ニヨリ制裁ヲ与フヘシトシタリ。丁林王ハ *Hohenzollern* 及
Sachsen 君主タル資格ヲ以テ、和王ハ *Saxony* 君主タル資格ヲ
Hungary 君主タル資格ヲ以テ、英王ハ其ノ *Hannover* 君主タル資格ヲ
 以テ各独聯邦内ノ君主タル資格ヲ有ス。反之塊ノ白人 *Slaves* ノ住地及
 普ノ *Poems* 大公國東部及西部ノ *Prussia* 地方ハ聯邦ノ外ニ立テタリ。
 独乙内ノ塊ハ *Napoleon* 戦争中失ハレ独及伊ノ土地ヲ回復シ *Elpina*
 ノ諸州ヲ回復シ亦塊領 *Netherlands* ヲ復セサル代償トシテ伊ノ *Venice*
Spain ヲ得タリ。北部及中部伊ノ數多ノ小邦ニ其ノ王族ヲ立テ君主トシ直
 接同様ニ伊ニ勢力ヲ振フニ至レリ。
 又 *Poland* ノ一部タリシ東 *Galicia* ヲ保有スレヲ得タリ。 *Moldavia*
Wallachia 會議ニ於ケル政策ノ目的カ以テ直接ニ境ヲ接スルコ
 トナクシテ帝國ヲ確立スルニアレヘキヲ説キタリシカ會議ニ於テコノ目的
 ハ達セラレタリ。独乙内ノ普ハ *Napoleon* 戦争ノタメニ失ヘレ領土ヲ回

復シ Poland ノ一部分タリシ土地ヲ保有シ Saxon 全部ヲ得ル能ハサ
 リラモ其ノ又5ヲ得 Saxony ノ一部ヲ得サリシ代償トシテ Rhein 地方
 ニ土地ヲ得タリ。又モトノ Sweden 領 Pomerania (Pomerania)
 ヲ得タリ。普ハ Rhein 地方カ仏ニ近ク且普ノ本土ト斷斷セルノ故ヲ以
 テ當時 Saxony ニ代ッテ之ヲ得ルコトヲ得策ト思ハサリシモ普カ Rhein
 地方ヲ有スルカ多クニ仏ニ対スル強乙全体ノ防禦者タル主要ナル地位ヲ得
 タリ。

伊ニ於テ第一ニ壞カ北部ノ Joubardly ヲ回復シ普ニ Venetia ヲ得
 テニノ土地ヲ併セテ一ノ王国ヲ建テタリ。 Tuscany ハ壞帝ノ弟タル
 Ferdinand 世襲領。 Modena 壞ノ Francis 大公ノ所領トナレ
 リ。 Parma 壞 Napoleon 妃ニシテ壞帝ノ女ナル Marie Louise
 ノ終身領。如斯シテ壞ハ直接間接ニ伊ノ北方ニ勢力ヲ示シタリ。
 普ニ Sardinia 王ハ其ノ旧領 Piedmont ヲ回復シ新々ニ Ste-
 rra 共和國ノ土地ヲ得タリ。之レ Sardinia ヲシテ仏ノ侵略ヲ防ク
 ノカマ備ヘンカタメナリ。如斯シテ勢力ヲ加ントク Sardinia 絶伊ノ利

人ノ王室ヲ戴ク唯一ノ王国トシテ後ノ伊統一ノ中核トナラントシタリ。

第三 Naples = Murat カ君臨セルイタリヤ壞ハ一時之ト結ビ Rome
 女王ノ領地ヲ分割セント欲セシカ Talleyrand ヲ遣フシ正統主義者 Tal-
 ley 會議ニ勢力ヲ得ルニ至リ且 Murat ハ Napoleon 百日天下ノ事
 業ニ際シテ伊全土ヲ征服セントシテ兵ヲ擧ケ失敗シ Murat 廢サレ正統
 君主タル Bourbon 朝 Ferdinand 7 ヲ Naples 王ニ復シタリ。
 第四 Rome 女王ハ Ravenna, Bologna, 境界ノ土地ヲ回復シ
 タリ。伊ハ壞カ之ニ教多ノ獨立國ヲ散在セシメテ其間ニ実権ヲ收メントセ
 ルヲ以テ伊諸國ハ聯邦ヲナスニ至ラス。伊ハ地理上ノ名称タルニ止マレリ。
 英王ハ Hannover 王ノ称号ヲ兼テ政ニ於テハ Malta 島 Heligoland
 ヲ得 Cinnia 群島ノ実権ヲ握レテ得タリ。政ニ於テ仏及其ノ同盟國能中和
 前ノ海外植民地ヲ收メテ Cape Colony, Ceylon 島 Mauritius
 島西印度ノ教多ノ島等ヲ得。海上ノ権力ヲ專ラニスルヲ得タリ。
 意帝ハ Poland ノ土地ノ大部分ヲ得又 Sardinia, Bessarabia ヲ奪
 得スレテ得タリ。ロシヤカ Poland ノ土地ヲ得政ノ中央部ニ近クシテ至

レロコトハ露ノ政ニ於ケル勢力ヲ著シク増大シタリ。

和蘭ハ *Orange Nassau* 之ヲ統治シ、*ノールギー* (埃領 *Netherlands*)、土地ヲ台セ *Netherlands* 王国ト稱シ又 *Statenburg* 大公國ヲ得タリ。和蘭カ勢力ヲ強メタルハコレニ依リテ仏ノ東方ニ出ラントスル侵略ノ勢ヲ殺カントスルモノナリ。

Swiss ハ *22 Cantons* ヨリ成リ *Helvetic Confederation* マナシ永久中立國トシテ認メラレタリ。

Vienna 會議ニ於テ英ノ全权委員 *Bathurst* ハ諸國カ嚴密ニ其ノ領土ニ干スル決定ヲ担保シ之ヲ攪乱セントスル國ニ對シテ共同的ノ戰爭ヲ行フヘキヲ約束スルノ提議ヲナセリ、之ハ領土ニ干スル決定維持ナレ制限サレタル目的ヲ有スル一種ノ國際聯盟組織ノ提議ナリ。領土不可侵ノ担保ハ之ヲ土耳其ノ領土ニモ及ハシメントセリ、英ノ全权委員ノコノ提議ヲナセル主タル動機ハ *Turkey*、土地ノ不可侵ノ担保ヲ定ムルニアリタルモノ如シ。露帝ハコノ提議ニ對シテ原則上ノ異議ヲ唱フルコトナク又 *Turkey* 政府カ當時現在セル紛議ヲ厄テ仲裁々判ニ附スルヲ諾スルコトヲ以テ條件

トセリ。談判進行中 *Napoleon* ノ百日天下ノ事件起リシヨリコノ種ノ提議ハ悉ク之ヲ度外視セラレ、ニ至レリ。

Vienna 會議ニ於テ土地ノ処分ニ干シ會議ノ元來ノ主義ト定メラレシテアリ、然レトモ *Legitimism*、利益ハ *Veris*, *bona* 等ノ如キ小共和國、独ノ多数ノ *free state* ノ如キ独立都市、ローマ教會以外ノ土地ヲ領有セル教多ノ独乙ノ教會ノ如キ王公等ノ称号ヲ存スルモ國ヲ失ハル独乙ノ教多ノ小君主ノ如キ巨多ノ國ヲ失ハル小君主 (*mediatized*) 等ニハ及ハスシテ此等ノ政治國体ノ宗教國体ノ小君主ハ其ノ主權又ハ領土ノ回復ヲ得スシテヤメリ。正統主ニハ屢々強國ノ意志ニヨリテ適用ヲ左右セラレ *Sueden*、*Austrians* 等ハ其ノ位ニ復スルヲ得サリキ。

(*Bernadotte* ガ *kur*ニ君臨スルニ至ル) 丁林ハ其ノ *Norway* ヲ奪ハレ *Poland* ハ依然ロシア、埃、普ノ間ニ分割サレタリ。海外ノ植民地モソノ革命前ノ旧主ニ回復セラレ、ノ交ナリキ。

Vienna 會議ニ於テ土地ノ処分ニ干シ亦賠償ノ主義 (*Compensation*)

Nion)ノ行ハレシヲ見ル。Sweden: Finland 又独ニ於ケルソノ
領地 (Pomerania, Rügen) ヲ失ハル懸懼ヲシテ Norway ヲ合
ス得タリ Denmark ノ Norway ヲ失ハルベリ。 Hanseatic
ヲ合ハスコトナレリ。 獨ハ獨領 Netherlands (白国) ヲ失ハルベ
ニ北伊太利 (Venice) = 地ヲ得タリ。

Vienna 會議ニ於テ土地ノ処分ニツキ住民ノ志望利益ハ輕視セラレ日
國ハ言語 慣習 宗教 利害ヲ異ニスル和蘭ニ合ハセラレ、何人ノ住セル
Venetia ノ境ニ入り Lombardy ノ依然境ノ統治ヲ受ケ Poland 地
ハ依然ロシアノ普墾間ニ分割セラレタルナリ。 十九世紀中並ニ二十世紀
初メニ於テ Vienna 會議ノ之等ノ決定力漸次破却セラル、ヲ見ルナリ。

Vienna 會議ニ於テ東方問題ニ関シ Russia ハ之ヲ會議ノ議題トナシ
土耳其帝國内ニ於ケル Greece 教徒 Ethnoks 教徒ノ保護者タルノ地
位ヲ他國ヲシテ認メシメント欲セシカコノ問題ハ會議ノ正式ノ議題トナラ
スシテ終ハレリ。
Vienna 會議ニ於テ政治上向題ノ議決ノ他ニ於テ政ノ國際河川ノ航路

自由ノ原則、奴隸売買廢止ノ原則、外交官ノ階級位次ノ規定等ノ國際法ニ
干スレ議決ヲ行ヘリ。

Vienna 會議後東歐ノ三強國及西歐ニ強國ヲ共ノ共同的行動ニヨリ
テ政故調ナルモノヲ作り政ノ事態ヲ左右シ政ノ中央ノ 二ハ「スカン
ヂナビヤ」ノ諸國独乙ノ諸邦 Paris 伊太利諸邦等ノ小國ヲ集リテ存シテ
オレリ、政ノ諸國中 Vienna 會議ノ定メタル現狀維持 Statu quo
ニ畏ク然心ナルハ獨ナリ、獨ハ独乙ニ於テハ聯邦組織ヲ散漫ニシ實權ヲ握
ラントシ伊ニ於テモ北部ニ占據シテ金半島ニ勢カヲ振ハントセリ、當時獨
ハ伊 能和的變態 Fabricated conditions ニテリ、大變動アラハ
勢カラ夫ノ悞レアルニスキサルヲ以テ其ノ政策ハ conservation,
immobility トナリ外部ニ對シ Vienna 條約ヲ維持スルヲハカリ
内部ニ於テハ自由主義ノ思想抑圧ニツトメタリ。 Francis I. ハ思想振
隆ニシテ凡庸ナル君主ニスキサリシカ共、首相 Metternich ノ非常ナレ
英オヲ以テ由ラ革命ノ敵ト称シ政ノ又動的政策ノ唱主トナレリ。 Vienna
會議ヨリ一八四八年革命ニ至ルマテテ世ニ變ハ Metternich 時代ト称ス。

独乙ニ於テ據ト對抗スル「プロシヤ」ハ Vienna 會議ノ時ヲ以ツテ初メ
 ナ強國タルノ地位ヲ確立セシメムニ對スル故ノ Rhein 方面ノ防備者トナ
 リ又普王 Frederick William 曰ハ相ツイテ皇帝及ビ Metternich ノ言
 ニキ、シカ Prussia ハ其ハ四方ノ要道トソノ發國者ノ努力トニヨリテ新
 ノ独乙内ニ於テ重要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ、英國ハ次大陸ニ於テ其カ
 ノ均衡ヲ定メツ、下リキ、和蘭ニヨリテ抑ハントシホ Hannover ニヨ
 リテ独ヲ拘束センタメ新ニ Malta 島及 Ionian Islands ニ實權ヲ振
 ヒテ其 Gibraltar / G / 以テ界セル Gibraltar 必要ト相俟ツテ北
 中海ノ制海權ヲ握ルコトヲ得タリ、英ハ又進ミテ太平洋上及印度洋上ノ制
 海權ヲ握レリ、而シテ一方ニ於テ東方向題ニツキ「ロシヤ」ノ進勢ヲ抑ヘント
 スルト同時ニ他方ニ於テ「アメリカ」向題ニツキ「スペイン」領植民地ノ独
 立ヲ圖リテ自國ノ通商ノ發達ヲ期セント欲セリ。

Russia : Napoleon war 際シ非常ナル威權ヲ收メ、 Fin-
 land 二ヨリテ Sweden ヲ抑、 Poland 二ヨリテ中東歐ニ對スル勢
 カヲオサメヌ独乙ノ小至侯ヲ懷柔シテ之ヲ自己ノ爪牙トナシテ独乙ニ地力カ

五メントセリ、「ロシヤ」ハ Bozarskian ヲ得テ其ノ領土 Krim 等
 ニ違セルヲ以テ又ニ Constantinople 二白ツテ進マントセリ、 Wien
 會議ノ際「ロシヤ」ハ東方向題ヲ會議ノ議題トナサント欲セシカ英先
 ツ反對シムハ土耳其ヲ改メ共同担保ノモトニ置クヘキコトヲ論シ據ハ明白
 ナル答ヲナスヲ避ケ結局ニ於テ「ロシヤ」向題ハ會議ノ正式ノ議題トナラズシテ
 終リシカ、英獨ハ當時已ニ「ロシヤ」ニ對シテ土耳其ノ獨立ヲ防禦スルノ
 必要ヲ感セシコトヲ見ルヘキナリ。

France 八改ニ於テモトノ境界ヲ保存スルヲ得シカ其ノ周囲ニハ其ノ進
 勢ニ對スル障礙カ作ラレタリ、巨額ノ償金ヲ取ヒソノ東北ノ城砦ニハ多數
 ノ占領軍カ配置サレタリ、殊ニ東境ノ防禦ニツキテ向強ヲ生セリ、如斯シ
 テ仏ノ人民ハ一八一五年ノ Paris 條約及ビ Paris 媾和條約ヲ以テ仏ノ屈辱
 トナスニ至リ終ニ一八三〇年ノ革命ヲ見ルニ至レリ。

次ニ政校調ノ起源及 Holy alliance ニシキテ述フハシ、 European
 an Concert : Napoleonic War ノ末壞其ノ芽ヲ殺セリ、
 B. C. ハ其ノ語ヲ以テ判スレハ政全体ノ諸國ノ共同ヲサスヘキモノナル

カ實際ニ於テハ政強國ノ共同の決議及行動ヲサスニ他ナラサルナリ。Na-
polenian War、折衷、ロシヤ、埃、普、四強國ハ政協調ノ首腦トナ
 1 Ag. 四強ノ霸政 *Tetrasaky* ヲ行ヒ共同シテ政ノ事急ヲ左右セント欲シ
 一ノ一ノ年九月 *Six-la, Chapelle* 會議以後之レニ加ハリテ五強霸政
Pentasky ヲ生セリ。一ノニニ年頃ニ至ルマテハ政改ハ四強國又ハ五強
 國ノ加ハレル殆ント常設的組織トシテ存シ列國會議ヲ以テ其ノ機干トナシ
 蓋人往々國際ニ於ケル *Frederick* 相率政治ノ名ヲ之ニ与ヘナリ。
 Na. W. ノ終り頃一八一四年二月四日ニ對スル同盟諸國オ *Chaillon*
 ニ會議ヲ開キ四國カ一體ヲナス政ノ名ニ於テ仏ト媾和ノ談判ヲナスノキ四
 國ハ媾和條約ニ於テ定ムルトコロノ決定ハ四國以外ノ聯合國ヲシテ承認セ
 シムヘキコトヲ世ニ宣言セリ。
 コノ宣言ハ四強國カ自ラ政ノ利害ノ代表者ヲ以テ任シ政ノ事急ヲ四國カ
 共同シテ左右セントスルノ意志ヲ明カニ示スモノナリ。次イテ三月一日ニ
 至リ二十年ノ其ノ期間ヲ有效期間トスル *Chaumont* ノ同盟條約ヲ結ブニ
 至リ政改ハ漸クソノ實ヲソナハントス。 *Vienna* 會議中 *Chaumont*

X

條約ニ依ル同盟ハ崩レシカ *Na.* ノ再奉ハ之レヲ復舊セシメ *Vienna* 會議
 開會及 *Water-Loos* 戰ヲ終テ仏ノ天ニ結ビシ一八一五年十一月二十日ノ條
 ヲ「パリ」媾和條約締結ト同時ニ同盟四國ノ間ニ條約ヲ結ビ *Cham* 條約ヲ更
 新シ且ツ全盟四國ノ君主カ共同ナル大利害ニ干スル事項ヲ審議シ並ニ人民
 ノ休息 (*Repose*) 繁榮ノヌメ及政ノ平和維持ノタメ有益ナル手段ヲ審議
 スル目的ヲ以テ時ニ會議ヲ開キ君主親シク之レニ臨ミ亦ハソノ代表者ヲシ
 テアレニ出席セシムヘキコトヲ約セリ。於是四國ノ披調ハ一般ノ安寧ノ確
 保ヲ目的トスル常設的制度トシテ成立シ之等ノ會議ハ當時ニ於ケル政改ノ
Organ トナレリ。
 第一「パリ」媾和條約締結以前一八一五年九月廿六日ロシヤ、埃、普三國
 ノ君主間ニ *Ag.* 神聖全盟ニ干スル條約締結ナル、ニ至レリ。其ノ條約ノ
 締結ニアツカレル諸君主カ「ソレ」教ノ *doctrine* ニヨリテ其前立ノ下家
 及人民ニ對スル干渉ヲ知理スルコトヲ互ニ相約束セリ。諸君主ハ同盟ノ情
 誼ヲ以テ常ニ相補助シ人民ニ對シテハ *patris familiaris* 家父ノ心ヲ持
 シテ宗教平和及正義ヲ維持スヘク締結君主ハ「ヤソ」教國民ト称スル一國ノ
 二五

大団體ノ唯一ノ主権者タル *God* ノ依託ヲ受ケテ各ソノ団體ノ一部ヲ支配スレモノニスキスト思維シヨヤソノ教ノ神聖ナル主義即チ博愛、真理及平和ヲ以テ其ノ行為ノ準繩トナスコトヲ約セリ、之ノ時ニ理想ニカラル、*ロシヤ* 帝 *Alexander I.* カ連年ノ戰爭ノ慘害ヲ痛心シ *Misticism* 神秘的言説ヲ弄スル *Madam Kudenner* ノ言ヲキ、テ主張セル所ナリ、*東* 及普ノ君主ハ「*ロシヤ* 帝ニ対スル諷ニテ重シテコノ約束ニ加ハレリ、約スルトコロハ締盟君主カ *Christian doctrine*」ヲ以テ行為ノ準繩トナスニ外ナラサルヲ以テ之ヲ政治的條約ヲ以テ目スルヲ得ス、寧ロ宗教的ナル誓約ノ性質ヲ有スヘキモノト見ルヘキナリ、

神聖同盟ハ改諸國ノ君主ヨリ大抵之ニ加盟スルニ全レルモ當時ノ英ノ攝政ハ單ニ其ノ趣旨ヲ賛成スルコトヲ宣言スルコト、ナレリ、當時之レニ加盟セル諸君主ニ重キヲコノ約束ニオクコトナカリキ、 (*Rien avoir* *Mettelnick*、*dit* *Notbing* 評判高キシマラヌモノ) *Holyallin* *nee* ハ世人ノ普通ニ考フル如ク初メヨリ自由主義及民族的獨立ノ主義ヲ抑圧スルノ *Eq.*、及反動政策ヲ目的トシテナレルモノニ非ス、 *Idoly*

alliance 成立ノ當時其ノ主張者タル *Alexander I.* ハ尚ホ立憲王政ヲ以テ理想トナシ仏及「*スイス*」ニ於テ憲法制度ヲ維持スルコトヲ尽力シ俄及伊ニ於テモ憲法制度ヲ行フコトニ賛意ヲ表シ又自ラ *Poland* ニ憲法ヲ与ヘ「*ロシヤ*」本主ニ於テモ憲法ヲ布クノ意志ヲ有セリ、「*ロシヤ*」帝カ *Mettelnick* ト共ニ自由主義抑圧政策ヲ行フニ至リシハコレヨリ以後ノコトニ屬ス、然レトモ *EU*、最初ノ締結者タル「*ロシヤ*」、*東* 及 *Prussia* ノ君主カ後ノ反動的干涉政策ノ主唱トナリシヨリ神聖同盟カ自由主義ヲ唱フル人々ノ敵視スル所トナレリ。

一八一八年ノ秋「*ロシヤ*」帝ハ再々改ノ諸國ノ代表者ヲ集メテ *Vienna* 會議ノ如キ大規模ノ列國會議ヲ開催セント欲セシカ其ノ説行ハレスシテハニアル百領軍ノ撤退ノ可否 *Menna* 會議ニ於テ議定ヲ得ナリシ申項ヲ議題トスル英、「*ロシヤ*」、*東*、普及仏ノ五強國會議カ十一月一日ヨリ開カレ、ニ至レリ、此ノ會議ニ於テ仏カ政ノ一紙の利害ニ干スル共同の行動ニツキテ四強國ト位スルコトヲ認メラル、ニ至リ五強國政ヲ生セリ、十一月十五日ノ議定書中ニ於テ五強國ハ「*マソ*」族の情誼ニヨリテカタメラレタル

Wagner

一致ヲイヨイヨ固クスヘキコトヲ宣言シ而シテコノ一致ノ唯一ノ目的ハ条約尊重ノ基礎ニ於ケル一般平和維持ヲ至スニアルニ地ナラサルコトヲ宣言シ而シテ此ノ目的ヲ達スルタメニ強固ノ會議ヲ開クヘキコトヲ定メタリ、コノ議定書ニ所屬スル宣言中ニ於テ國際法ヲ嚴守スヘシトシ會議ニ於テ世界ノ休息 *Repos* ヲ目的トスヘシトナシ神ニ對スル義務及人民ニ對スル義務ヲ認メタルノ語アリ、此ノ議定書ノ調印ト曰テ公テシテ同盟四國ノ間ニ於テ佯カ政平和ヲ攪乱スルノ禍源トナルヲ予妨スルカタメニ佯ニ對スル同盟ヲ將來ニ向ルテ継続スルノ趣意ノ秘密ノ議定書ヲ結フト云フ *Penultimaty* ハステニ *Acte de Chapelle* 會議ノトキヨリ成立セリト云フヲ得ヘキナリ。

故ニ於テ自由主義・統一主義ノ論者ハ *Vienna* 會議ノ決定後其ノ以彼諸君主ノ実行セル反動政策ニ對シテ不平ニシテ政府ニ對シテ反抗ノ態度ヲトルモノ輩出シ亦佯カ「イスパニヤ」ナポリ等ニ於テ復古セル王政ノモトニ反動政策行ハレシニ對シテ反抗起レリ、*Acte de Chapelle* 會議ノ兩ヨリ改改調ハ漸ク反動政策ニ傾クニ至レリ、*Prussia*、*Friedrich*

William 日 *Napoleon* 戰爭ノ際憲法ヲ附与スルコトヲ人民ニ約束シヌ *Vienna* 會議ニ於テ故ニニ爾シ聯邦内ノ各國カ一年內ニ其ノ人民ニ代議制ノ憲法ヲ与フヘキヲ規定スヘキコトヲ主張セシカトモ終ニ憲法制定ノ約ヲ履行セスシテ反動政策ヲ採ルニ至リ、「ロシヤ」ノ *Alex. I* 及 *Alex. II* 會議ノ頃ヨリ立憲主義・自由主義ヲ擁護主義ニ變説シ反動政策ヲトルニ至レリ、統一の自由ヲ主張スル故ニ學生ノ運動、佯カ一八一九年ノ選挙ニ於ケル自由党ノ勝利及「ロシヤ」帝ノ爪牙ヲ以テ世ニ稱ナレシ故ニ、文士 *Kotzebue*、*Saunders* ト云フ學生カ殺スルノ殺害等ハ「ロシヤ」帝ヲシテ益々反動政策ニ至ラシメ *Matternich* 其ノ反動政策ヲ独及政ニ行ハントミレニ當リテ普及「ロシヤ」ノ援助ヲ受ケ得ルニ至レリ。

一八一七年ヨリ一八一九年ニ至ル故ニ自由主義ノ運動ハ壞カ普ノ據ヲ得テ計畫セル一八一九年八月及十一月ノ *Karlobad* 及 *Vienna* 會議ニヨリ議定セル處分ニヨリ一旦抑壓セラレタリ、*Karlobad* 會議ハ壞普以外ニ於テハ *Bavaria*, *Baden*, *Wurtemberg*, *Hanover*, *M*

Chamberlain 其他凡テ、三等国ノ会合セルトコロニシテ Vienna ノ会議
ハ独ニ全体ノ諸國ノ會議ナリ、独聯邦ノ諸國ハ此ノ Vienna 會議ニ於テ定
シトコロノ根本法律中ニ於テ君权主義ヲ闡明シ自由市ヲ除キテ他ノ凡テノ
國ニ於ケル國家ノ最高権カハ主ノ一箇ノ有スルモノトシ憲法ハ一定ノ事項
ニ干シ人民ノ参政権ヲ一許ス、有スル以上ニ君主ヲ拘束スルコトアルハ
カラストシ又聯邦内ノ或ル政府カ及民ヲ鎮定スル爲ニ助力ヲ求ムルカ若ク
ハ其ノ权カ行使ノ任ニ堪ヘサルコトヲ明白ニ示セル事實アレハ、聯邦議會
ハ公共ノ秩序ヲ維持スルノ義務アリトナセリ、之ハ君权ノ神聖ヲ唱ヘ革命
的運動ニ對シテ聯邦ノ名ヲ以テ干渉ヲ行ハントスルモノナリ、而シテ
Congress = 中央委員會ヲ置キテ革命黨ノ計画及其ノ秘密結社ヲ調査セシメ
疑アレ人物ハ如何ナル國ニ属スルヲ向ハス之レヲ尋問逮捕スルヲ得セシメ
又新聞其他ノ出版物ニ對シテ檢閲ヲナセシメタリ、又大學ニ學監ヲオキテ
教學生ヲ監視セシメ又學生ノ結社殊ニ青年團體ノ取締ヲナサシメタリ。
Mexico = 於テ Ferdinand 皇ノ極端ナル反動的施設ニ對スル民間ノ
不平ヲ軍隊ノ待遇上ノ不平ト合シテ一八二〇年一月一日ヨリ初マレル軍隊

・天乱ヲ機會トシテ革命出來人民ハ一七九一年ノ憲法ヲ模倣セル一八
一二年ノ憲法ヲ施行スルコトヲヨシニ強要セリ、於是「イスマニヤ」干渉ノ
向趣起レリ、西國ニ干スル干渉ニ干シテ四強國ノ意見ハ一致ヲ得ス、コト
シヤレ帝ハ反動政策ニ関シ *Quetzaltenango* ト所見ヲ全フスルニ至リ人民主
权ヲ主張セル西ノ革命政府ヲメロヨリ、「スペイン」干渉ニ賛スル意アリ、
獨ハ當時 *Mexico* ト行動ヲ全フセリ、獨ニテ *Mexico* ハ革新ノ傾向ヲ忌ムルヲ以
テ主義トシテハ干渉ニ不賛成ニ非ルモ西ノ革命ノ直接ニ與ニ影響スルノ影
キヲ思ツテ干渉問題ニ干シテ冷淡ナル態度ヲ示セリ、*Mexico* ハ又西干渉ノ
任ニ當ル好地位ニアルハトシテ干渉ノ事ニ從ハシムルコトヲ喜ハサリキ、
コレハ力ヲ失敗セハ内ニ再ヒ革命起リテ政ノ禍亂ヲ生センコトヲ懼レシナ
リ、又ハ力ヲ干渉ヲナスニ成功スルトキニハ之レカタメニ其ノ威信ヲタカメ
或ハ「ロシヤ」トハトノ同盟ヲ生スルノオソレヲ生スヘク又ハ人民ノ間
ニ兵力ヲ以テ國威ヲ振揚スルノ思想カ麻痺シテ政ノ禍亂ヲ生スルコトアラ
ンコトヲ懼レシナリ。
仏ニ於テハ王黨ハ干渉ヲ行ヒテ國威ヲノブルノ志アルヨリ干渉ヲナスヲ

予後

三二

欲スレト自由党ハ寧ロ西ノ人民ノ自由主義ノ運動ニ対シテ同情ヲ有スルヲ以テ干涉ヲ行フヲ欲セサリキ、而シテ *Howells* 等ハ当時穩健ナル政策ヲ行フコトニ苦心シ人民ノ意響ニモトルコトヲナスヲ欲セスコトニ於テ必ニ於テ國論ノ一致ヲ欠ケリ。

強國中干涉ニ最モ反対ナルハ英ナリトス、当時ハ西ニ属スル南アメリカノ植民地ノ独立運動ニヨリ西ノ旧植民制度ノ貿易制度カ自ラ解ケテ益高ノ擴張ヲ行フヲ得タルヲ悦フオリナリシカハ西國ノ本國ニ干涉シテ本國ノ主權ヲ援助スルコトカ南接ニ南アメリカノ独立運動ノ防害トナリ從ツテ貿易ノ制限ノ復活スルノ惧レヲ生センコトヲ慮リテ干涉ノ西ニ対シテ行ハルルヲ欲セス、英ハ又仏カ西ニ対シテ干涉ヲ行ヒ成功ヲ博シテ彼西ニ於テ界カヲ振フニ至ランコトヲ慮レタリ。

一八二〇年五月英政府ハ外國ノ政変ノタメニ國內ニ直接急迫ノ危害ヲ蒙ルヘキ場合ヲ除キテハ外國ノ内治ニ干涉スルヲ正当トスヘキ場合アルヲ認メストナス主意ノ公文ヲ發セリ、コレ *Ag. non intervention* 非干涉ノ原則ヲ闡明スルモノナリ (non intervention)

如斯干涉ニテスレ諸國ノ意見カ一致ヲ得サルニ至リ時日空シテ遷延セリ、然レ一八二〇年七月ニ「イタリヤ」ノ *Naples* ニモ *Bonifacio* 王家ノ反動的政治ニ対シ革命起リ西國ノ一八一二年ノ憲法ヲ其ノ終施行スルコトヲ王ノ *Ferdinand IV* = 追リコトシ、於テ烟ハ革命運動ノ伊各地ニ蔓延センコトヲ惧ル、ニ至リタリ、國會議員催ノ議ヲ發議一八二〇年十月ノ本 *Thompson* = 於テ會議カレ「ロシヤ」埃、普ノ三國君主コレニ親臨セリ、英及仏モ其ノ外交官ヲ會議ニ派シ、合議ノ經過ヲ觀察セシメタリ、*Meier* *Thomick* ハ革命ノ主義ニ反対シテ建設サレシ政ノ革命ノ鎮圧ニツキ共同ノ利害ヲ有シ激ノ平和ヲ脅ヤカスヘキ事項ハ衆ツテ會議ヲ組成スル政ノ審議ノ問題タルヘク諸國ハ各々自國內ニ於テ革命ヲ鎮圧スルノ義務ト權利ヲ有スルノミナラス政ノ如何ナル國ニテモ革命起ルコトアレハ其國ノ人民ノ意志ニ反シ時ニハ其ノ國ノ君主ノ意思ニ反スルモ其ノ革命ヲ鎮圧スルタメニ干涉スルノ權利ヲ有スルト同時ニ其ノ義務ヲ有ストナセリ、コレ *Ag. non intervention* 干涉ノ權利ヲ認ムルノ説ナリ、埃、ロシヤ、普ハ *Melton* ノ説ケル干涉ノ原則ヲ正式ニ承認セリ、一八二〇年十一月九日三國ハ叛乱ニ依リ政治上

三三

ノ組織ヲ変更セシ諸國ヲシテ政列國ノ協調ノ利益ヲ受ケル能ハサラシメ其ノ近隣ノ諸國カ之ニ依リ危害ヲ受クルノ惧レアルトキハ己ハヲ得サレハ兵カヲ用フルコトアルヘキヲ宣言セリ。

英ハ一八二〇年十二月及一八二一年一月三回ノ宣言スル原則ヲ論駁シ英政府ノ是認スル能ハサルトコロトナシハ一八二一年二月議會ノ承認ヲ得ル後ニ非サレハ三回ノ宣言ニ對シテ同意ヲ表スル能ハサレヲ述ヘタリ。一八二〇年十二月「ロシヤ」ノ國、普三國君主ハ一ツノ宣言ヲ發シ、列國トシテ「Naples」ノ人民ノ向ノ仲介者ヲラシムルノ名義ニヨリ實際ニ於テ人民ノタメニ自由ヲ拘束サル、Naples」王ノ人民ノ子ヨリ自由ニセントセリ。Naples」王ハ自由主義ノ遵守ヲ誓ヒ且三國ノ君主ヲシテ之レヲ承認セシムヘキノ意ヲ人民ニ對シテ後國ヲ出ツルヲ得タリ。國ヲ商ル、ヤ否ヤNaples」王ハ其ノ誓約及宣言ヲ凡テ取消シ而シテ三國ノ君主ニ對シテ已ヲ復ケテ其ノ專制的地位ヲ回復セシムヘキコトヲ求メタリ。

一八二一年一月「Naples」ニ於テ列國會議開カレタリ。「ロシヤ」ノ國、英ノ君主之レニ親臨シ、「プロシヤ」ノ國、代表者ヲ送りシカ英ノ委員ハ全權ヲ与ヘラレシテ軍ニ會議ノ經過ヲ觀察スルヲメニ會議ニ列セリ。Naples」王モ亦來リ會セリ。仏ハNaples」王ト其ノ人民トノ向ノ會議ハ調停ニ付テスルノ意アリヤ、東歐ノ三國カ兵力的干渉ヲNaples」ニ加フルコトヲ決ムルヲ英、仏ノ代表者ハ會議ニ參列スルコトヲ許スルニ至レリ、當時ステニ五強執政ニ破壞ヲ生セシヲ見ルヘシ、東歐三國ノ君主ハ一八二一年二月Naples」人民ニ對シテ宣言ヲ發シ人民カ若シ三國ノ君主ニ信頼シテ之ニキクニ非サレハ兵ヲ向クヘシトナシ二月擧軍行進ヲ初メ三月ノ初メニハNaples」ニ進入セリ。五月「Ferdinand」王Naples」ニ入り全月下旬「Naples」ニ從ハタリ。

「Naples」ノ國ニ帰ルヤ極端ナル反動的政策ヲ行ヘリ、コレヨリ先一八二一年三月「Piedmont」ニ於テモ革命起レリ、革命黨ハ西國ニ行ハルノ憲法ヲ施行シ擧ニ對シテ開戦スルコトヲセリ。王ハ位ヲ許シ親王國ニアラサリシヲ以テ攝政トナリシCharles Albert」カ一旦憲法ノ實施ヲ宣言セシカ新王Charles Felix」ハ憲法ノ實施ヲミトムルヲ肯ンセサリキ、三強國ハ「Piedmont」ノ革命ヲ抑圧セントシ擧軍先ツ進ミ「ロシヤ」ノ軍次イテ至

ラントセリ、革命軍ハ *Moravia* = 於テ埃軍又エノ軍ト会戦シテ破ラレタ
 リ、於是 *Pis*、革命ニ終リテ告ケ埃ノ勢力益々弱クハレリ、
 コノトキニ *Freese* 人民土耳其ニ反キテ旗ヲ擧ケタリト云フ報導ナリ
 キ、*Müller*、ハ「ロシヤ」帝ニス、ムルニ土耳其政府ヲタスクルコトヲ以
 テシ一ハニ一年五月十二日ノ宣言ニヨリ其ノ形式ノ如何ニ拘ハラズ凡テノ
 革命ヲ否認シ至ル所現在ノ條約ヲ維持スルコトヲ約シ凡ソ国家ノ法律及行
 政ニ対シテ必要ナル革命ヲ施スニハ神ノ意思ニヨリテ其ノ政權ヲ運用スル
 ノ責任ヲ負ヘルモノカ其ノ自由ノ意思ヲ以テ案出セシモノニ非スハナラ
 ストセリ、然ルニ *Reichs* 會議終リシ後「ロシヤ」帝ハ「ロシヤ」人
 カ其ノ公衆看ナル *Freese* 人ノ孤立ニ対シテ有スル至大ノ同情ニ勤メサ
 レ且自身ノ「トルコレ」ニ対スル年末ノ南進ノ企圖ニ促カサレテ土國ト事ヲ
 カマフルニ至リシヨリ埃、「ロシヤ」提擧ニ破綻ヲ生スルニ至レリ (*COU*
P d'Etat)

西國、*Reichsland* 曰ハ革命軍ニ対シテ諸強國ノ援助ヲ求メタリ、
 一八二二年十月ニ *Verona* ノ會議カ開カレタリ、西國ニ干スル干渉問題

カ主ナル議題トナレリ、仏ハ會議ノ初メニ於イテハ能動的態度ヲサケ他國
 ノ意圖ヲウカシ「ハリ」然ルニ仏ヲ代表スル委員ノ一人ナル *Chateaubriand*
Chateaubriand ノ干渉論ハ本國ニ於テ採用サレ遂ニ西國ノ干渉ヲ行フニ決セリ
 (*Montmorency*) *Ch.* 一派ノモ、*Sp.* 事件ニ依リ仏ノ威信ヲ高メ、
 「ロシヤ」ノ様ヲ得テ *Rhein* 方面ニ於ケル自惹的境界ヲ得ルノ目的ヲ達セ
 ヲトセリ、「ロシヤ」帝ハ独リ仏ヲシテ *Sp.* 干渉ノ事ニ従事セシムルヲ不
 可ナリトシテ「ロシヤ」兵ヲ独乙ヲ經由シテ *Piedmont* ニ送ラン
 セリ、然レトモ仏、埃、英、三國ハ共ニ「ロシヤ」軍ノ出征ヲ欲セサルヲ
 以テ事々ナリ、仏軍ガ一八二三年四月 *Sp.* ニ入りテ *Ferdinand III* ガ全年
 六月ニ王位ニ復スルヲ得ルニ至ル、*Sp.* 三ハ其位ニ復スルニ極端ナル反動
 政策ヲ行ヘリ、埃ハ兵カ *Sp.* ニ入ラハ自由行動ヲトルヘシト宣言セル
 ニ終ニ動カザリキ、之レ埃ノ痛痒ヲ感スルハ *Sp.* 本國ニアリト言ハンヨリ
 ハ寧ロ「アメリカ」大陸ニアルモノナレハナリ、仏政府ハコノ出征ノ事ノ
 タメニ國內ノ自由党ト断ツニ至リ一八三〇年ノ革命ヲ致スノ一原因ヲツク
 レルカ外國ニ對シテハ其ノ威信ヲ高メタルナリ、「ロシヤ」帝ハ東方問題

二 閣シテ英埃ニ当ルタメニ仏ニ近ツカント欲セリ、然レトモ仏ノ欲スルカ
如ク正式ノ同盟條約ヲ結ンテ仏ヲシテ *Rheine*ノ左岸スハ其他ノ土地ヲ得
セシムルノ約ヲ結フ事ヲ欲セザリキ。

東政ノ三君主ハ *Sp.* 本土ノ干渉ヲ以テ満足セスシテ *Sp.* ヨリ独立セン
トスル南アメリカノ *Sp.* 領殖民地ノ独立運動ニ干渉スルノ企圖ヲナセリ。
当時英ニ於テハ一八一一年以來 *Carmining* 政局ニ當リ *Sp.* 本土ノ干渉ノオ
リ反対ヲ表セシカコトニ至リ歐大陸ノ強國ノ南アメリカニ對スル干渉
ノ企圖カクシギ英ノ通商上ノ利益ヲ全フセント欲シ合衆國ト談判ヲナシ

Carmining ノ提議カ *Motive* トナリテ *Monroe Declaration* 宣言ヲ
見ルニ至レリ。 *Carmining* ノ提議ハ英及合衆國カ共同ノ宣言ヲナシ西國カ自
ラ南アメリカカレノ *Sp.* 領殖民地ヲ獲得スルコトヲ未メサルト同時ニ他
國ノ之ヲ獲得スルヲ黙視スル能ハサルコトヲ言明セントスルニアリキ。之
ハ英及合衆國ノ間ニ了解 (*Entent*, *Under Standing*) ノ有スルコトヲ公
ニ示シテ東政三國ノ反動的干渉政策ニアタラントセリ。合衆國ノ政府ハ英
南アメリカ諸共和國ノ独立ノ承認ヲナスヲ以テ共同宣言ヲナスノ條件ト

ナセリ。

英ハ當時尚ホ孤立ノ美認ヲ行ヒテ正面ヨリ東政三國ヲ敵トスルヲ欲セザ
リキ。於是合衆國ハ單独ニ *Sp. Monroe* 主義宣言ヲナスニ至レリ。合
衆國ノ *Sp.* 主義宣言ノ後英ハ一八一八年四月ノ十月ニ *Argentina* 共和國
ト通商條約ヲ結ビテ一八一五年一月一日 *Sp.* 領諸植民地ノ独立ノ美認ヲ象
表スルニ至レリ。 *Sp.* 主義ノ宣言及ヒ英ノ南アメリカ諸國独立美認
ハ東政三國カ革命的精神ヲ鼓舞スルノ結果ヲ生スヘシトシテ抗議セルトコ
ロニシテ之レニヨリテ政教調ノ名ニ依リ東政三國カ行ハントスル反動的干
渉政策ハ大打撃ヲ受ケコトニ以後反動的共同干渉政策ヲ目的トスル列國會議
ノ開催セラル。事ナク政教調ハ殆ント常設的ナル制度トシテ最早存在セザ
ルニ至レリ。 *Carmining* カ嘗テ誇リテ曰ク、吾人ハ旧世界ノ均衡ヲ回復ス
ルカタメニ新世界ヲ招メタリ。

*We called in the New world to redress the
balance of the world (We called the new world
in existence to — 一カ初メノ文字ナリシモ後上ノ如ク改メタリ)*

Monroe 主義ハ合衆国大統領 Monroe カ一八二三年十二月二日 Message (教皇)中ニ於テ宣言セルトコロナリ、*Mr. D.* 宣言ハ三矣、宣言ニ包含ス。

第一、米向大陸ハソノ已ニ取得シ且ツ維持シ来リタル自由且ツ独立ナル状態ニ鑑ミテ最早政強国ノ新タニ植民地ヲ開クハキ土地トシテ考慮セラレサルコトヲ合衆国ノ権利利益ニ干スル一ツノ主致トシテ宣言スルコト。
第二、政同盟諸国カ合衆国ノトル所ト異レル政治組織ヲ米大陸ニ及ホシ凡テニ独立ノ実ヲ举ケ且ツ合衆国ノ利益ノ上正当ナル原則ニヨリテ独立ノ承認ヲ行ヒタル米大陸諸国ヲ抑圧シヌハ其他ノ方法ニヨリ其ノ運命ヲ支配スルタメニ之ニ干与スルハ合衆国人ノ平和及安全ニ対シテ危害ヲ与フルモノナリ、之等ノ干与ヲ目スルニ合衆国ニ対スル非友誼的意圖ノ表示ヲ以テ

Manifestation of unfriendly disposition for the U. S. 国際法違反トスフニスハシ、合衆国ハ之レヲ黙視スルヲ得サルナリ、但シ合衆国ハ現在政諸国ノ植民地及属領地ニ干渉セサルコト、
第三、合衆国民ハ政諸国ノ紛議ニ干与セシコトナク亦之ニ干與スルコトハ

合衆国民ノ政策ト一致セサルナリ。

Mr. D. 第一ノ宣言ハ当時「ロシヤ」ノ米大陸ノ西北部ニ干シテナセル主張ト干係スルコトアリ、当時「ロシヤ」ハ *Alaska* 地方カ北緯五十一度ニ至ルマテ「ロシヤ」領ニ属ストナシテ亦其ノ南方ノ土地モ亦何四、五領ヲモ存セサルノ故ヲ以テ「ロシヤ」カ之ニ植民スルノ権利アリトナセリ、

Mr. D. 第二ノ宣言ハ政大陸強国ノ共同の干渉政策ニ對抗スルノ莫ニ關係シ当時最モ重要視サレシ莫ナリ、

第三ノ宣言ハ *Washington* カ告別演説 *Fanevell address* 中ニ於テ述ハシ主義ヲ反覆セルモノニ外ナラス。

Mr. D. 要點ハ *America* 大陸ヨリ政ノ勢力ヲ排除セントスル第一及第二ノ宣言ニアリ、
「アメリカ」ニ於テ第三ノ莫ニツキテハ政ニモ干渉シ、太平洋「ハワイ」、*Philippine*、*Caracas* 等ニ干渉ヲ行ハレタリ、

Sp. カ *Portugal* ノ内事ニ干渉シテ其ノ專制君主党ナル *Dom Miguel* ヲ助ケントスルニ異ハ一時軍隊ヲ *P.* ニ送レリ、是レ外國ノ

不法ナル干渉ヲ排除スルタメニスル *eg. Contra intervention*
 ナリトシテ *eg. 非干渉ノ原則ノ例外ヲナスモノトシテ非干渉ナルノ如キナリ。*
 植民地タル *Brazil* ハ英ノ勢力ニ依リ別個ノ帝國トナレリ。一八二〇
 年ニ於ケル *P. 本國ノ革命及ヒ一八二二年 Brazil 独立運動ナリ。P.*
 王ノ長子 *Leona Pedro* カ *Brazil* 帝トナリ一八二五年ニ至リ *P. 本*
 國カ *Brazil* ノ独立ヲ承認スルニ至レリ (英ノ制海權ノ結果ナリ)
 世人ヲ謀リテ神聖同盟ノ活動トナセル *eg. Directorate* ハ政權
 初メノ現象ニシテ一八一四年及一八一五年ノ *Paris* 條約及 *Vienna*
 條約ノ維持ヲ固リ漸ク反動的干渉政策ヲトルニ至リシカ種々ノ原因ニヨリ
 崩壊スルニ至レリソノ原因ノ重要ナルモノヲ挙ケレハ次ノ如シ。
 (1) 英カ西國干渉事件及南米独立事件ニ於テ非干渉ノ原則ヲ唱へ他ノ強國
 ノ反動的干渉政策ニ与カラサルニ至レリ
 (2) 合衆國カ *McC. 主義* ノ宣言ヲナシ東歐ニ召喚國ノ米大陸ノ *Sp. 領土*
 民地ノ独立ニ干渉セントスル共同の干渉政策ニ對シ外部ヨリ打撃ヲ加へ
 タルコト。

(3) 神聖同盟ノ發起者ニシテ *Muternich* ト共ニ反動的干渉政策ノ主
 張者トナルニ至レル「ロシヤ」*Alexander I.* 死シテ *Nicolas I.*
 代リタチ「ロシヤ」ノ政策カ変更ヲウケ、獨ト共同スル政策ヲ樹テルコ
 ト。

(4) *Greece* 独立ニ際シ「ロシヤ」、獨ノ利害衝突セシコト及 *Greece*
 獨立ノ結果トシテ主トシテ正統主義ニ基キタル政組織ニ改定ヲ生セルコ
 ト。

(5) 一八三〇年七月革命ハ *Vienna* 條約ニヨリ担保ヲ受ケタル *S. g.*
 正統君主ヲシテ位ヲ失ハシメ且ツ自國ノ獨立ハ *Netherland* 三國ヲ
 ニ分シテ *Vienna* 條約ノ議定セル政組織ニ直接ノ変更ヲ加ヘシコト。
 合衆國ノ国力漸ク充塞シ國民カ自信カヲ感シ且帝國主義的思想カ密ニナ
 ルヲ致セルヨリ *M. D.* ハ擴張的ノ解脫ヲウケ現時コノ主義ノモトニ主張
 サル、所ニヨレハ米大陸以外ノ諸國カ米大陸諸國ノ内治外交ニ干渉シ強カ
 ニヨリ之レニ對シテ政治的支配ヲ行フニ至ルコトヲ禁止セントシ (*Napa*
Leon 目カメキシコトニ干渉セルトキ抗議ヲナス) 又米大陸以外ノ強國ノ米

大陸ニ於テ先占・保合 (Cession) 割譲等ニヨリテ土地ノ新タル獲得
 ナシ又ハ米大陸ニ於テ保護關係ヲ設定スルコトヲ強圧セントスルノミナ
 ラズ米大陸以外ノ強國カ米大陸ノ一國トノ間ノ紛議ノ強制的處理ノ為メニ
 一時的ニ米大陸ノ土地ヲ占領スルコトヲモ 敏視スルニ至ラントシ、而シテ
 米大陸カ將來ニ於テ自然米人ニ屬スル時期ノ至ルヲ期待ストナセリ (Pro-
 nounced Message 及國務卿 High, 報告書ニアリ) 而シテ米大陸ノ諸國就
 中 Mexico 海及 Caribbean 海ニソシ又ハ Panama 地峽地方ニ
 近接スル土地ニ関シテハ或ハ政ノ勢力ノ入ルヲ豫防スルノ名義ヲ以テ他ノ
 米大陸ノ一國ニ屬スル土地ヲ合セズハ之ヲ合セント試ミ (Texas ヲツキ
 又 Yucatan ヲツキテ然リ) 又ハ國土ノ連続統一ヲ全フスルタメニ必要ナ
 ルコト又ハ政強國ニ讓渡サレントスルヲ妨クルカタメニ必要ナルコトヲ理由
 トシテ政ノ一國ノ所領ナル土地ヲ合セントシ (St. Cuba ヲツキ Adams
 カナス) 又之等ノ政ノ國ノ所領ノ内治ニ関シテ干渉ヲナシ終ニ戰爭ヲ起シテ
 之ヲ政ノ一國ノ手ヨリ奪シテ自己ノ勢力ノモトニ立タシムルニ至リ (Car-
 ibbea ノタメニ西國ト戦フ) 又米大陸ノ一國ト政強國ノ植民地トノ間ノ境界

ノ紛議ニ干渉シ合衆國カ論議ノ真相ヲ研究スルタメニ合衆國內ニ委員會ヲ
 組織シソノ政強國ノ主張ヲ過大ナリト判断スル場合ニハ合衆國ハ實力ヲ以
 テ及対スルコトアルヘキヲ説クニ至リ (Venezuela 境界問題ニ関シテ大
 統領 Cleveland 之 Message 中ニアリ) 又米大陸ノ一國カ政強國ノ
 メニ強力的手段ヲ受クルニ當リテ之ニ関英シ紛議ノ解決ヲ計レリ(之ニニ
 方法アリ、一八一九〇三年英・独西國 封鎖セントキ、如キ巴ノ國ノ
 代表者ヲシテ紛議ニ關係スル米ノ一國ノ代表者トシテ談判セシム、他ハ議
 定書ノ履行ニ対スル独・伊ノ如キ米國 Venice ト談判ス) 又米大陸ノ政強
 國ト戦端ヲ生スルコトヲ豫防スル名義ヲ以テソノ内政ニ関英シ、就中財政
 的保護關係ヲ設定スルニ至リ (San Domingo, Honduras, Nicaragua
 Carriaga) 又ハ米大陸ノ諸國間ノ紛議ニ干渉スルニ至リ(一八八一年
 「チリ」・「バル」間ノ紛議「チリ」カ「バル」ノ一部ヲ合セントセ
 シニ対シ合衆國干渉ス) Balina 又ハ米大陸内ノ諸國ノ国内ノ擾乱カ政
 強國ノ干渉ヲ誘致シ又一八六〇年十二月ノ Message ノ中大統領 Blair
 Chaman 秩序回復ノタメ Mexico 干渉ノ必要アルヲ主張ス、合衆國

ノトモ政治ノ主義ト反シテ起サレシ際之レカ決定ニ干与スルニヨリ一
 八九三年ヨリ一八九四年 Brazil ニ於テ帝政黨ノ復古運動ノトキ帝政黨
 ノ海軍ニ勢力アリテ封鎖セントスルニ米大陸ノ中央ノ地狭ヲ賣キテ太平
 洋ト大西洋トニ連絡スヘキ線ヲ交通路ハ合衆國ノ監督支配ノモトニ屬ス
 ヘキコトヲ主張スルニ至レリ (Cayton-Bulwer 条約一九〇一年ニ
 Hay-Panama Canal Treaty, Panama 運河ニ関シ) 運河地
 方ニ付シ合衆國ノ利益ヲ伸張スルタメニ等地方ノ内訌ニ干与スルニヨリ一
 一九〇三年 Panama カ Colombia ヨリ独立スル際ニ而シテ終ニハ
 米大國ノ港津ヨリ其他ノ地矣ヲ米大陸以外ノ強國政府ト密接ナル干係ヲ有
 スル会社ノ専有ニ帰セシムルニ及ビシ一八九一年 Judge / Reader-
 tion Magdalena 灣ニテ日本ノ会社カ漁業權ヲ得タリトテ及ビシ
 農後ノ兵ニ干係アル Judge ノ決議左ノ如シ
 米大陸ノ港又ハ其ノ他ノ地矣ニシテ之ヲ陸海軍ノ目的ノタメニ占領スル
 コトカ合衆國ノ交通及安全ヲ脅威スヘキ地位ニアルモノヲ米大陸以外ノ政
 府ト密接ノ關係ヲ有シ實際上ノ陸海軍ノ目的ノタメニ之ヲ支配スル權カヲ

其ノ政府ニ確カムレニ至ルヘキ法人又ハ組合ノ占有ニ帰スルニ對シテ合衆
 國ハ之ヲ監視スルヲ得スト云フナリ

Mc. D. ハ合衆國ノ政策上ノ一ツノ方針ナリ、兩大陸ノ政治上ノ隔離ヲ主
 トスルモノナルカ或ハ之レヲ國際法上ノ一ツノ原則ナリト論スルモノアリ
 (Bonguet 境界問題ヲヤカマシキ Cluney カ倫敦ニテノ訓令中國
 際法ナリト云フ)

Mc. D. ノ第一兵ノ宣言ハ之ヲ恒久の原則トシテ見レハ米大陸ノ諸國ニ對
 シテ政治上ノ獨立ノ既得權ヲ広ク認メテ國際法ノ普通ノ原則ニヨリ戰爭ノ
 結果滅亡スル如キヲモ認メサラントスルモノニシテ又第二兵ノ宣言ハ米大
 陸以外ノ國家ノ國際法上當然モツテ居ルヘキ先占ノ權又ハ領土權ヲ侵蝕
 スルコトノ權取ヲ否認セントシ又 Mc. D. ノ權取セル辭句ニヨレハ米大陸
 以外ノ國カ米大陸ニ於テ軍中占領ヲ行フノ國際法上ノ權取ヲ否認セント
 スルモノナルヲ以テ國際法上ノ原則ニ對スル例外ヲ特ニ米大陸ニ對シテ主
 張セントスルモノナルモ斯ノ如キ例外カ國際法上明カニ認メラレタリトス
 フノ根拠ヲ有セス、或ハ Mc. D. ハ自衛權ヲ基礎トシ自衛權ハ國際法上當然

当然存在スレノ故ヲ以テ *M. D.* ノ諸主張カ國際法上確立セルヲ説クモノ
アト窮迫ナル危害ノ存スル緊急ノ場合ニ於テ初メテ存スヘキ自衛権ノ観
念ハ *M. D.* ノモノト主張セラル、如キ諸主張ヲ含ムコトヲ得サルハ云フ
ヲ俟タス。

M. D. ハ第一平和會議ノ折衝保サレ又國際聯盟規約中ニ之ウ留保トシ
テ鮮シ得ヘキ明文ヲ存スルナリ、今日尚ホ國際法ノ例外的規則カ明カニ認
メラレタリト論スルヲ得ス、然レトモ合衆國ニ於テハ其ノ政策上ノ方針ト
シテ殆ント固是 *Stata maritime* タルノ地位ヲ認メラレ他國ノ政治
家モ之ヲ希冀トシテ認ムルノ已ムヲ得サルヲ説ルモノ少ナカラス（殊ニ英
ニ多シ）、合衆國カ元来ノ *M. D.* ノ宣言ノ一部タル政大徳ノ帯ニ関與セサ
ルノ原則ヲ守ラサルニ至リシモ尚ホ合衆國ノ國是トシテ米大陸ニ他ノ大陸
ノ勢力ヲ容レサラントスル *M. D.* ノ最モ重キヲ置カレオル主張ハ依然
今日ニ於テ斷之レヲ主張セントスルノ事實ヲ見逃スヲ得ス。

M. D. ハ今日ニ於テモ尚合衆國ノ實力ニ依リ維持セラル、政策上ノ方
針トシテ現存スルコトヲ認メサルヲ得ス。

M. D. カ主トシテ適用サル、範圍カ米大陸中ノ *Mexico* 灣及 *Califor-*
nia 海ニ面スル地方又ハ *Panama* 地峽ニ近接スル地方ニ其ノ範圍ニ限
シテ居ルコトハ注意スヘキコトナリ。

M. D. ハ元来政治上ニ於ケル歐米兩大陸ノ高層ヲ主旨トセルモ合衆國カ
米大陸ニ於テ特殊優勝ノ地位ヲ有スル觀念カ之ニ含マル、ニ至レリ、*Ver-*
aguels 境界事件（英トオリー四河ニ関シ）ノ折衝發長官 *Olney* ノ
訓令中ニ於テ今日合衆國ハ實際ニ於テ米大陸ニ最高權ヲ振ヒソノ邊ニテテ
涉ヲ行ハル事項ニ関スル合衆國ノ意思ハ即チ法ナリト云ヘリ。

Today the U. S. is practically sovereign on the
continent and its fiat is law upon the subject
to which it confines its interposition.

而シテ前大統領 *Wilson* カ米國ノ如何ナル國ニ於テモ參政权アル人民
ノ多数ニヨル適當ニ表示サレタル後援ヲウクル人ニ非サレハ合衆國ハ立憲
的君主トシテ之レヲ承認セストシ若シ或ル場合ニ於テ此ノ主義ノ適用ヲ確
カムルモノ兵力ニヨラサルハカラサルトキハ止ムヲ得サレハ之レヲ用フル

ヲ辞セストナスニ至リテハコレ合衆國カ立憲主義ノタメニ米大陸ノ他國ノ内地ニ干渉スルヲ主張スルニ至リシモノナリ。(Hq. 新モンロー主義) ウイルソン主義ト云ヒ。是レ Mexico = 干シ Intervention カ立憲主義ニカナワスシテ公ノ交通ヲナサ、リヤ)。然レトモ近年ニ於テ米大陸ノ南米諸國殊ニ南米ノ ^{Arg. Br. Sp.} 諸國ニ國カ合衆國ノ米大陸ニ於ケル霸權的地位ヲ主張スルコトニ強ク反對スルノ傾向アルヨリ M. D. = 於ケル合衆國ノ特殊ノ地位ヲ高調スルコトヲサケ M. D. ヲ以テ米大陸共同ノ主義ト辯スルコトヲ主張スルノ傾向ヲ生セリ。

Greece ノ独立。一八二〇年一八三〇年ニ至ル間ニ歐ノ南方ノ三半島ニ於テ (Balkan, Apennine, Iberia) 擾攘アリ。Spain, Italy ノ半島ハ主トシテ自由運動ニ兆シ。Muttermick ノ反動的政策ニ鎮圧セラレタリ。

然ルニ Greece ノ騷動ハ專ラ國民的獨立ノ運動ニ兆シ Mette. ノ干渉政策ノ蹉跌スル一ツノ動機トナレリ。十九世紀ノ初メ Balkan 半島ニ於テ土耳其人ト人種宗教風俗慣習ヲ異ニスル Greece ヲ Serbia (

スラブ人) Bulgaria (Mongol, Slavonian) ナリキ。スラブ人トノ區別ツカス雜管ス) ス Romania (Latin) 人等アリ尚ホ土耳其ノ統治ノモトニ立チキ。十九世紀ノ初メヨリコレ等人民ハ土耳其ノ統治ヲ脱スルノ運動ヲナサントセリ。然ルニ一方ニ於テハ Russia ハ「ロシア」人ト合衆教ナルトルコ領内ノヤソ教徒ノ獨立運動ヲ助テヲ以テ勢カヲ以テ勢カヲ土耳其方面ニヒロメ地中海ニ出ツルノ計畫ヲトケンヤセリ。Greece 人ハ一ハ一ニ「ロシア」ノ助ケニヨリトルコヨリ獨立セントスル計畫ヲナセリ。「ロシア」ハ在米 Balkan 半島ノ諸人民ノ民族的獨立ノ運動ヲ封助セシキ Haidack ノ列國會議ニ於テロシア帝カ Mett. ノ言ヲ容レテ凡テノ革命ヲ否認スルノ宣言ニ調印セルヨリ。Greece 人ニ於テシテ援助ヲ与ヘサルノ方針ヲトレリ。然ルニ土耳其カ「ヤソ」教徒ヲ虐フル事甚シキヲ以テ「ロシア」ニ於テ「ハ」ロシア」人ト合衆教ナル Greece 人ニ對スル同情盛ニシテ「ロシア」ハ「ヤソ」教會ノ保護ニ関スル一七七四年ノ Kristininko Karmazki 條約ノ一ツノ條款ヲ根拠トシテ土耳其ニ干渉ヲナスニ至レリ。Mett. ハ Greece ノ獨立運動ト「ロシア」

ノ干渉問題トナリ別問題トナサシメ「ロシヤ」ノ干渉問題ニ関シテハ「ロシヤ」ニ満足ヲ与フルコトヲ土耳其ニス、メ *Greece* ノ擾乱ニ関シテハ「ロシヤ」マレヲシテ之レヲ助クルコトナカラシメテ以テソノ正統主義的政策ヲ維持セントセリ、一八二二年ニ *Greece* ノ南部ノ革命運動サカントナリ叛徒ハ事实上ノ政府ヲ組織セリ、然ルニ當時政諸国ノ人民ノ *Greece* 独立ニ対スル同情漸ク盛ントナリ、殊ニ英仏ニテ盛ンナリキ(歴史上ヨリ宗教上ヨリ又 *Slav* ノ勇氣ニ同情シ英ノ *Bagration* 等ラステ、*Slav* ニヨリ戦ハリ) 英ハ主トシテ印度ニ連スルノ道路ヲ保護スルノ必要上「ロシヤ」ノ南進ヲオソレ抑ト共ニ「ロシヤ」ニ対シテ土耳其ノ領土ヲ保全スルノ政策ヲトルルカ英ノ国民ノ *Greece* 人ニ対スル同情盛ナルニ至リ且ツ到底抑圧シ難キ *Slav* 新立国ニ加ハルニ至ランコトヲオソレ當時外務ノ局ニ當レレ *Lanning* 一八二四年ノ九月末ニ已ニ交戦団体トシテ *Slav* ノ事实上ノ政府ヲ承認スルノ知置ヲトリシカ全年十一月ニ至リ *Slav* ノ事实上ノ政府ニ対シテ非公式ノ交渉ヲ行フニ至レリ、一八二四年ノ初メ「ロシヤ」帝ハ英ノ勢力カ *Slav* ニ加ハ

ランコトヲオソレ *Slav* ヲ三分シテ其ノ各々ヲ自治ノ権利ヲ有スル土耳其ノ属国トナスノ目的ヲ以テ列国ノ聯合的干渉ヲナスノ提議ヲナスニ至レリ、此ノ提議ハ *Slav* 人ニ其ノ独立ノ実ヲ全フスルコトヲ認めサルノ英ヨリ之ニ満足セサルトコロニシテ土耳其モ亦其ノ分割ノ策地ヲ認ムルノ英ヨリ之レヲ懐レリ、一八二五年二月ヨリ「ロシヤ」ノ都 *St. Petersburg* ニ於テ列国會議開カレ「ロシヤ」ハ土耳其及 *Slav* ニ休戦ヲナサシメ列国ノ調停ヲ仰カシメキカサレハ之ニ対シテ更ニ共同的ニ強制ノ手段ヲ施サント主張セリ、會議ニ於テ議定書出来シカコノ議定書ハ単ニニ政府ニ其ノ自由意思ヲ以テ叛徒ノ要求ヲ入ルヘキコトヲ勸告シ土カ勸告ヲ拒絶セハ各々單獨ニ調停ノ申込ヲナスニ止ム、「ロシヤ」帝カ更ニ四月中旬 *Slav* ニ干渉ヲ共同的的ニ加ヘレノ提議ヲナセリ、然レトモ其ノ効ナカリキ、一八二五年ノ八月ニ *Slav* ハ英ノ保護ニ依頼スルノ態度ヲトルニ至レリ、コノ頃ヨリ「ロシヤ」ハ列国ト共同ノ政策ヲトルコトノ單ニ自己ノ行動ノ拘束ヲ受クルニ由マルコトヲ見テ遂ニ東方問題ニツキテ他国ト共同ノ政策ヲトラスシテ行動ノ自由ヲ留保スヘキコトヲ宣言スルニ至レリ、而シテ漸ク英ニ近ツカント

スレノ傾向ヲ示セリ。

一八二五年ノ十二月一日「ロシア」帝 Alexander 死シ Nicholas I. 王ニ及ヒ一八二六年四月四日英、「ロシア」西国間ニ協定ヲナシ「ロシア」ハ英力ヲ以テ土耳其帝ノ下ニ自治ノ屬國トナシ、ソノ君主ヲ自ら選定シテ土耳其帝ノ認可ヲ受ケルニ止メシメントセリ、コノ協定「ロシア」ハ新協定ト稱スル、ニ至リ Mett. ノ保守的、原動的政策ハ大打撃ヲウケ十九世紀ノ初メニ於ケル歐州ニ破壊ヲ生セリ、「ロシア」土耳其間ノ G. 以外ニ干渉スル紛議 (Moultan Princely) 「皇國」ニ干スルモノ) 一八二六年十月、Peterman ノ條約ニ依リ解決サレ Malabar, Malakka 及 Sertia ノ自治ノ特権ニシキテ約束シ「ロシア」ハ「自由等」ニシキテ約束ヲナセリ、土耳其帝カ埃岸ノ使節ヲウケテ G. 一対シテ英、「ロシア」ノ主張ヲ容レサルモノ一八二七年七月ニ英仏「ロシア」ニ同盟ニ先ノ英、「ロシア」ノ協定ヲ基礎トシテ倫敦條約結ハレタリ、之ニ

ヨリ三國ハ共同的ニ調停ヲイレ土耳其カ調停ヲキカサレハ戦争ヲヤメシムルニ必要ナル手段ヲトルノ事コトヲ約セリ、「トルコ」帝ハ調停ヲキカスシテ Egypt 総督 Mohamed Ali 一 G. 半島ノ征伐ヲ命セリ、G. 軍力 G. 一ニ向ノリ、英仏露ノ三國ハ休戦ヲナサシメントセシカ G. 一ニアル土耳其 G. 一聯合艦隊カ其ノ根拠地 Karamit ヲ占ル、ラ青セサリシヨリ一八二七年十一月二十日 G. 一ニ於テ土耳其 G. 一艦隊殆ント全滅セシメタリ、之ヨリサキ Mett. ハ土耳其ヲシテ三國トノ紛議ニシキテ埃ノ調停ヲ求メシメタルカ、ロマノフ Mett. ノコトノ起レルカタメニ Mett. ノ外交上ノ行動ハ強欲セリ、然ルニ英ニ於テハ土耳其ト開戦スルヲ欲セス(英内閣長官 Wellington 等ニ移リ保守党トナリ、土耳其ヲ弱ラセハ「ロシア」カ南下スル故欲セス)「ロシア」ハ戦端ヲ開キ(ニコラス一世「英邁果斷」)仏ノ Mett. 半島ニ兵ヲ入ラシメ占領ヲナセシ占領地ヲ英、仏、露三國ノ保護ノ下ニ置クコトヲ宣言シ、茲ニ於テ事実上 G. 一ノ利益確ノナルニ至レリ、「ロシア」ハ英ト條約ヲ結ハルカ又仏ト談判ス「ロシア」土耳其ノ戰爭中露、仏同盟ノ談判アリキ、仏ハ「ロシア」レノ援助ニヨリ東方ノ

自然的境界ヲ広メラルヲ得ハ「ロシヤ」土耳其間ノ戦争一際シ軍備ヲナシ「ロシヤ」ノ側面ヲ襲ハントスル虞ニ対シテ「ロシヤ」ノ後援ヲナスハ「メコト」ヲ提議セリ、然レ「Prussia」王モ当時ハ漸ク「mett」ノ政策ノ動向ヨリ睨シ「ロシヤ」ニ近シクシテ「露」ニ對シテ「露」ノ談判中ハ「粗大」ノ利益ヲ得ルヲ提議セリ、之レニヨリ「露」自ラ自國「Luxemburg」ヲ取リ「東」境ヲ「Rhein」マテ「ロシヤ」ヨシテ「Malakka」War「Lebia」ヲトシシメ、普國ヨシテ「Saxony」及「Dolland」ヲトシシメ、和蘭王ヲ以テ「Constantinople」ニ王ヲラシメ、ヲズレニ屬セシメ、東ヨシテ「Boaria」, «Idagegorina», «Palnatic» ヲトシシメ、英ヲシテ和蘭ノ殖民地ヲ併セシメ、地中海ヨリ「Africa」ノ土地ニ独立ノ國ヲ建ツハシトセリ、然レ其ノ間ニ露土間ノ戦争進行シ「Adriano」一「Isle」ノ捕和成リ、仏ノ提議ハ実行シ得サルニ至レリ（後ニ仏ハ「Algeria」ニ連セルトキ「ロシヤ」ニ後援セリ）、「ロシヤ」土耳其間ノ戦争ニ於テ露軍ヲ援テ土耳其ノ土地ニメリテ終ニ「Adriano」ニ歸セリ、英ハ「ロシヤ」軍カ「Constantinople」ニ近シクアラ見ソ、艦隊ヲシテ「Malakka」海ニメラシ

メタリ、露土戦争ハ延テ英「ロシヤ」ノ戦争ヲ惹起セントスル形勢アリキ、普王ハ「ロシヤ」帝ノ請求ニヨリ「ロシヤ」ノ「トルコ」ノ間ニ立キテ「Adriano」條約ヲ結ハシメタリ、一八二九年九月十四日「Adriano」條約ニヨリテ「ロシヤ」帝ハ政ニ於テ「ロシヤ」軍ノ略取セル土耳其ノ領土ヨリ「Klanule」地方ヲ除クノ外ハ「トルコ」帝ニカハセルモ「Asia」ニ於テ數多ノ城砦ヲ保有セリ、又「Malakka」, «Wall» 及 «Serbia» 等ノ «Kranubian» «Principa» «Litie» (沿岸國) ノ自治ノ权カヲ広ムルコトヲ約セシメ、「ロシヤ」ノ國民ハ金ト「トルコ」帝國及黑海ニ於テ自由ニ貿易ヲ營ムノ权利ヲ得、又 «Kardakule» 及 «Berkovics» 海峡ヨリ「ロシヤ」及其他ノ國「トルコ」ノ和親國 «Principality» «Power» ノ船舶ニ自由ニ通行スルコトヲタシカシテ約束セリ、「トルコ」ハ「ロシヤ」ニ對シ巨額ノ償金（一億三千七百万）ヲ払フヘク其ノ金額ノ支払ヲ終ルマテハ「ロシヤ」軍カ «Malakka» «W.» 及 «Bulgaria» ヲ占領スルヘキコトヲ約セリ、又 «Greece» 申付ニ因シテ «Adriano» 條約ニ於テ土耳其カ全然英「ロシヤ」仏ノ三國協定ノ趣意ヲ認メ、ヲ以テ「トルコ」ニ納貢スル立憲君主國トナシ英、仏、露以外ノ「マ」ノ教國ノ王教ヨリ其ノ

君主ヲ英仏露三國カ選定シテ土耳其ノ承認ヲ受ケシムルコトヲ認ムルニ至
 レリ。然ルニ一八二九年十月ニ至リ London 會議ニ於テ G. 土耳其間ニ
 金ク從屬ノ干渉ヲセメシムヘキコトヲ議決セリ。之ハ英仏兩國カ「ロシア」
 ノ土耳其ニ對スル干渉ノ口實ヲ減少セント欲スルニヨルナリ。「ロシア」
 「トルコ」戰爭ハ G. 向來ニ影響シ G. 其ノ戰爭ノ結果ト「トルコ」ノ
 疲弊ト英仏兩國ノ「ロシア」ニ對スル警戒心トノタメニ純然タル獨立國ト
 ナルヲ得タリ。シカルニ「ロシア」カ強盛ニナレルヨリ之レニ對シ列國殊
 ニ英ノ猜疑心ノタメニ「ロシア」ノ勢力ノモトニタツノヲソレアル G.
 カ其ノ領域ヲセマフ認メラル、ニ至レリ。 G. 一八一八三〇年倫敦條約會議
 ノ議定書ニヨリ獨立ヲ認メラレ列國ハ G. ノ立憲王政國タルコトヲ定メタ
 リ。一旦 *Saxe-Weimar*、*Leopold* カ G. 王ニ擬セラレシモ遂
 ニ薛シ *Barbaria* 王ノ第二子、*Otto* 位ニシケリ。一八三六年五月、
London protocol ニヨリ、
Greece ハ其ノ獨立後内部ニ英國黨及仏國黨ノ黨派ヲ生シ相争ヒ一八
 六二年十月 *Otto* 三位ヲ薛シ英ノ *Palmerston* ハ丁林王ノ子 *William*

von Greece ヲ候補者トシテ英國ノ保護國ナル *Serbian* ノ七島共和國
 ヲ之ニ与フルコト、セリ。一八六三年十月 *George* 五位ニシキ之レ今日ノ
Greece 王統ノ始メナリ。
 一八一三〇年ノ頃、*Nestor Nick* ノ勢力地ニ墜テ歐洲大陸ノ
 強國中、*Nestor Nick* ト提携ヲ止メサルハ露、仏、普三國ノシナリ。「ロシア」ト仏ハ英
 國ト相容レシキ之レト及目シシハ「ロシア」ノ「トルコ」方面ニ於ケル
 在國（南下シテ *Constantinople* ニ出ツル）仏ノ植民地擴張ノ意及
 伊方面ニ於ケル企ニ基クコトヲシ、而シテ *Mett*、ノ反動政策カ其ノ勢
 カヲ大ヘルニ伴ヒテ自由主義漸ク勢ヲ得、此ノ時ニ際シ仏ノ七月革命ノ華
 アリ、國際ニ於ケル及動的干渉ノ政策ノ成功時代去リテ自由主義運動ノ行
 代米レリ一八三〇年ノ七月ノ革命ニヨリ仏ニ於テ「ブルボン」ノ擁護ナル
Charles X (*Polignac* 蘇ヤレ *Carleaux* *Louis Philippe*) ノ人民
 ニ擁立セラレテ三下ナレリ。コノ革命ハ仏ニ自然的境界ヲ設メサル一八一
 五年ノ條約（パリ）講和條約ト「ウイン」會議ノ決議ヲ合ム）及人民ニ
 充分ナル政權ヲミトメサル *Louis XIV*、*Charles* 憲章ニ對スル仏人ノ不

滿・胚胎シ「ウイン」會議ニテ列國ノ担保セル「ブルボン」ニ正統石主ノ地位カ動カサリシモノナレトモ列國ハ遂ニ干渉ノ筈ニ出テスシテ止メリ
コノ革命ノ影響ハ白、ポロランド、独、英、スイス等ノ諸國ニ及ヒ就中白
國ニ於テハ和ニ対スル独立ノ運動トシテ現ハレタリ、(其ノ人種言語「*Slav-
onic*」ヲ異ニシ宗教モ白ハ *Catholic* 和ハ新、和ハ商業、白ハ工業) 仏
人ハ白ノ独立運動ニ同情ヲヨセ之レヲ助ケテ仏ノ勢力ヲ益ニ扶植セントセ
シカ東欧ニ國ハ革命運動ヲ鎮圧セリ、故ニ於テ *W.* 運動ニテ一旦高レシ、
「ロシヤ」ニ相相近クニ至レリ、尔来「ロシヤ」ハ「ポロランド」革命運動ニ
牽制セラレ壞ハ伊ノ革命運動ニ牽制セラレ「プロシヤ」ハヒトリ兵ヲ動か
サントセシカ仏カ普軍カ東ヨリ白ニ入ラハ仏軍ハ又西ヨリ白ニ入ルハシト
宣言セルヲ以テ普ハ仏ヲ憚リテ敢テ動かサリキ、仏ノ *Radical* 急進党
Socialiste 内閣ノ時仏入カ盛ンテ白ヲ故フコトヲ唱ヘ且ソ他國ノ革命党ニ
同情ヲ表セルヨリ一時東欧ニ君主國ト仏トノ間ニ危險セマレリ、然ルニ「ポ
ロランド」方ニナ板乱起ルニ及ヒ東欧ノ諸國モ仏トコトヲ懼フルノ不可ナ
レヲ知りテ白ノ独立ヲ認ムルニ至レリ、英モ白ヲ再ヒ和ニ合セシムルコト

ノ行ヒ難キヲ見テ永ク中立國トナス、條件トシテ白ノ独立ヲ認メシヨリ白ハ
主トシテ英仏兩國ノ保護ニヨリ独立ノ實ヲ舉グルヲ得タリ、(*Telegraph*
カ當時大使ニシテ英ヲ説キ「トルクサンブル」ニ仏ノ勢力ヲ扶植セントセ
リ、而カモ英斷シテキカス英仏共同ス)、強國會議ハ一八三一年一月ノ議
定第一八三一年七月ノ *Pg.* 十ハケ條條約及ヒ一八三一年十一月ノ *Pg.* 二十
四ケ條條約(和ノ方ノ考ヲ余程採用ス即チ負債ノ分担 *Guarantiburg* ヲ和
蘭ニカハス)等ニヨリテ其ノ独立ヲ認メ境界ヲ定メ之ヲ永ク中立國トシテ
五強國カ其ノ永ク中立ヲ担保セリ、五強國ハ二度修正ヲシテ定マレル果後
ノ二十四ケ條條約ニ対シ和及白カ承認スルコトヲ拒ムヲ許サ、ルコトヲ定
メタリ、五強國及白ハ此ノ條約ノ批准ヲ承認セシ、和蘭ハ独リ之ニ調印ス
ルコトヲモ拒ミ居リシカ一八三二年十二月和蘭カ英仏ノ干渉ニヨリ *Auto
wape* ノ占領軍ヲ撤シテ後事實上白ノ独立完成セリ、然ルニ白ハ和カ尚
ホ *Schell* (*Grant*) 海岸ノニツノ要塞ニヨレルコトヲ口實トシテ *Lim-
bourg*, *Sachsenburg* ヲ白己ノ領土ノ如ク安置シ居リシカ一八三六
年和主カ二十四ケ條ノ條約ヲ占ムルノ意思ヲ表示スルニ及ヒ白ハ *Liml*

一部ヲ和蘭ヲシテ有セシムルコトニ反對セルモ列國ノ態度強硬ナルヲ以テ白ハ遂ニ屈服セリ。一八三九年四月十九日和蘭、白間ニ確定和約結ハレ五強國モ之ニ加ハレリ。其ノ條項ハ *Ang.* 二十四ヶ條條約ト云シク白ノ永久中立ハ五強國ニヨリ担保セラル、ナリ。

白独立ノ後西歐ノ立憲國タル英及仏ノニケ國ト東歐ノ專制國トハ、ロシヤレ、墺、普ノ三國トカ互ニ相對峙スルヲ見ルニ至レリ。一八三三年九月十日ヨリ二十日ニ涉リテ東歐三國ハ *Manneren Spracty* ニ於テ會議ヲ催シ其ノ結果十月十五日ニ於テ *Berlin* ノ秘密條約結ハレタリ。其ノ要旨ニ曰ク、凡ソ独立君主ハ革命鎮圧ノタメ他君主ノ援助ヲ求ムルノ權利アリ請求ヲ受ケシ君主ハ自國ノ利害ト國際ノ情誼ヲ斟酌シテ之ヲ許容スルノ權利カ若シ第三國ニシテ援助ヲ行ハル、ニ對シテ異議ヲ唱ヘ之レカ妨害ヲ試ミルニ於テハ三強國ハ此ノ妨害ヲ以テ三強國ニ對スル共同ノ對敵行為ト見做シ之レヲ廢止スルニ必要ナル処置ヲトルハシトセリ。之レ先ノ *St. Pierre* *Verona* 等ノ會議以テ反對的政策ニ基クモノニシテ内亂ニ際シテ政府カ國際ノ共力 *Co-operative* ヲ受ケヌハ之レヲ年フルノ權利ヲ

有スルコトヲ主張スルモノナリ。(東歐三國ノ今マテノヤリ方ト云イニ違フ) 東歐ノ專制主義ノ三國同盟ニ對立スル西歐ノ立憲主義ノ諸國ハ *Slovenian* 半島ニ於テ共同シテ東歐ニ反對シテ西及 *Portugal* ノ立憲黨 *Constiti-* *timalist* ニ擁立セラレ木成年ノ女ニ即チ西國ニ於テハ *Stabellia*、南ニ於テハ *Non Maria* ヲ援ケテ專制黨 *absolutist*、王位ヲ希望者即チ西ニテハ *Non Carlos*、南ニテハ *Non Miguel* ニ反對セリ。之等ハ先ツ一八二六年十二月英ハ葡ノ摂政マ府ノ請求ニ応シテ一万ノ兵ヲ *Hispan* ニ送り摂政マ府ハ叛徒ヲ鎮圧スルヲ得タリ。一八三四年ノ四月ニ至リ英、仏、西、葡ノ四國同盟出來ルニ至レリ。コノ同盟ノ目的トスル所ハ英、仏ノ兩國カ西及葡ノ兩國ニ於ケル立憲黨政府ニ共カシ之ヲ扶クルコトニアリキ。然レトモ英仏ノ結合ハ實際ニ於テ極メテ微弱ナルノ形勢ハ一八三九年 *Ang.* 事件以前ニ於テステニ之レヲ窺フヲ得タルコトナリ。

Egypt 事件 *Egypt*、*Mehemet Ali* ハ先ニ埃及ノ擾亂ノオリ其ノ軍ヲシテ土耳其軍ヲ助ケシメ其ノ功勞ニムクユルカタメ *Cheate* 島ヲ得タルカ *Tin. A.* 之レニ満足セスシテ一八三一年十一月 *Syria*、

争ヲ生シ土軍利ナク土軍政府ハ「ロシヤ」ニ対シテ軍艦ヲ *Bosphorus* =
 出ルヲ請フニ至レリ、当時英及仏ハ白独立問題ニ干シ和ニ対シテ兵力ヲ用
 ヒ兵力ヲ以テ土耳其方面ニ活動スルノ余裕ヲ有セザリシモ仏大侯ノ周旋
Grand Office ニヨリ「エデプト」ト土耳其トノ間ニ媾和談判行ハレ
 ハニ三年四月ノ條約ニヨリ埃及ノ總督ハ *Syria* ノ全部及 *Akama* ヲ
 終身ノ領地トシテ与ヘラレ其ノ荷ヲ收メタリ、然ルニ今年七月八日ニ「ロ
 シヤ」土耳其間ニ *Unkjar-Skelessi* 條約ハ結ハレタリ、之レ八年ノ
 有効期限ヲ有スル同盟條約ニシテ露ハ土帝ノ要求アルトキ之ニ恣ニテ援兵
 ヲ出スヘキコトヲ約シ其ノ秘密條約間ニ於テ土耳其ハ「ダーダネルス」海
 峽ヲ閉鎖シ如何ナル口実ノモトニモ露西里以外ノ國ノ軍艦ヲシテ其ノ海峡
 ヲ通過セシメサルコトニ依リテ露西里ヲ援助スルコトヲ定メタリ、英仏西
 國ハ此ノ條約カ土耳其ヲ「ロシヤ」ノ実権ノ下ニ置クニ至リ且ツ其ノ秘密
 條約カ海峡ヲ以テ「ロシヤ」ノ関門トナシ「ロシヤ」ハ之ヨリ出入シ得ヘ
 キモ他國ハ此ノ方面ヨリ「ロシヤ」ヲ攻撃スルコトヲ得サルコトナレヲ以

ヲ兩國ハ大イニ警戒ヲ加ヘ艦隊ヲ土耳其沿岸ニ派遣シニ因ト「ロシヤ」
 トノ間ニ一時危殆迫セリ、奧帝ハ「ロシヤ」帝ト *Munchen* = *Prin-*
zly = 会合シテ「ロシヤ」帝ヲシテ *Mukhia* 等ノ條約ノ適用ヲ生スヘ
 キ場合アリ、即チ「ロシヤ」カ土耳其ヲ助クルトキハ媾和調停ヲ請フコトヲ
 「ロシヤ」ヲシテ約セシメ且「ロシヤ」帝國ヲシテ土方面ニ領土ヲ拡張ス
 ルノ野心ナキコトヲ明言セシメ以テ英仏ニ告クルニ土ノ領土才危殆ニ殆ス
 ルコトナク必要ノ場合ニハ媾和調停ヲナシテ土ノ危殆ヲ免レシムヘキコト
 ヲ以テセリ、於茲英及仏ハ其ノ艦隊ヲ召還セリ、
Egypt 總督ハ *Syria* ヲ以テ母國領トナサント欲シ而シテ土耳其帝ハ
 一度「エデプト」ノ總督ヲ破リテ首曰敗北ノ恨ニヲ報セント欲スルヨリ一八
 二九年ニ於ケル埃及總督ノ第二次ノ擧兵ノ事アリ五月下旬ニ土軍急ニ境ヲ
 越エテ進撃セシカト埃及軍ノタメニシキリニ破ラレ事態重大ナルヲ以テ英ハ
 仏ト共ニ埃及トノ戦闘ニヨリ援助ヲ要スル場合ニハ之ヲ英仏ニ國ニハカル
 ヘキコトヲ以テ土政府ニ申込メリ、之レハ *Unkjar* 條約ノ適用ヲ生シ
 「ロシヤ」ノ野心ヲ逐マシクスルノ機会ヲ与ヘンコトヲオソレタレニヨル

ナリ、而シテ七月二十七日ハ Constantinople ノ五強國公使ハ通牒
 フ土政府ニ英ヘテ東方問題ニ干スル五強國ノ一致ハ嚴存スルコトヲ告ケ五
 強國ニ謀ラスシテ事ヲ決定セサルヘキノ希望ヲノヘタリ、
 埃及事件ニ関シテ初メハ英仏ハ歩調ノ一致ヲ得タルカ仏カ埃及總督ノ勢
 カヲ過大視シテ之レヲ東方ニ於テ仏ノ勢力ヲ張ルカタメニ利用セント欲ス
 ルニ至レルヨリ仏ハ Mc. Ali ノ Syria ヲ古襲領トスレ要求ヲ支持セ
 ントスルニ至リ仏ハ英ヨリ離ル、ニヨリコロシヤハ反ツテ英ニ接近シ英ノ
 Mc. Ali.ニ聯合的壓迫ヲ加ヘコレヲシテ Syria ヲ Tank.ニ還附セシ
 メントスルノ提案ニコロシヤカ賛成シコロシヤ艦隊ヲ「ボスボラス」
 ニ入レテ Constantinople ヲ保護スヘキヲ説キシカ英ノ Palments-
 Tone (自由党)ハ「コロシヤ」ノ軍艦カ「ボスボラス」ニ入ルコトアラハ全
 海峽ノ閉塞ハ或ル一國ノ私スヘカラサレノ主義ヲ明カニシ且ツ列國ノ協同
 ノ嚴存スルコトヲ去ニ示スカタメニ英ノ軍艦ヲモ Bardanemusニ入ラ
 シメルコトヲ「コロシヤ」ヲシテ認メシメタリ、一八四〇年一月列國ノ Lon-
 don 會議前カル、ニ至リ全月下旬ニハ土耳其ノ全權ハ之ニ參列スルニ至

レルモ仏ハ Mc. Ali.ニ對シテハ聯合的壓迫ヲ加フルニ及テセルヲ以テ合
 議ニ參列スルヲ欲セサリキ、故ニ於テ仏ハ遂ニ改換調ノ外ニ立ツニ至レリ、
 仏以外ノ四強國ハ一八四〇年七月十五日土耳其ト London 條約ヲ結
 ビ埃及ノ処分ニ干シ埃及ヲ Mc. Ali.ノ古襲領トシシ亦亦部 Syria ヲ其
 ノ終身領トシ Mc. Ali.ニシテ同意ヲ遲延スルコト十日ナルトキハ終身領
 ヲ英ヘス遲延更ニ十日ヲ越ユルトキハ埃及ヲ古襲領トスルコトヲ取消ス
 ハシトセリ、而シテ Mc. Ali.カ同意ヲ拒絕セハ四國ハ土耳其帝ト協力シ
 テ之ヲ実行スルノ如置ラトルヘシトセリ、而シテ其ノ條約中ニ於テ聯合艦
 隊カ実行ノ如置トシテ海峽内ニ入ルコトアルモコハ一時ノ例外ニスキ又シ
 テ海峽閉鎖ノ古來ノ規則ハ毫モ變更ヲ受クルトコトナシトテ土耳其帝ハ兩
 後海峽閉塞ノ古來ノ規則ヲ守リ土耳其古カ平和干係ニアル間ハ外國軍艦ヲ凡
 テ海峽内ニ入ラシメサルヘキノ決心ヲ有スルコトヲ宣言シ四國モ土耳其帝
 ノコノ決心ヲ尊重シテ海峽閉塞ノ主義ニ從フヘキコトヲ得タリ、此レ後ノ
 海峽條約ノ締結ノ伏線ナリ、四國ハ又九月十七日ノ議定書ニヨリ四國カ如
 何ナル領土の擴張或ハ独占の勢力ヲモ求メヌ又其ノ臣民ノタメニ特殊ナル

通商上ノ利益ヲ求メサルコトヲ宣言シタリ。

Mc. Ale. & Hancock 會議ノ議定セル各項ニ同意スルコトヲ告セサル
ヨリ九月十四日ニ政府ハ四國ニ告グルニ *Mc. Ale. & Hancock* 條約ニ從ヒテ聯合的ノ壓迫運動
ヲ取上クルコトヲ以テシ列國ノ *Honolulu* 條約ニ從ヒテ聯合的ノ壓迫運動
ニ從事センコトヲ求メタリ。此ニ於テハ人民ハソノ國ノ政教領ノ外ニ排斥
セラレ東方ニ至レル事件ノ決定ニ与ルヲ得スシテコノ方面ニ勢力ヲ大フニ
展ルヲ懐視シ *Mc. Ale. & Hancock* 條約ニ手三リ埃及ヲ奪フト云フ土耳其ノ勅令ノ實行ヲ以
テ歐州ノ原因 (*Ordnance Kelli*) ト見做スヘキノ議論盛ニ行ハレシカハ
宰相 *Thiers* ハ軍備ヲトメテ後唯ニ七月十五日ノ *Honolulu* 條約ノ奏
案ヲ主眼スルノミナラス一八一五年ノ諸條約ノ修正ヲ求メ歐全体ノ組織ヲ
改ムルノ主張ヲナサントシ土耳其ノミナラス歐四強國ヲ敵トスルヲ許セサ
ラントスルノ態度ヨトリシカ王 *Louis Philippe* ハ戰爭ヲ行フノ冒險的
政策ヲ欲セサルニヨリ *Thiers* ハ退キテ *Foult* ヲ首相トシテ *Fran-*
cois ヲ外相トスル内閣ヲ作り漸次列強トノ歩調ヲ揃ハントス。埃軍ハ英
軍ノタメニ *Syria* ヨリ進ハレ *Alexandria* 港ニ砲撃ヲウケントセル

ヨリ *Mc. Ale. & Hancock* 一八四〇年十一月二十七日終ニ英艦隊ノ司令長官ト談判ヲナ
シ次々同盟諸國ノ全权ヲ帶ビタル英ノ艦隊司令長官ト談判シ埃軍ハ進キニ
占領地ヨリ撤兵シ且土耳其軍艦ヲ還付スヘキ。土耳其ハ埃及ヲ世襲領トシ
テ *Mc. Ale. & Hancock* 一八一五年ノ條約ヲ定メタリ。土帝ノ二月十三日ノ勅令ニ於テ埃
ノ統治ヲ *Mc. Ale. & Hancock* 及其ノ子孫ニ委任スルノ条件ヲ定メシカ *Mc. Ale. & Hancock* ハ之レ
ニ満足セサルヨリ更ニ修正ヲ加ヘテ六月一日ノ勅令ヲ發シ *Mc. Ale. & Hancock* 毛迷ニ
同意スルニ至リ埃及古襲君主ヲ戴ク土耳其ノ屬國トナリ土耳其帝國ノ法律
及其ノ條約ハ埃及ニ適用下リトシ租税ハ土帝ノ名ヲ以テ課スルコト、シ一
定ノ貢金ヲ土耳其ニ納メ國旗モ土耳其トシカレハシトセリ。
埃及事件ノ落着ラ恩ルヤ七月十日ニハ以外ノ四強國ハ其ノ事件ニ干スル
一八四〇年七月十五日ノ條約ノ目的カ既ニ達成セラレシヲ以テコノ條約中
ノ海峡ニ干スル宣言ヲ一層確實ニスルタメハ賛同ヲ求ムヘキコトヲ決シ
七月十三日ハ四強國又「トルコ」ト共ニ各國ノ軍艦ニ對スル海峡通航禁
止ノ條約ニ干スル新條約ニ副印セリ。 *Mc. Ale. & Hancock* 海峡條約コレナリ (*Convention*
of the Straits)。此ハコノ條約ノ締結ヲ機トシ再ヒ強國會議ニ干

リ政改綱ニ於ケルモトノ地位ヲ復スルヲ得タリ、乍然埃及事件ニ於ケルハ
ノ外交ノ失敗ノアトハコレヲ蔽フコトヲ得ス後、一八四八年二月革命ノ原
因ノ一ハコレニ存スト云ハサルヘカラス。

70
Egypt 事件ノ後ニ西歐ノ英仏ノ二國カ共ニ保守主義、平和主義ノ内國
ヲ有スルニ至リ、(仏 Guizot 美 Calveiation) 一時相近ツケリ、
(Lin Tute orbiade) 然西國間ニ紛議ノ原因絶ヘサリ、西國
女王 Christina 及其皇妹ノ結婚ニツキテ西國ハ互ニ約束スルトコロアリ
シニモ拘ハラヌ仏カ一八四六年ノ十月其ノ希望セル結婚ヲ実行セシメタリ、
Palmerston ハ仏ノ不信義ヲ非難シ英仏ノ親交ノ破レシ事ヲ宣言セリ、
英ハ Leopold 「彼ノ自帝」ニ誓セシメントス、コノ頃ハ二月革命起
リ國際向ノ変化ヲ致セリ。
及勳政策ニ抑圧セラレテ政ノ天地ニ躡躑セシ革新ノ精神ハ到ル所ニ爆發
スルニ至レリ、獨ノ專制ノ蠱糾ノモトニ苦シミ居リシ Magyar ハンガ
リー人、民族及 Czechs (Bohemia, Bohemia) ノ立チテ自由ト自
治トヲ獲取セント欲シ Poland ノ兵ヲ起シテ獨立ヲ回復セントハカリ、

八四〇年以來致乙ニ於テモ統一主義、自由主義ノ運動カ盛ナルヲ致シ普
國ニ於テモ Mett. ノ勅告ヲ容レスシテ一八四七年二月ニハ憲法ノ公布ヲ
ナスニ至レリ、伊ニ於テモ民族的獨立及統一ノ主義ト自由主義トカ抱合
シテ獨排斥ノ運動トナリ Rome ニ於テモ改革運動盛ナルヲ以テ Mazzini
及ヒ獨領ノ人民ノ心モ大ニ動搖セリ、而シテ Louis = 於テハ一八四一
年ノ獨革新ノ風潮盛ニシテ在米保守主義ノ牙城タリシ獨ト新ニ保守主義
ヲトリテ獨ニ接近セルニ至レル仏トカ急進主義、中央集權主義 (Concen-
tration) 世俗主義 (Secularism) スイス 中央政府ニ對シ
テ保守主義、地方分權主義、宗教主義 Catholicism) ノ七ツノ目的ノ
concern ヨリナル別立同盟 Sonderbund ヲ助ケテ革新ノ風潮ヲ抑
ハントセリ、然レトモ Guizot、齋藤 (Fault カ首相) ト Palmer-
ston ノ「スイス」ノ中央政府援助ノ函策トニヨリ列國カ未ダ Sonder-
bund ヲ助ケルタメニ干渉ヲ行ハサル前ニ Sonder. ノ軍破レテ同盟解散スルニ至
レリ、茲ニ於テ新憲法制定ノ革新運動行ハレントス、
一八四七年ノ末ニ Louis = 於テ更ニ革命運動起リ普王ノ統治ノ下ニ

Neuchâtel 共和政治ヲシクニ至レリ。一八四八年一月ニハ *Sicily*

ニ於テ革命起リ後 *Napoles* 直リ二月 *N.* 王モヤムヲ得スシテ憲法ヲ

發布セリ *Tuscany, Sardinia* 憲法發布ヲナスニ至レリ。

仏ニ於テ *Louis Philip* 政府ハ内治外交ノ上ニ於テ失望ヲ失フニ至リ

Guizot 政局ニ当ルニ及ヒ保守的政策ニ傾キ選挙改正問題ニ于テ騒動起

リ二月二十四日人民王宮ニ侵入シ王ハ其ノ家旅ト共ニ英ニ遁レ共和政府カ

ルニ至レリ。

仏革命ノ影響ハ其ノ及フ所広クシテ欧中部及南部ノ各地方ニ波及シ独並

ニ中部南部ノ伊ニ於テハ自由主義ノ運動及民族的統一ノ運動ノ化合トシテ

破裂シ北部伊 *Schleswig, Holstein, Hungary, Bohemia,*

Croatia Slavonia 等ニ於テハ民族的独立ノ懸念トナリテ爆發シ

自和及丁抹ニ於テハ選挙法改正ノ改革運動トナリテ現ハレタリ。

革命ノ強固ノ外交ニ于スル直接ノ結果ノ著シキモノヲ挙クレハ *Louis*

Philip 王ノ統治ノ下ニ漸ク東欧ニ近ツカントスルニ至レル仏ヲシテ再ビ東

欧ヨリ遠サカラシメ又東普ノ外交上ニ於ケル行動ノ自由ヲ一時停止セシメ

シコト即チ之レナリ。英露ニ因ハ革命ノ直接ノ影響ヲ免レ行動ノ自由ヲ保

有シ英ノ *Palmerston* ハ諸国ノ革命党ニ声援ヲ與ヘ「ロシヤ」ノ *Ni-*

glas 上ハ正統君主ノ权力ノ回復ヲハカレリ。英ハ伊ノ *Napoles* 二

干渉ヲナシ「ロシヤ」ハ *Hungary, Schleswig, Holstein* 二干

渉セリ。 *Sables, Mol.* 向題並ニ独乙統一問題ニ于シテハ英ハ「ロシヤ」

ノ行動ヲ妨害セサリキ。之レ特別ノ利益ニ干係スレハナリ。英ハ独乙統一

ノ美ノ通商ニ及ホス影響ヲ蒙リ亦 *France* 力独乙ニ入ルコトニヨル独乙海

上勢力ノ發生ヲ惧レシニヨル。

革命ノ國際的諸影響ハ一八五〇年及一八五一年ノ間ニ於テ殆ント息ニ竭

セン外観アリ。反動主義、保守主義ノ本營ナレ *Wiem* 於テ一八四八年

ノ三月中旬ニ起レル革命運動ハ *Metz* ヲシテ英ニ適レシムルニ至レリ。

然ルニ *Schwabenberg* カ首相トナリテ十月ニハ秩序回復ヲ見ルニ至

レリ。三月以來動搖シ居リシ伯林モ純王統ノ政府カ *Wiem* 首相ニナラ

ビテ十二月ヲ以テ鎮定ヲナスニ至レリ。五月ノ十八日ヨリ *Franckfurt*

am Mein 開カレシ独國民議會ハ動搖ノ際一旦勢力ヲ得シモ其ノ議定

セル新憲法ヲ普王ヲシテ兼諾セシムルコトヲ得サリキ、南独乙ノ *Stutt-*
gart = 移リテ後一八四九ノ五月ニ解散セラレタリ、普ハ独乙内ノ動搖ヲ
 機會トシテ壞ヲ除外トシテ普王ヲ首長トスル独乙聯邦ヲ作ラントシテ壞ト
 アラソヒ危機切迫スルヤ「ロシヤ」帝ノ調停 (*mediation*) ヲウケテ志
 ヲ得ス、一八五〇年十一月二十九日ニ壞ト *Belmug* ノ條約ヲ結ヒ其ノ
 聯邦業ヲ抛ツニ至レリ、*Sole, Hel.* 問題ニテシテ普ハ独乙聯邦ノ始ヲ
 以テ兵ヲ出シ、其ノ革命的独立運動ヲ幫助セシカ「ロシヤ」及普王ニ
 對シテ干渉ヲ加ヘ休戦ヲ約セシメ、一八五〇年七月ニ至リ問題ヲ解決スルコ
 トナクシテ普、丁林間ニ講和行ハレタリ、*Clmug* = 於テ此ノ問題ニ普
 ノ单独ニ処理ニ当ルハキモノニ非スシテ聯邦議會ハ議ニ所スハキモノトナ
 シ、ニ州ハ遂ニ再ヒ丁林ニ復歸スルニ至レリ。

Hungary = 於テハ改革ヲ容求セラレヌ遂ニ兵ヲ起シ一八四九四月
 十九日ニ独立ヲ宣言シ其ノ勢瀾激ナリシモ「ロシヤ」カ壞ニ援カシテ大
South 等ノ革命軍ハ一八四九年八月中旬全ク敗レ革命運動ハ鎮壓サレタ
 リ、伊ニ於テハ *Vienna* ノ革命運動ノ報導至ルマ壞總 *Lombardy*

ニ於テ忽チ革命運動起リ *Sardinia* 王ニレニ援救シ *Venezia* 三月ニ
 日ニハ共和政治ヲ布告シ *Tuscany* ノ大侯ニ至リテモ三月二十一日ニ伊故
 立ノ時期到来セリト称シ軍隊ヲ國境マテ進發セシメタリ、「ロスマ」ニ於
 テハ三月十五日ニ法王カ新憲法ヲ發布シ *Parma, Modena* = 於テハ
 革命ノ外其ノ君主ハ國ヲ遁レ六月上旬ニハ *Lombardy* カ人兵投票ニヨ
 リテ *Sardinia* = 聯合スルコトヲ決シ七月ニハ *Venzia* モ亦ソノ例
 ニナラズリ、然ルニ七月中旬以後ニ於テ壞ノ軍カ *Sardinia* 軍ヲ破リ、
Sardinia 王モ七月十日ニ *Catania* = 大敗ヲウケ *Sardinia* ハ英及
 仏ニ向ヒテ *Collective mediation* 共同調停ヲ求ムルニ至リシカ壞軍
 カ遂ニテ *Milan* = 迫レルヲ以テ *Sardinia* 王モ八月五日 *Capitulation*
Latin (降伏規約) ヲ結ヒタルカ英及仏ノ干渉ニヨリ八月九日休戦規約
 結ハレニ因リ調停ノモトニ講和談判ヲ開クコトナリ、壞ハ一旦抛棄ヲ宣
 告セシ *Lombardy* ヲ保有セントスルヤ *Lom.* ノ人民カ十月ノ末ヨリ再ヒ
 蜂起シ「ロスマ」ニ於テモ革命運動起リ一八四九年二月九日共和政治ヲ布
 告セラレタリ、*Tuscany* = 於テモ其ノ大侯ハ國外ニ走り其ノ國ハ共和党

ノ手ニ帰セリ、而シテ *Sardinia*、*Sarabady*、革命軍ト呼志シ
 テ再ヒタテリ、然レトモ三月二十三日ノ *Norona*、戦ニ於テ大敗ヲウケ
 王 *Charles Albert*、ハ王位ヲ辞シ其ノ子 *Victor Emmanuel* 位ニ
 ツケリ、八月六日ニ *Milan*、ニ於テ埃ト懺和セリ、*Venezia*、モ八月ニ
 埃軍ノ埃トコロトナレリ、コ、ニ於テ統一運動ハ一時頓挫スルニ至レリ
 「ローマ」法王カーハ四九年ノ二月十八日ニ依及 *Naples*、兵力的干渉
 ヲ求ムルニ埃軍制ノ政略上ハ「ローマ」向強ニシキ干渉ヲナシ四月二十
 二日ニハ略一萬ノ仏軍「ローマ」ニ達セシカ當時 *Louis Napoleon*
 ヲ首長トスル仏政府ノ遠征軍ス「ローマ」共和政府ヲ倒シテ法王政府ヲ回
 復スルコト、ナリ、七月三日「ローマ」陥リ法王政府回復サレタリ、法王
 政府ハ反動政策ヲ実行スルニ至レリ、*Napoles*、*Sicily* 及其他ノ諸
 地ニ於ケル革命運動ニ鎮圧サレタリ、依ニ於テモ一八五一年十二月ニ *St.*
and Napoleon カ *Camp di Satat*、ニヨリテ共和政治ノ基礎ヲ奠シ
 一八五二年十二月帝政ヲ立テ平和政策ヲ標榜セリ、*St. Empire*、*est*
la Paix ト云フヲ *St. est Empire* ト諷刺ス、

東欧ノ諸國殊ニ「ロシヤ」ハ一八一五年ノ約ニ反シ且ツ人民主權説ヲ土
 台トシテ元首ノ権利ヲ主張スル所ノ *Bonapart* 家ノ王位ニ「ボルマ」好
 マサリシモ已ムヲ得スシテ兼認セリ、
 革命ノ國際的影響ノ外観上殘存セルモノヲ求ムルトキハ僅カニ *Poland*
 ノ *Craikus* 共和國力埃ニ併合サレシコト、*Swiss*、ニ於テ一八四八年
 ノ中央集權的憲法公布セラレテ衆合國 *Handes sta.*、ヲナスニ至レルコ
 ト、*Swiss* ノ *Neuchâtel*、ニ普國ノ統治ヲハナレシコト等ノ数事項ヲ
 埃フレヲ得ルニスキスト民モ當時ノ革命運動ハ内ニ於テハ自由思想ノ運動
 ヲ振起シ外ニ對シテハ民族的觀念ヲ盛ナラシメ殊ニ独乙及仰ニ於ケル當時
 ノ運動力之等ノ國ノ統一ノ素地ヲ作レリ又二月革命以後東欧三國ノ保守的
 及動的政策ノ國際ニ於ケル勢力全ク無ニ帰シ政政治組織ハコ、ニ新生面ヲ
 開クニ至レリ。

外交上ノ思想

Napoleon / 歐ノ國際干係ヲ攪乱セル後ニ開カレシ *Vienna* / 會議ニ於テ勢力均衡ノ思想依然存シ全歐四強國ハ改ニ於ケル永続スヘキ勢力均衡ノ組織ノ設定ヲ以テ會議ノ目的ノ一部ト稱セリ而シテコノ會議ニ於ケル土地ノ処分ニ關シテ *Eq.* / 正統主義採ラレタリ *Le principe de la légitimité, Principe of Legitimacy, Legitimisme* / 正統主義トハ正統君主ノ繼承的權利ヲ維持スヘキトナスノ主義ニテ之ヲ革命前ノ状態ニ回復セントスルノ思想ニ外ナラスコノ會議ニ於テス一方ノ土地ヲ割ケル君主ニ代償 *Compensation* / シテ他方ノ土地ヲ與ハントスルノ *Eq. Compensation* / 主義ヲ認メラレタリ *Vienna* / 會議ニ於テ土地向類ノ解決ニシキヲ干係人民ノ志望利益ヲ考慮スルコト稱ナリキ一壞ハ壞領 *Netherland* / ヲスタ・*Venice* / ヲ得・*Compensation* / ナリ *Sweden* / *Finland* / ヲ失ヒシ *Norway* / ヲ得 *Norway* / ハモト丁林ノモノナリシカ丁林ハ其ノ代リニ *Konigsberg* / ヲ得タリ *Vienna* / 會議以後大戦争ノ後ヲウケ入心平和ヲ思ヒムニ對スル同盟ノ

四強國カ改改調ノ在軸トナリテ平和ノ維持ヲハカリ *Mettetrnich* / 守的・維持的的政策行ハレテ革命鎮壓ノタメニスル協調的干係実行サレシモ強國間ノ干係ニ破壊ヲ生シ一八三〇年ノ革命ヲ經テ一時政東方ノ三專制君主國カ政ノ西方ノニ立憲君主國ト對峙スルノ形勢ヲ生セリ一八四八年ノ革命以後國內ニ於テハ自由主義ノ運動勢力ヲ得國際ニ於テハ民族主義ノ運動盛ナルヲ致セリ・民族主義ノ思想ハ「イタリヤ」ノ独立及統一並ヒニ独乙ノ統一ノ運動ヲ誘出セル一原因ヲナセリ *Vienna* / 會議ヨリ *Crimea* / 戦争ニ至ル迄ノ間ニ於テ政ニ於ケル國境ノ変動ノ著シキモノヲ舉ク *Greece* / 及 *Belgium* / 獨立ニスキス（一八一五—一四八八）歐戰國相互ノ間ニ於テハ其ノ間全然戦争起ラザリキ然ルニ *Crimea* / 戦争ヨリ *Belgium* / 會議ニ至ルマテノ略二十五年間ニ於テ大戦争シキリニ起リ政ノ國際ノ動搖著シク旧結合クツレテ新ナル勢力均衡ヲ求ムルニ至レリ國際動搖ノ動力ノ著シキモノヲ民族主義ノ思想トナス *Le principe des nationalités* / 民族主義ノ思想ハ獨立及統一ノ必要ヲ感スルコト切ナル諸人民殊ニ白人ノ間ニ流行セリ・民族主義ノ說ニヨレハ民族ナ

ル人類ノ自由の団体カ他ノ民族ヨリ政治上独立シ進ンテハ其ノ自然的団体ニ屬スルモノカ政治上ノ独立ヲトケテ單一ノ國家ヲ組成スヘキモノトナスナリ。

所謂民族 *Nationality* ハ種族、言語、文化、歴史、慣習、宗教、政治上等クハ經濟上ノ利害等ノ全部又ハソノ一部ヲ共同ニスルノ事實上ノ基礎ニ基キテ相集リテ自然ニ一ツノ共同の生活ノ団体ヲナシ而シテ其ノ団体内ノ各人カ団体の自覚ヲ有スル人類ノ集合ナリトスルナリハ例ヘハ伊人、独乙人ト云フハ未ダ出来サル中ニ以上ノ諸事實ノ基礎ニヨリテ伊人ニ屬スル自覚ヲ有スルニヨリ成立ス、民族主義ト *Plebiscite* トハ千係深シ、即チ之ニトハザレハ明カニワカラス。

初ノヨリ存スル民族ナル自然の団体ハ他ノ國家ヨリ独立シテ別ニ國家ヲ組成スルトスレバ民族主義ノ要旨トス、政治的理論トシテ之ヲ見ルトキハ民族主義ノ思想ヲ以テ之ヲ誤謬ナリトシテ排斥スルコト得サレトモ其ノ理論上ノ欠点ハ現時ノ國際生活ニ於テ人民ノ真正ノ利益カ數多ノ小団体ニ分立

スルコトニヨリテ保全スルコトノ困難ナル事實ヲ度外視スルコト民族其ノモノ、範圍ヲ確立スルコトノ困難ナルコト、

其ノ實際上ノ弊害ハ国内ノ擾乱國際ノ動搖ヲ致スコトニマリ民族カ國際法上ノ主体ヲナスノ説カ伊本利ノ一部ノ國際法学者 (*Maitland*) ノ尚ニ一時流行セシカ民族主義ノ説ハコレヲ政治上ノ主義トシテ解スヘク國際法上ノ原則トシテ認ムヘカラサルモノナリハ國際法学者中伊、仏等ハ領土ノ割讓ノ際人民ノ意思ヲトハサルヘカラストス、コレ民族主義カ多少入レルナリ。

「クリミア」戦争ヨリ *Berlin* 會議ニ至ルマテニ於テ民族的、独立的統一ノ勢カ盛ンニ成功セル時期ニ際シ、仏、普、*Prussia* カ外交界ニ活躍スルニ至リ外交上ノ第三時代即チ *Vienna* 會議以後 *Crimea* 戦争マテノ時期ニ於ケル外交上ノ主動回ナリシ埃、*Russia*、英ノ三回ハ反ツテ概シテ受動的ノ地位ニ立ツニ至レリ、民族の独立及統一運動、結果トシテ歐ノ中央部ニ大國ヲ生シ *Berlin* 會議以後政ニ於ケル新ナル勢力均衡ヲ求ムルカタメニ一方ニ於テ独乙、埃、伊ノ三回同盟ナリ、他方ニ於テ「*Russia*」

此ノニ國同盟ヲ生シテ社乙ノ世界政 *Welt politik*ノ結果ハ「ロシヤ」
 仏ノ三國協商 *Triple entente* 成リ社乙及埃ニ對スルニ至レリ、政ノ
 強國間ニ於テ勢力ノ均衡ヲ嚴ニ維持セラレ歐大陸ニ於ケル領土ノ擴張ハ困
 難トナリ亦一方ニハ經濟交通ノ發達ニ伴ヒ海外ニ活動ノ余地ヲ求ムルノ必
 要ヲ感シ茲ニ於テ海外ニ國力ノ發展ヲ求ムル思想盛ナルヲ致シ所謂帝國
 主義 *Imperialism* 盛ニ行ハル、ヲ見ルニ至レリ、茲乙ノ所謂世界
 政策モマタ帝國主義ノ一ツノ發現ニ外ナラス、

帝國主義ハニ方面ニ於テ其ノ作用ヲ現ハス第一ノ方向ハ母國ト各種民地
 トノ結合ヲ緊密ニスルコト之レナリ、第二ノ方向ハ外國ニ對シテ一國ノ國
 力ノ充實發展ヲ計ルコト之レナリ、帝國主義ハステニ一ツノ國家ヲナセル
 人民ノ統一的發展ヲ以テ其ノ肝心ナル要旨トス、他ニ現ハレテハ或ハ保護
 貿易政策トナリ或ハ植民地擴張政策トナリ概シテ云ハハ軍備ノ増加ヲ誘致
 スルノ傾向アルヲ免レス、所謂 *Militarism* 軍國主義ノ思想ハ主ト
 シテ兵力ニヨリテ國力ノ發展ヲ致サントスルノ思想ニ外ナラサルヲ以テ帝
 國主義ノ思想ト緊密ノ干渉ヲ有ス、軍國主義ノ弊トシテ世人ノ弊ヲルトコ

ロハ外國ニ對スル干渉ニ於テ強カ反叔謀ヲ尊重シ國際正義及國際法ヲ無視
 シ弱國ヲ虐ケ戰爭ノ屢々起ルヲ致スコトニアリ、

世界大戰爭ノ外交ノ實際ニ於テ所謂強者ノ權利 *The right of the strong*, *le droit du plus fort*, カ尚ホ行ハル、ヲ免レスシテ例
 ハハ強國間ニ於テ戰爭ノ起ルコト稀ナリト云モ強國ハ互ニ軍備ヲ競ヒ
 武装平和 *la paix armée*, *armed peace*ノ状態ヲ生セリ、在
 界大戦ハ一面ヨリ見レハ國際勢力均衡ノ思想ニ基ク同盟系統帝國主義的思
 想若シクハ軍國主義的思想並ニ武装的平和状態ノ當然ノ帰結ト称スヘキナ
 リ、

世界大戦ノ終項一九一八年一月米合衆國大統領 *Wilson*ノ高シシ *14 points*
 十四矣ノ講和基礎條件ノ中ニ於テ、伊、埃、匈、土、バルカン半島
Poland 等ニ干シテ民族ヲ基礎トスルノ條件ヲ擧ケテ全年二月 *Wilson*
14 points カ平和解決ノ四原則ト称スルモノヲ述ハシ中ニ於テ世界大戦ニ干ス

ル領土問題ノ解決ハ単ニ國家間ノ主張ノ処理又ハ妥協ノ一部タルニ止マラ
 シメスシテ干渉諸人民ノ利害ヲ考慮シテ之ヲ行ハサルヘカラストナシ、又

明確ナル民族的希望ニ対シテ実行シ得ヘキ最高ノ満足ヲ与ヘサルヘカラストセリ、而シテ聯合國カ独乙、埃、匈、等ト結ヘル平和條約ノ決定ニ於テモ歐ノ土地ニ干シテ大體ニ於テ民族ヲ基礎トスル境界線ニヨリ國境ヲ定メタリト云フヲ得ヘキモ民族主義ニ明白ニ及対スル規定ヲ有セサルワケニラス、独乙ト埃トノ聯合カ國際聯盟理事會ノ同意ヲ得レハシテ行フヲ得サルヲ定メタル如キハ (*Wesvails* 條約第八十條 *Government* 條約ハ十八條) 民族主義ニ及スル規定ノ着シキモノナリ、其他歐國ノ國防ノ必要(伊、如シ)又ハ經濟上ノ道路 (*Paland* ノ *Max* *Stangig*) ノ必要等ノ如キ民族主義的ノ境界ニヨラサル事例ヲ存ス。

世界大戰ノ終項ヨリ國際組織 *International Organization* ヲ以テ平和ヲ維持スルノ說流行シ *Milovan* *H.* 十四美ノ如キハ條件ノ中ニ於テモ國ノ大小ノ別ナク政治上ノ獨立及領土保全ノ相互的担保ヲ与フルタメ特別ノ規約ニヨル (*Covenant*) 一般的ナル國際聯合 (*Association*) ヲ作ラサルヘカラサルヲ説ケリ、而シテ聯合國ト称、埃等トノ間ニ結ハレシ平和條約中ニ於テ締約國ハ戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ

各國間ニ於ケル公明正大ナル干係ヲ規律シ各國政府ノ間ノ行為ヲ縛スル現行ノ標準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ且ツ嚴ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ以テ國際協力ヲ促進シ且ツ各國間ノ平和安寧ヲ完成センカタメニ國際聯盟規約ヲ協定セリ、コ、ニ於テ國際組織ノ一種ナル國際聯盟成立セリ。

世界大戰後結ヘル諸平和條約ニ於テ國際聯盟ノ目的トスル世界平和ノ確立ハ社会正義ヲ基礎トスルヲ要ストナシ現今ノ労働状態ハ不安ヲ醸成シ且テ世界ノ平和協調ニ危殆ナラシムルノ惧レテ故ヲ以テ國際聯盟加盟國間ニ國際常設労働機關ヲ設ケテ正義、人道ヲ旨トシテ永続スヘキ世界平和ヲ確保スルノ希望ヲ達成スルタメニ労働ニ干スル規定ヲ設ケタリ、帝國主義的恩恵行ハレ武装的平和ノ状態ノ永続スルニ対シ他方ニ於テ軍備ノ制限ヲ致シ平和ノ維持ヲハカルノ恩恵漸ク盛シナルニ至キ一八九九年ニハ「ロシヤ」ノ提議ニ依リ *League* ノ第一回平和會議開催サレシカ軍備制限 *Disarmament* 及ヒ義務的仲裁裁判 *Obligatory Compulsory arbitration* ノ問題ニ対シ何等實際的成果ヲ收ムル能ハス、一九〇七年ニ

於ケル「ハーグ」第二回平和會議ニ於テ又全權ノ結果ヲミタルニスキス、
 第一回平和會議ノ後ニ一九〇三年英及仏ノ間ニ所謂永久的仲裁裁判條約結
 ハト *Permanent Arbitration* 西國間ノ法律紛議ニシテ外交手段ニ
 ヲリテ得サルモノヲ仲裁裁判ニ付スルコトヲ約束シテ以テ諸國ノ間ニ付
 裁々判ニテスルコノ種ノ數多ノ條約結ハル、ニ至レルモ之等條約ハ概テ國
 家ノ独立名譽、重大利害ニテスル問題ヲ仲裁裁判ニ付セサルコトヲ定ムル
 ヲ以テ義務的仲裁々判ノ実ヲ存セスシテ戰爭ノ發生ヲ防クノ作用ヲナスニ
 至ラス。

平和維持ニ因シテ或ハ勢力均衡ヲ以テ之ヲ致サントシ或ハ政權 *Balance of Power*
European Concert 又ハ世界協調 *Moral C.* ヲ以テ之ヲ致サントシ
 或ハ國際組織ヲ以テ之ヲ致サントシ或ハ勢力均衡ヲ又ハ政權ニ満足セサ
 ルモ國際組織ヲ求ムルニ至ラスシテ諸國家ノ独立ト振動セサル範圍内ニ於
 テ別ニ方法ヲ設ケテ平和ノ維持ヲ致サントスルナリ。

勢力均衡主義ノモトニ於テハ全盟ニ付スルニ全盟ヲ以テシタトハ小規模
 ノ戰爭ノ屢々起ルヲ防クノ功能アリトスルモ一旦戰爭起ラハ戰局ハ全盟系
 統ヲ追ッテ拡大スハクコノ主義ノモトニ於テ平和ヲ擾乱セラレサル中時ニ
 於テ又相對立スル同盟力互ニ武装ヲ解クヲ得スシテ勢力均衡主義ノ下ニ於
 ケル平和ハ武装的平和タラサルヲ得ス勢力均衡力均界平和維持ノ方法トシ
 テ不完全ナルコトカ既往ノ歴史カ明白ニ指示セル所ナリ。 *Westphalia*
 條約ヲサルコト僅カニシテ當時ノ學者ハ勢力均衡ヲ以テ世界平和ヲ確立ス
 ハキコトヲ唱ヘタリ。

政權論ハ *Napoleon* 戰爭ノ終頃其ノ莽ヲ發シ *Vienna* 會議以後一ハ
 ニ三年ノ頃ニ至ルマテ微ナル國際組織ノ形體ヲ備ヘ列國會議ヲ以テ其ノ概
 干トナシ國際ニ於ケル *Eq.* 相率政治 *Universal* ノ実ヲ存セリ。
Spain ノ干渉問題 *Italy* 干渉問題ノ如キコノ時期ニ於ケル政權論ノ問題
 トナリ。南米ノ獨立問題、如キモ亦其ノ問題トナラントシタリ、其ノ以後
 政權論ハ *Greece* 獨立問題 *Belgium* 獨立問題 *Egypt* 問題 *Sch-*
leswick *Wittstein* 問題ニツキ活動セシカーハ五六年 *Paris* 會議以
 後ニ於テハ極メテ間歇的ニ行動シ且ツ其ノ行動ノ範圍ヲ政人ノ所謂東方向
 題ニ限ルニ至レリ、政權論ハ強固向ノ利害ノ微細ヲ着セサル際ニ於テ平和

維持ノ作用ヲナスヲ得ヘキモ一度強國間ノ利害ノ衝突ヲ生スルトキハ最早
平和維持ノ用ヲナサハルコトハ尸次上ノ事實カ之レヲ明ニスルヲ以テ強國
間ノ平和ノ維持ノ方法トシテ深ク之ニ依頼スルヲ得ス、改修調ノ世界的放
張ナル世界的改調ニ至リテモ亦然ラサルヲ得ス。

國際組織ニヨリ平和ヲ維持スルノ説ハ種々異ル知アリト云モ大別シテ起
國家的権力ヲ認メントスルモノト組織内ノ各國ノ独立ヲ破壞セサラントス
ルモノトノ二種トナスヲ得、世界ノ聯合國（*League of Nations*）世界聯邦
（*Statebund*）等ノ理想ハ前者ニ屬シ現在ノ國際聯盟ノ組織ハ後者
ニヨリ、國際組織ノ一種タル國際聯盟ハ已ニ成立シテ活動セリト云モ強國
中之ニ加ハラサル國アル間實際ニ於テ強國間ノ紛議ニヨリ平和ノ破ル、防
防クニツキ充分ノ作用ヲナシ得ヘキヤ否ニツキテ疑ヲハサマサルヲ得ス
（*Bentham*）永久平和ノ主義ハ國際聯盟ニ以テ且國際組織
ヲ作ラントスルニアリ、コレ *Anglo-Saxon*ノ主義ヨリ出ツ。

國際組織ヲホメスシテ平和維持ヲ保全セントスル事例ノ第一ハ一九一三
一、一九一四ニ亘リテ *Briand* カ *M. S. A.* *Secretary of State*

ヲシテ諸國ト別々ニ結ハル *Ag.* 平和計畫 *Peace Plan*ニ関スル諸條約ニ
於テ之ヲ見ル、締約國間ノ紛議ハ之ヲ國際審查會ニ審議ニ付スハシ（
International Commission of Inquiry）其ノ決定ヲ与フルマ
テハ戦争ニ訴ヘサルヘキコトヲ約スルモノナリ、是レ借スルニ時日ヲ以テ
シ事件ノ真相ヲ明ニスルヲ得セシムレハ一時ノ感情ノ激発ニヨリテ戦ニ訴
フルニ至ルコトナカルヘク又事ヲ好ム政治家カ事件ノ真相ノ分明ナラサル
ニ集シテ戦ヲ惹起スルヲ防クニ足ルヘク又内外ノ輿論ノ勢力カ戦ノ發生ヲ
制止スルニ至ルヘシトノ思想ニ基ク、然レトモ此ノ方法ニ於テハ真ニ國民
間ノ利害ノ衝突ヲ存スル問題ニヨリテ戦争ノ起ルヲ防止スルノ力欠ケタル
ノミナラス條約ニ及シテ戦ヲ開始セントスル國ニ對スル制裁ノ手段ヲ欠ク、
國際組織ヲホメスシテ平和維持ヲ計ラントスル事例ノ第二ハ *League*
ノ平和會議ニ於テ之ヲ見ル、一八九九年ノ *League* 第一回平和會議ニ於
テ軍備制限及義務的仲裁裁判ノニ大要綱ヲ掲ケテ平和維持ノ途ヲ講セント
セルニ其ノ計畫ハ失敗ニ終リ一九〇七年ノ第二回平和會議ニテモコノ真ニ
於テ何等實質的貢獻ヲナサ、リシコトハ前述ノ如シ。

國際組織ヲ求メスシテ平和維持ヲ図ラントスル事例ノ第三ハ *Washington Conference* 會議ニ於テ之ヲ見ル。現時主要ナル兵カラ有スル凡テノ國ヲ網羅シテ軍備制限ヲ決定シ極東ニ於テ行ハルヘキ主義及政策ニ于スル諸國共通ノ了解ヲシテ軍備制限決定ノ事業ヲ扶翼シ且ツ國際紛議ヲ致スヘキ顯著ナル原因ヲ減少セシメ出未得ヘキハ之レヲ滅絶セシムルノ目的ヲ以テ會議ヲ開キ海軍ノ備制限ニ于スル決定及極東ニ于スル決定ヲ議定セリ。

外交史ノ最近時代ニ於テ古界外交史ノ舞台オ著シク拡張サレタリ。十九世紀ノ始メニ *M. S. A.* カ其ノ *Morroe Doctrine* ノ宣言ニヨリ政ノ外交ニ對シ著大ナル影響ヲ及ホセル後久シク米大陸以外ノ事項ニ干係セサルノ方針ヲトリシカ最近ニ至リ在界ノ他ノ部分ノ外交ニ屢々關係スルニ至レリ。極東ニ於テ我國カ國際団体ノ一員トナリ在界強國ノ一トシテ認めラレ、ニ至レルハ最近外交史ニ於ケル顯著ナル事實ノ一ツニ屬ス。

第二章

「クレミヤ」戦争及巴里條約

一八四四年「ロシア」皇帝「ロンドン」ニ赴キシ折衷政府ノ當局者ニ向ヒテ土耳其分割ニ關スル協商ヲ結フノ非公式ノ提議ヲナセルコトアルモ英政府ハ之ヲ容レサリキ、其ノ機はニ於テ「ナポレオン」三世ノ帝政行ハルルニ至リ「ロシア」ハ英カ「ポナバルト」家ノ権力ヲ復セルコトニ對シ警戒マナシ。之カタメ及及ヒ仏ノ間ニ平高ノ勢ヲ生スヘキコトヲ圖リ土耳其古ノ當時改革運動ノ未タ成績ヲ挙ケサル間ニ英土耳其ノ方面ニ其ノ権力ヲ發展セシメントスル年来ノ企圖ヲ実行セント欲セリ。一八五二年二月ニハ「ロシア」ハ「モンテネグロ」ノ君主ヲシテ土耳其ニ對シテ兵ヲ起サシメタリ。 (*Leak* 人「スラヴ」人ニテ宗教モ「ロシア」人ト会シ) *Danubio* 口カ世襲ノ君主トナル。(今迄ハ *Biskop* ナルカ之レヲ齎ス) 全年亦ニハ「モンテネグロ」兵土耳其軍ノタメ敗ラレタリ。然ルニ「パレストナ」ノ基督ノ遺跡ニ關スル特權ニツキテ「ローマ」國教徒(「カトリック」)、「ギリヤ」國教 (*Catholics*) 徒ノ間ニ紛議ヲ生ゼリ。仏ハ羅馬國教徒ノ權利ヲ擁護セリ。遺跡ノ特權ノ問題ハ仏、露兩國ノ東方ニ於ケ

ルカ力消長ノ問題トナリテ露國ハ一方ニ於テ軍備ヲオサメ他方ニ於テ英ニ
対ヒテ一八五三年一月ヨリ *Sgt. 頻死ノ病人タルトコロノ遺産ノ分配ニ関*
スル條約ヲ兩國間ニ行フコトヲ提議シ、土耳其ノ政ニ在ル領地ヲ *Mold-*
avia ノ *Balkanias*、*ルセルビヤ*、*ブルガリヤ* 等ノ教獨立國
一今テ露ノ實権ノ下ニオカントシ英ヲシテ埃及及ヒ *Creta* 島ヲ得テ印度
ノ道路ヲ安全ナラシムヘキコトヲ説キテ而シテ^テ *コンスタンチノール*
ニ関シテハ露ハ英ノ此ニ占拠スルコトヲ許サ、ルハク、露モ亦之レヲ領有
スルノ企圖ヲ抱クコトナキモ若シ英トノ協商成ラサレハ或ハ此レヲ占領ス
ルノ必要起ルコトナキ限リニ非スト説ケリ、
英ハ露ノ地中海ノ東岸ニ於テ勢力ヲ振フニ至ルコトヲ欲セサルヲ以テ嘗
ニ露ノ提議ヲ容レサルノミナラス露ノ野心ニ對シ警戒ヲ加ヘ仏ニ近クニ至
レリ、此ノ折ニ露ハ *Menschikov* フ土耳其ニ派遣セリ、英ノ表面上ノ
missions ハ土耳其カ^カ *ナポレオン* 三世ノ強制ニヨリ羅馬國教徒ニ認
ムルトコロノ特權ニ對抗スヘキ特權ヲ^ヲ *グリイ* 教徒ニ與アルニアレト
之ト同時ニ露、土耳其間ノ永久的同盟ヲ結ビ^ヲ *カイナルギー* 條約ノ一ツ

條約ヲ振振トシテ土耳其内ニ在ル^ヲ *グリイ* 教徒ヲ保護スルノ權利ヲ
露ニ認ムヘキ、重大ナル要求ヲ土耳其ニ提出セリ、
英ハ土耳其ニ勸ムルニ遺跡ニ関スル露ノ要求ヲ容レテ国内ノ^ヲ *グリイ* 教徒
同教徒ニ對スル保護權ニ関スル露ノ要求ヲ拒絕スヘキコトヲ以テ土耳其ハ
之ニ從ヒテ遺跡ニ関スル問題ハ英ノ國境ト仏ノ讓歩トニヨリテ一八五三年
五月四日ニ簽署ヲ告ケタリ、然ルニ其ノ翌日露ハ土耳其ニ對シテ最後ノ通
牒ヲ提出シ五日間ヲ期シテ土耳其全國ノ^ヲ *グリイ* 教徒ノ特權ヲ確保
スヘキ條約ヲ結ブ、意アルヤ否マヲ答フルコトヲ求メタリ、土耳其ハ英仏
兩國大使ノ勸告ヲ容レ露西臣ニ對シテ土耳其内ノ^ヲ *グリイ* 教徒ニ對
スル保護權ヲ認メ依ツテ^ヲ *ロシヤ* 國ノ干渉權ヲ認ムルノ結果ヲ生スヘキ上
述ノ條約ノ締結ヲ拒絕セリ、
當時英及ヒ仏ハ^ヲ *ロシヤ* 國ノ干渉ニ及シ相接近シ兩國ヘ土耳其ニ勸告ス
ルニ強硬ナル態度ヲトルヲ以テ又^ヲ *ロシヤ* 國ノ牽制スルタメニ艦隊ヲ^ヲ *ダ*
ナネル スレ海峡ニ接近セル *Batavia* 灣ニ派遣セリ、
^ヲ *ナポレオン* 三世ハ国内ニ於テ其ノ権力ヲ固ムルカタメニハ心ヲ外ニ

敵セシムルノ機会ヲホムルノ際ナリシヲ以テ「ロシア」ト事ヲカマフルコトヲ意トセス。然レトモ当初ハ尙ホ「ロシア」ト開戦スルノ決心ヲ有セザリシヲ以テハ艦隊ヲ「ダーダネルス」附近ニ派スルト何時ニ六月中旬五強國カ會議ヲ開キテ以テ東方問題ヲ協定スルコトヲ提議セリ。

「オーストリー」ハ「フランス」ノ列國會議ニ「ロシア」ニ压迫ヲ加フルノ趣旨ニ鮮敏セラル、ノ虞アリトテ之ニ反対シ「ロシア」帝ノ同意ヲ經テ後ニ「ロシア」ト「トルコ」間ニ列國會議ヲ容ル、ノ議ヲ提出シテ「ウイーン」ニ於テ英、仏、墺、普ノ代表者ノ會議ノ開催ヲ見ルニ至レリ。

「ロシア」ハ「トルコ」ニ對シテ新ナル條約ノ形式ニヨラスシテ「ロシア」マレトノ旧條約ノ宗敎ニ關スル條項ノ鮮敏ヲ定ムル宣言書ノ形式ヲ以テ「ブリッセル」回教徒ニ對スル「ロシア」ノ保護權ヲ認ムル趣意ヲ含ムヘキ言明ヲナサンコトヲ求メタルカ「トルコ」之レヲ拒絶セルヨリ七月四日「ロシア」軍「トルコ」領ニ侵入シ *Mulataria* 及ヒ *Wallachina* ヲ占領セリ。然ルニ「ロシア」ハ尙ホ「トルコ」ニ對スル前戰ヲ認メスシテ自己ノ要求ノ満足ヲ得ルタメノ有形的担保トシテ「ゲズ」ニ「ブ」地方ヲ占

領セルニスヤサルコトヲ宣言セリ。
「ロシア」カ事ヲ起セシハ英及ヒ仏ノ共同の行動ヲトリ得ヘカラサルヲ因リ、又普及ト塊カ終始「ロシア」ニ對シテ好意的ナル中ロヲ守ルハシトスルハレオタメナリ (*Neutrality bienveillante mobilisable*)

Neutrality.)
普王「フレデリック」ウヰリアム「四世」ハ平和ヲ欲ムルニ意ナリ、而シテ

國民的統一ヲ主張スル普ノ愛國者ハ「ロシア」帝ノ *Blunich* 公使ニ關係セルヲ含ミシレト結ソマ欲セス。然ルニ保守黨ハ英ノ證據タル「ロシア」ト斷ツヲ欲セス、於テ普王ハ證據ノ態度ヲ持シテ墺ヲ牽制スル策ニ出ラタリ、突ハ最ニ普ノ叛亂ニ關シテ *Umsicht* ノコトニ關シテ「ロシア」ノ

援助ヲ受ケタルノ回恩アリト云モ「ロシア」カ「バルカン」半島ニ勢力ヲ擴張スルヲ欲セス、於テ普王ノ回ニ立テテ調停ヲ試ミ一ハ以テ戰爭ヲ防止シ一ハ以テ「ロシア」ノ優勢ヲ制止セントセリ。「ウイーン」ニ於テ英仏

普四國代表者會シテ「ロシア」ト「トルコ」間ニ調停ヲ入ル、ワ議シ其ノ議定セル七月二十八日附、「ウイーン」通牒カ文意曖昧カラ以テ「トルコ」

ハ之レカ修正ヲ求メ結局ニ於テ調停ハ不調ニ終リ九月下旬英仏西國ハ公要
 アレハ英ノ艦隊ヲシテ「ダーダネルス」海峡ヲ通過シテ「コンスタンチノ
 ーブル」防禦ノ任務ニ當ラシムヘキ準備ヲナセリ、此ノ折「ロシヤ」帝ハ
 「ウイーン」ナレニ赴キ東歐三國ノ同盟ヲ回復セント試ミシモ成功セザリキ、
 一八五^三年十月四日土耳其ハ戰爭開始ノ詔勅ヲ發シ翌日 *Moldavia*、
Wallachia ニ公國ヲ占領スルロシヤ軍ノ指揮官ニ對シ撤退ヲ要求セリ、
 本月二十二日英仏艦隊ハ土耳其帝ノ要求ニ依リ「コンスタンチノール」
 ニ赴ケリ十一月三日「ロシヤ」ハ土耳其ニ對スル正式ノ宣戰ヲ行ヘリ、
 「ウイーン」ナレニ於テ西國ノ調停會議尙ホ行ハレ十一月月上旬土耳其政府ニ
 向ヒテ媾和會議開始ニ同意スル條件ヲ伺ヘリ、然ルニ之ヨリ先十一月三十
 日黑海ニ於ケル「ロシヤ」艦隊カ不意ニ *Sinope* 港ニアル「コトル」
 艦隊ニ襲撃ヲ加ヘ多数ノ土軍艦ヲ破壊セルヨリ土耳其ハ十二月四日英及仏
 ナ其ノ艦隊ヲ黑海ニ入ル、コトヲ要求セリ、
 英ニ於テ *Palmeston*、主戰論勝ヲ制シ *Aberdeen* 内閣モ「ナボ
 レオン」三世ノ提議ヲ容レテ聯合艦隊ヲ容ル、ニ決意スルニ至レリ、一八

五四年一月四日聯合艦隊黑海ニ入り且ツ「セバストポール」ニアル「ロシ
 ヤ」艦隊司令長官ニ向ヒテ其ノ艦隊ヲ黑海ニ出動セシメサルコトヲ要求ス
 ルニ依レリ、之ヨリ先 *Sinope* 事件ノ後「コンスタンチノール」ニア
 ル四強國ノ代表者カ媾和條件ノ協議ヲ土耳其ニ提議シ土耳其ニ同意セシカ
 先ツ *Moldavia*、*Wallachia* ニ公國撤兵問題ヲ議シテ後ニ媾和
 問題ニ及フヲ求メ大体ノ媾和條件ヲ示セリ、「ウイーン」ナレノ四國會議モ之
 レヲ承認シ、一八五四年一月二十三日ニ壞ハ「ロシヤ」ニ對シテ之ニテス
 ル交渉ヲ行ヘリ、然ルニ「ロシヤ」ハ先ツニ公國ノ撤兵問題ヲ議スルト云
 フコトヲ肯ンセズ、「ロシヤ」帝ハ英及仏カ艦隊ヲ黑海ニ入レ且ツ艦隊ノ
 出動ヲ防止セントセルニ對シ憤怒シ二月四日「ロンドン」及ヒ「パリ」ニ
 駐屯スル外交使節ヲ召還シ英仏モ又「ロシヤ」ニ在ル外交使節ノ帰國ヲ余
 セリ、英及仏ハ一八五四年ノ二月二十七日附ノ最後通牒ヲ「ロシヤ」ニ發シ
 テニ公國ヨリ撤兵スルコトヲ求メ政府ノ月ヨリ六日內ニ答ヲ返アルコトヲ
 迫リ、三月十四日 *Ultimatum* ナ「ロシヤ」政府ニ交付サル、ニ至リ「
 ロシヤ」政府ハコレニ答フルヲ拒メリ、

三月十二日英仏及土三国ノ同盟ニ「ロシア」ニ対スル「コンスタンチノ
 ーブル」ノ同盟條約結ハレ三月二十七日英及仏ハ爾戰ヲ布告スルニ至レリ、
 英及仏ノ同盟ニ於テハ「ロンドン」條約結ハレテ土耳其ヨリ「ロシア」兵
 ヲ逐フ為メニ海陸ノ共同の行動ヲ行フコト、ニ因リ目的カ政勢力均衡維持
 ニアルヲ以テ兩國ハ共ニ私ノ利益ヲ因ラサルコトヲ約束セリ、
 「ナポレオン」三世ハ国内ニ於テ自己ノ権カヲ固ムルタメニ國民ノ耳目
 ヲ外ニ転セシメント欲セリ、且ツ彼ハ一種ノ革命的政策ヲ抱懐シテ列國會
 議ニ依リテ一八一五年ノ條約ヲ更メテ政治地圖ヲ變更シ其ノ際テ抱ケル
 民族主義ノ理想ヲ實現スルト同時ニ仏ヲシテ「*Prussia*」ノ自然の境界ヲ得セシ
 メントスルノ志ヲ抱キ「ロシア」ニ對シテ戰爭ヲ以テ其ノ計畫實現ノ策地
 ヲ作ラントセリ、於茲英ト共ニ「ロシア」ト交戦スルヲサケサルナリ、
 独乙ニ於テハ露西亞軍ノ「*Danubius*」地方ノ占領ハ独乙人「*Danubius*」
 河航行ノ自由ヲ危クスルモノトナシ、独人ノ同盟ニ「ロシア」排斥ノ思想盛
 ニ行ハル、ニ至レリ、而ルニ独乙ノ諸小邦ノ君主ハ多クハ「ロシア」帝
 カ保守主義現状維持主義ヲ支持スルヲ喜ヘリ、英及普ハ一方ニ於テ「ロシア」

ノ同盟ヲ結ヒ少クトモ好意的中立ノ態度ヲナスヘキノ勸誘ヲ受ケ他方ニ於
 テ英及仏ニ因リ「ロシア」ニ對スル同盟ニ加盟スヘキノ勸誘ヲ受ケシカ何
 レニ對シテモ満足ヲ与フルヲ欲セス普ハ「ロシア」ヲ助ケテ戰フノ意思ナ
 キモ又之ヲ敵トシテ戰フノ意ナク主トシテ獨ヲ牽制シテソノ勢力ヲ加フル
 コトヲ妨クルニ留意セリ、獨ハ「ロシア」ノ東歐ニ於テ志ヲ逞シフスルコ
 トヲ制止セント欲スルヲ以テ「ロシア」ヲ助ケルヲ欲セサルト同時ニ又之レ
 ヲ敵トシテ戰フヲ欲セス、「ロシア」帝カ一月中依節ヲ「*Vincennes*」ニ送
 リテ好意的中立ノ態度ヲトルヲ求ムルヲ獨ハ「ロシア」カ「*Danubius*」
 河ヲ越エテ軍事行動ヲ行ハス又土耳其ノ領土ノ保全ヲ尊重スヘキヲボメ英
 仏ノ爾戰後四月九日「*Vincennes*」ニ於ケル四國代表者ノ會議ハ「*Vincennes*」
 軍ノ「*Danubius*」地方ヨリ撤退スルヲ要求スヘキコトヲ定メ土耳其ノ獨
 立及領土保全ノ維持ノ必要ヲ認メタリ、五月二十三日ニ於テ「*Vincennes*」
 國宣言ヲ行ヘリ、

独乙ノ奧普ニ因ハ一八五四年四月二十日ソノ領土ノ相互的担保及独乙ノ
 権利々益ノ防衛ヲ目的トスル防禦同盟ヲ結ビ以テ相助ケテ中立ノ地位ヲ維

持スヘキコトヲ約シ、又「ロシヤ」ニ公國ヲ占領セルコトハ他乙ノ利益ヲ害
セルヲ以テ協カシテ其ノ占領ヲ終止セシムルコトヲ約セリ、コノ防禦同盟
ノナレルハ普カ埃ヲシテ中立セシメ之ヲ牽制シ且ツ「ロシヤ」ノ好意ヲツ
ナカント欲シ埃ハ他乙ニ於テ独リ「ロシヤ」ノ帝ノ敵トナルヲ憚リ未得ハ
クハ普ト連合シテ双方ノ交戦國ノ間ニ立テ武装的調停ノ手段ニヨリ「ロシ
ヤ」ノ東政ニ志ヲ逞シフセントスルヲ妨ケ且埃ノ勢力ヲ増サント欲スルニ
ヨル、此ノ同盟條約ノ締結ニヨリ埃ノ行動ハ束縛セラル、ヲ免カレサルニ
至レリ、六月三日埃ハ露ニ対シ「ダニエーブル」地方撤兵ノ担保ヲ要求シ、
「ロシヤ」ハ一旦拒絶セシモ「ロシヤ」モ埃ヲシテ戦争ニ参加セシムルヲ欲セスシ
テ遂ニ七月三十一日以後「ダニエーブル」地方ノ撤兵ヲ行フニ至レリ、埃ハ
六月二十三日ノ土耳古ノ條約ニヨリ平和克復ニ至ルマテ保護ノ為ニ之レヲ
占領スルコト、ナレリ、英仏ノ攻撃同盟ト埃普ノ防禦同盟トカ相並ンテ存
シ此ノ二同盟ニ属スル四強國ハ「ウイーン」ニ於テ會議ヲ継続シ四月九日
及ビ五月二十三日、通牒ヲ發セシカ八月八日「ウイーン」ニ於テ英仏及埃
ノ三國代表者カ媾和ノ基礎トシテ「ダニエーブル」諸公國ニ於ケル「ロシヤ」ノ

保護權ノ終止、「ダニエーブル」河航行自由、黑海及黑海海峡閉塞ニ關スル既
存ノ條約ノ修正、土耳古内ノ「ゴグリ」ニ「回教徒」ニ對スル「ロシヤ」ノ独占的
保護權ノ要求ノ撤回等ノ四條件ヲ「ロシヤ」ニ要求スヘキコトヲ定メタリ、普
ハ「ロシヤ」ノ歎心ヲツナカント欲スルヲ以テ「Memorandum」
ニ調印スルヲ拒メリ、

一方ニ於テ英仏カ戰ヲ維持シ九月中旬ヨリ「クリミア」半島方面ニテ戰ヘリ、
埃カ同盟ニ加ハラサルヲ以テ英仏ニ國ハ兵ヲ「ダニエーブル」方面ニ用ユルヲ得
ス、而シテ「セバスタポール」ノ陥落ノ困難ヲシテ二國ハ埃ノ敵タル「サルヂニ
ア」ヲ誘ツテ之レト同盟ノ協議ヲナスニ至レリ、

埃ハ此ノ協議ヲ聞テ知リテ終ニ死ヲ決シテ一八五四年十二月二日英及仏
ト條約ヲ結ヒテ八月八日議定セル媾和基礎條件ニ基テ平和ヲ翌年一月一
日マチニ回復セラル、コトナケンハ埃ハ二國トカラ協セテ三國ノ目的トナ
ストコロヲ逞スルニ有效ナル方法ヲ講スヘキコトヲ約束セハ英仏ハ他方ニ
於テ「サルヂニヤ」ト談判ノ歩ヲ進メ一八五五年一月二十六日「Paris」ニ於テ
同盟條約調印サレタリ、「サルヂニヤ」ハ一萬五千ノ兵ヲ出スコト、ナレリハ

英ハ二万五千、*Prussia*ニ於テ一八三〇年以來 *Prussia* 政局ニ當リ
伊統一ノ計畫ノタメニ其ノ特別ノ利益ヲ有セサル東方國々同シテ「グリミ
ヤ」戦争ニ加ハルニ至レリ、

一八五四年十二月ニ日ノ條約ヲ結ヘル後三國ハ一八五四年十二月ニ
十八日「コンヤ」ニ對シテ三國ノ要求スル四條件ヲ提出シテ之ニ對スル意
見ヲ達セリ、「コンヤ」ハ之等四條件ヲ以テ秋義ノ起スル *Shantung point*
トナスコトニハ反對モナリシモ協議ノ未タ進行ヲ見ザル商ニ於テ二月ニ日
「コンヤ」帝「ニコラス」一世病ニ斃レ「アレクサンデル」ニ世帝位ニツキ三月十
五日ヨリ媾和談判カ「ウヰーン」ニ於テ開始セラル、ニ至レリ

英ハ「黒海」ニ於ケル「ロシヤ」ノ海軍力ニ對シ制限ヲ加ヘント欲シ、「ロシヤ」
ハ之ニ反對シ和議不調ニ終レリ、英ハ「埃」ヲシテ十二月二日、條約ニヨリ
行動セシメントセシカ「埃」カ「ダニエー」河及「ダニエー」諸州ハ *Prin-*
pality)ニ附スル要求ノ「ロシヤ」ノ軍ヲトコロトナラサルヲ見テ「ロシヤ」
ニ對シテ英ハ「埃」ト行動ヲ共ニスルヲ思ハス、カツテ「ロシヤ」ノ自己ニ對ス
ル惡意ヲ棄ラケント欲シ「黒海」ニ関シテ「ロシヤ」ニ有利ナル提案ヲナスニ

至レリ、英、仏ハ「埃」ノ不信ヲ懐ルニ至レリ、

一八五五年九月九日「セバストポール」カ内閣軍ヲ陥入ル、所トナレリ又
「バルチック」海方面ニ於テモ内閣艦隊カ示威運動ヲ行ヒ十二月二十一日英
及仏ハ「スエーデン」ノ「ストックホルム」ニテ條約ヲ結ビ防禦同盟ヲツ
クルニ至レリ、埃ハ「セバストポール」ノ陥落ニヨリ隊員ノ數定マルヲ見
又仏カ伊方面ニ於テ革命運動ヲ煽動セントスルヲ恐ル、ヲ以テ漸ク態度ヲ
改シ埃ヨリ「ロシヤ」ニ對シテ媾和基礎條件ヲ最後區條ヲ提出シ若シ「ロ
シヤ」之レヲ拒絶セハ埃モ亦「ロシヤ」ト對戦スヘシトナセリ、埃ノ提出ス
ル條件ハ英及仏ト協議シテ後ニ確定シ十二月十六日之レヲ「ロシヤ」ニ送レ
リ、其ノ基礎條件トスルトコロハ大要前年八月八日ノ條件ト合シ即チ左ノ
如クモナリ、

一、*Prussia* ニエ國ヲ諸公國ノ共同担保ノモトニオキ「ロシヤ」ノ軍
隊ノ保護權ヲ終止セシメ土耳其ニモ諸強國ト協議スルコトナクシテ之ニ
兵力的干渉ヲナスヲ得サルコト

二、「ダニエー」河ノ航行自由ヲ協定シ列國カ共同シテ其ノ実行ヲ監督ス

ルコト、

3、黒海ヲ以テ中立区域トシ、ボスボラス、ダーダネルス海峡ヲ土耳其以テ諸國ノ軍艦ニ対シテ閉スコト

4、土耳其ヲシテ政協國ノ利益ニ与ラシメ土耳其ト五強國トノ間ニ紛議生ヤルトスハ先ツ他ノ四強國ノ裁停ニ附スヘキコト

5、土耳其政府ハ其ノ領土内ノヤソ教徒ノ権利ヲ確カムルヘキコト恒シ之カタメニ毫モ土耳其帝ノ独立ト其ノ主權トヲ毀壞スルコトナカルヘキコト

6、交戰國ハ以上ノ條件ノ外ニ互リテ政全級ノ利益ヲ占トシテ其他ノ條件ヲ談クルコト

癸ハ一月十七日迄ニ回答ヲ答ケルコトヲロシアニ求メ若シロシアカ上述ノ條件ヲ容レサレハ媾和スルヲ拒絶セリ、癸ハ直チニ國交断絶ヲ行フヘシトナセリ、前年十二月末ニロシアハ「アジアノ Peace」ノ方面ニ於テ勝利ヲ得「ロシア」軍隊ノ名譽ヲ回復セルヲ以テ之レヲ機會トシテ媾和談判ニ志スルコト、シ癸ノ要求ヲ容ル、ニ至リ交戰諸國ノ委員ハ二月一日「ウオーシ」

於テ媾和予備條約ニ調印シ、而シテ三週間内ニ列國會議ヲ「パリ」ニ開クコト、ナセリ、

「パリ」列國會議ハ一八五六年二月二十五日開会シ此ノ會議ニ列セルハ英仏獨「サルヂニヤ」、「ロシア」及「トルコ」六國ノ代表者ニシテ全ク戰爭ニ關係セザリシ普ハ一八四一年七月ノ新云海峽條約改正ノ問題ヲ議スル際仏ノ派議ニ依リ其ノ代表者ヲシテ參會セシムルヲ得タリ、

「パリ」媾和條約ハ三月三十一日調印サレ今時ニ海峡ニ干スル條約並ニ「ロシア」、「トルコ」間ノ黒海ニオクヘキ軍艦ノ制限ニ干スル協定ハ結ハレタリ、之等ノ約束ハ「パリ」ノ本條約ノ一部分トシテ列國ノ担保ヲウケタリ、同日結ハレシ *Aland* 群島ニ關スル英、仏、「ロシア」間ノ條約モ亦然ルナリ、

「ナポレオン」三世ハ當時其ノ武威ヲ中外ニ榮揚シ其ノ勢力優勝ナリシカ、サルヂニヤヲ誘フテ戰爭ニ參加セシメ依ツテ之ヲ列國會議ニ列セシメ又普ヲヒキイテ會議ニ与ラシメ普及「サルヂニヤ」ヲ英國トシテ會議ニ勢力ヲ占メタリ、「パリ」會議ニ於テ「ナポレオン」三世ハ調和的態度ニ出

テ露ノ欲心ヲ收ムルニ努メ英ハ戰爭ノ目的ヲ貫徹スルヨリハ寧ロ仏、意、
 接近ヲ妨害スルニ苦心セリ、^{「ナポレオン」三世ハ仏ノ領土ヲ極ク民族主義ノ}
 理想ヲ行フノ將來ノ計画ヲ実行セント欲スレハ英トハ台ニ於テ、又埃トハ
 何ニ於テ利害衝突シ仏ト埃埃トノ戰爭當時ノ干係カ長ク維持シ難カルハ
 マ現テ「ロシヤ」ニ近ツキ普ニ恩ヲ売リ、^{「サルヂニヤ」ヲ強メ之等ノ國ヲ時}
 東ノ英國トナサント欲セシモノ、如シ、^{「パリ」會議ノ中「ナポレオン」三世}
 ハステニ民族主義ニテスル主義ヲナセリ、^{「Moldavia」及「Wallar」}
^{「Sic」ヲ土耳其ノ主權ノモトチ一ツノ公國トナシ其ノ君主ヲ自選セシメン}
 トスルノ案之レナリ、英、埃、土耳其ノ反対ニヨリテコノ案カ會議ニ於テ
 決定ヲ見ルニ至ラスシテ後日ヲ期シテ別ニ會議ヲ開キ「ダニユーブル」公國
 ノ運命ヲ決定スルコト、ナセリ、

「パリ」條約ノ重要ナル各項左ノ如シ、

I. 「トルコ」以外ノ締約國ハ土耳其帝國カ爾後國際公法及政協諸ノ利益ヲ享
 受スヘキコトヲ認メ締約國ハ土耳其ノ独立及領土保全ヲ尊重スルコトヲ
 約シコノ約束ヲ嚴守スルコトヲ共ニ担保シ之カ侵害的行為ヲ以テ一概

利害干係ノ問題ト考フヘシトナセリ、（第七條）

II. 將來土耳其ト他ノ締約國トノ間ニ其ノ間ノ干係維持ヲ危クスヘキ紛議
 ヲ生セシトキハ兵カラ使用スル前ニ先ツ他ノ締約國ニ調停ノ機會ヲ與フ
 ヘキコト、ス（第八條）

III. 土耳其帝カマソ教徒ヲ信スルノ趣旨ヲ以テ勅命ヲ發シ宗教人種ノ別ナ
 ク人民ノ状態ヲ改良スヘキヲ是メ之レヲ協約國ニ通告シ、締約國ハ其ノ
 通告ヲ重ンスヘキコトヲ認メタリ、但シ締約國ハ土耳其帝ト其ノ臣民ト
 ノ間ノ干係又ハ土耳其帝國內ノ行政ニ聯合セラモ單獨ニテモ干渉スルコ
 トハ之ヲ行フ能ハストス、

IV. 別ノ附屬條約ヲ以テ「ボスボラス」及「ダーダネルス」海峡ヲ外國軍
 艦ニ對シテ閉塞スルノ土耳其ノ古キ法ノ維持スルヲ約スヘキ一八四一年
 ノ海峡條約ニツキ多少ノ修正ヲ施シテソノ閉塞ノ原則ヲ確保スルコト、
 シ、之ヲ「パリ」條約ノ一部ト見做スコトヲ定ム（第十條）

V. 黑海ヲ中立トシ（*Neutralize*）「ロシヤ」、土耳其兩國カ沿岸ノ任
 務ノためニ協定シテ海フル小形ノ軍艦等ノ特定ノミヲ除ク何國ノ軍艦モ

永久ニ其ノ水域及港灣ニ入ルヲ得サルモノトシ、又黒海ノ沿岸ニ海軍用
工廠ヲ置クヲ禁スヘキヲ定メタリ(第十一條、第十三條)。

但シ黒海ニ於ケル凡テノ國ノ商船、自由航行ヲ許スヘキモノトセリ、
黒海ノ水域ニ於ケル通商ハ衛生、関稅、警察ノ規則ノ外ニハ何等ノ束縛
ヲウケサルヘシトセリ。

四. 「グニユーブ」河ノ航行ノ自由 (Freedom of navigation) ヲ
確ムルタメニ規定ヲ設ケテ二種ノ國際委員會ヲ置キ又之レカガメ「ロシ
ヤ」ヲシテ *Bezarabia* ノ境界ノ修正ヲ認メシム。

四. *Mordania* 及 *Wallachia* ハ土耳其ノ宗主權 *Suzerainty*
ノモトニ立チ各マーツノ公國トシテ締約國ノ *guarantees* ノモトニ在
赤ノ特權ヲ保有スヘク何國モ之ニ對シ私占的ノ保護ヲ行フコトナカルハ
ク又其ノ内事ニ関シテ特別ノ干渉ノ權利ヲ存セサルヘシトセリ、之レ之
等地方ニ於ケル「ロシヤ」ノ私占ノ保護權ノ主張ヲ終止セシムルモノア
リ (*Kainardji* 條約ニ條項ヲ之ニテ確カム) 而シテ「ロシヤ」ノ權
限ナル「グニユーブ」河ノ *Bezarabia* 一部ノ土地ハ *Mordania*

via ニシテ合ハスト云フ事トセリ。

四 土耳其 *Me. M.* ノニ公國ニ於テ独立ニシテ國民的ナル行政ハ *adminis-*
(Darem) 並ニ宗教立法 (*regulation*) 通商航海ノ完全ナル自由
ヲ維持スヘキヲ約シニ公國ノ將來ノ組織ニ干シ國際委員會ヲ設ケ又地方
人民ノ選出スル臨時ノ委員會ヲ設クルコトヲ定ム、然シテニ公國ハ國民
的兵力ヲ有スヘクニ公國ノ内政ニ於テ擾亂ノ起レル場合ニハ土耳其政府
ハ秩序ノ維持スヘク回復ノ手段ニツキ他ノ締約國ト協議スヘク之レ等契約
國ノ事前ノ同意ヲクシテ兵力的干渉ヲ加フルヲ得ストセリ。

IX. 「セルビヤ」モ土耳其ニ隷屬スル *Principality* トシテ其ノ自來ノ特
權ヲ保有スヘク締約國ノ共同担保ノ下ニオカルヘキモノトセリ、從テ該
國ハ独立ニシテ國定のナル行政ヲ保有スヘキモノトス、從前ノ條約ニ依
リ土耳其ノ守衛兵ヲ置ク權利ハ之レヲ維持セシメタルモノセルビヤニ
於テ締約國間ノ事前ノ同意ヲクシテ兵力的干渉ヲ得サルモノトナセリ。

X. 「ロシヤ」及土耳其ハ *Asia* ノ領土ニ關シテ戰前狀態回復ノ原則ヲ認メ
タリ (*Statu quo ante bellum*, *utiposuitus*) (as you

Pravets)ノ原則ニ反対ナルモノナリ、M. P. ハ戦ニヨリテ変リシ即
戦後ノ現有状態ノコトヲ云フ)

XI Finland ト「スエーデン」ノ向ニ「トル」ナルラントニ「ロシヤ」ニ
向テ「コシヤ」ニ「回」ノ間ノ特別ノ條約ヲ以テ「ロシヤ」カ兵備ヲ減テス
又「港」ヲ設ケサルコトヲ約束シ「ロシヤ」ノ條約ハ之レヲ「パリ」ニ
「媾和」條約ノ一部
ト見做スコト、セリ

「パリ」ニ「條約」調印ノ後四月八日會議ニ於テ「トル」ノ全權委員タル
Macle
「トル」ハ「ドグリス」ノ向題及ヒ「伊」向題等ニ関シテ説クトコロアリ、
「伊」ニ於ケル「埃」軍ノ「Modena」, «Parma» 占領ニ言及シ「英」全權委員ハ「埃」
カ撤兵ヲナスヘキコトヲ説キ「埃」ノ全權委員ハ會議ニ於テ東方向題ニ干セ
サル「伊」向題ヲ議スルヲ肯シセザリシカ
Carranza ハ之レヲ機會トシテ
「埃」全權委員ノ面前ニ於テ「埃」カ「伊」ニ於テ其ノ勢力ヲ濫用スルノ弊ハ「伊」平
ニ於ケル革命ヲ煽揚シ「政」全体ノ「禍」亂ノ原因ヲ作ルコトヲ説キテ「伊」向題ヲ
以テ政向題トナスノ端緒ヲ開クコトヲ得タリ、
「パリ」ニ「會議」ニ於テ「埃」
戰法規ニ関スル「パリ」ニ「宣言」カ議定サレ

- 1. 捕獲私船 (Prize)ノ禁止
- 2. 中立船中ノ敵貨ノ捕獲免除 (Enemy goods)
- 3. 敵船中ノ中立貨ノ捕獲免除
- 4. 封鎖ノ実行的ナルコトヲ要スルコト

「トル」ニ「戰」後ノ「政」強國ノ外交ニ及セル影響ヲシルニ「ロシヤ」ハ昔
日ノ敵望ヲ失ヒ「單」放ニ「土」耳古ノ内事ニ干渉スルヲ得サルニ至リ「ダ」ニ「ユ」
「ブ」治事ノニ「公」國ニ干スル此等ノ「法」規ヲ失ヒ一時「土」耳古方面ニ対スル進出
ノ企圖ヲ中止スルニ至リシカ之レカ「反」動トシテ中央「ア」ジヤ及「シ」ベリヤ方面
ノ經營ニカヲ用ユルニ至レリ、
「パリ」ニ「條約」ノ定メシ「黑」海中立ノ條規ハ「ロ」
シヤ「深」ク「感」辱トスル所ニシテ後ノ「普」仏戰爭ノ起レルニ至テ「遂」ニ之レヲ
廢止セシムルコトヲ得タリ、
「トル」コ「ハ」ロシヤノ「優」勢ニヨリ「危」險ヲ免レ「諸」
國ノ「伍」伴ニ入ルヲ懇メラレシノミナラス、其ノ「獨」立及「領」土保全ヲ担保セラ
ル、ニ至レリ、
「ロシヤ」ノ「野」心ニ對シテ一時小康ヲ得シ如クモ「ダ」ニ「ユ」
「諸」公國カ漸ク分崩セントシ「國」勢「振」衰振ハス内政改革モ行ハレズ「土」耳古ノ「批

政ト土耳其内ノ民族ノ運動ト「ロシア」ノ進出ノ企トニヨリ遂ニ再々「ロシア」ト戦フ事ヲニシル

英國ハ「ハリ」條約ニヨリ「ロシア」ノ地中海ニ進出スルヲ防クノ利益ヲ收ムルヲ得タリ、乍然國民ハ戦争ノ困難ヲ経験シテ尔後戰ヲ忌ムニ至リ且ツ

*Palmerston*ノ威嚇的政策 (*Intimidation*)ハ戦争ヲ行フコトヲサマサルニハ其ノ効力ナク以後英ハ歐大陸ノ外交ニ対シ昔日ノ如ク勢力ヲ振ツ能ハサルニ至レリ

仏ハ「グリミマ」戦争ニヨリテ威信ヲ高メ「ウイーン」會議動モスレハ外交上殊外セテレタル形勢ヲ一変シ一時外交界ノ中心トナレリ

奥モ「グリミマ」戦争ノ折ノ処置ニヨリ「ロシア」ト隣ト東歐ニ回向ノ近密ヲ保被ルハニ至リ「ナポレオン」ハ一時「ロシア」ニ近ケリ

「ナポレオン」ハス即及普ヲ連ネテ其ノ民族主義ノ理想ヲ行ハントスルモノナリ、奥ハ一時「ロシア」ノ「メニエト」地方ニ出ツルヲ妨グルノ利益ヲ收メシモ「グリミマ」戦争ノ折田恩アルニ保ハラス「ロシア」ヲ棄テ又断然英及仏ト行動ヲ内ウスルコトヲモナサ、リシヨリ一方ニ於テハ「ロシア」地方ニ於テハ英仏

ノ情ヲ招キ、而シテ俄及伊ニ於テ民族的独立及統一ノ思想奮起シ仏ノ「ナポレオン」三世又民族主義ノ政策ヲ行ハントセルヨリ奥ハ孤立シ外敵ナクシテ仏、普、伊ニ抗敵スルノ干係コ立ツニ至レリ、且ツ財政困難ニシテ安撫ソナハラス遂ニ外交界ニ於ケル昔日ノ勢カヲ失スルニ至レリ、普國カ戦争ニ於テ中立ヲ守リシモ奥ヲ牽制シテ其ノ外交ヲ妨ケ之ニヨリテ恩ヲ「ロシア」ニ盡レリ、普ハ一方ニ於テ國カヲ養ヒ他方ニ於テ「ロシア」帝ノ歡心ヲ收メ「ナポレオン」ヲ標榜シ其ノ國ニ民族的統一ノ機運ニ策シテ統一ノ策ヲ遂ケント欲セリ、普ノコノ政策ノ実行ノ任ニ當レルハ *Bismarck* ナリ、「ナルヂニマ」ハ「グリミマ」戦争ニ於テハ大イニ得ル所ハナカリシモ當時ノ *Cannell*ノ外交政策ノ為メニ列強ト近スルニ至リ復日ノ伊ノ統一ノ策地ヲ作リ、

「パリ」會議ニ於テ「ダニエーブ」ニ公國ノ併合問題ハ決定ヲ免ス又「モンテネグロ」独立問題モ是レカ公認ヲ見ステ終レリモ「グリミマ」戦争以後「バルカン」半島諸邦國ノ間ニ民族主義ノ運動盛ニ起リ一八六六年 *Melchior* 及ヒ *Malachia*ニ公國合併シ「ルマニヤ」ヲ成スニ至レリ、「セルビヤ」モ本

スニヤヲ併セント試ミ「ギリヤ」モ *Crete* 島ヲ併セントセリ、之等民族主義的運動ニ於テ「ナポレオン」三世ハ帝ニ後援ヲナセリ、當時等ハ東方向ニ邁ニツキテ「ロシア」ト共ニ概シテ仏ト行動ヲ全シウセルカ「ルーマニヤ」併合ニ干シテハ其ノ君主トナレルカ「ル親王カポーハンツォルレン家ノ皇族タルノ理由ヲ以テ特ニ之レニ援助ヲ与ヘタリ、「ギリヤ」戦争以後政外交界ノ形勢一変シ英、「ロシア」、奥ハ主動者タルノ地位ヲ去リ仏、伊、普カ之ニ代テ主動者トナラントス、

伊統一「ギリヤ」戦争ニ於テ「サルヂニヤ」カ其ノ直接ノ利害干係ヲ有セサル東方向ニ邁ニツキテ英及仏ト同盟ヲ結ビテ戦争ニ参加セルハ一八五二年以前前相トシテ政局ニ挙クル、*Carouel* カーハ「サルヂニヤ」ヲシテ諸強國トスルニ至ラシメ列強殊ニ英仏ノ助カヲホムルノ基礎ヲ造ラント欲スルカタメナリ、「サルヂニヤ」ノ参戦ヲ促セルハ「ナポレオン」三世ナリ、「ナポレオン」三世ハ其ノ將來ノ計画ノタメニ「サルヂニヤ」ノ勢力ヲ増シ之レヲ巴レノ属國トナサント欲セリ、「サルヂニヤ」ハ「ナポレオン」ノ勢力ヲ利用シテ何統一ノ目的ヲ達セント欲セリ、*Carouel* ハ仏ノ援助ヲホムルト同時ニ英ノ好

意ヲツナグコトニ苦心セリ、*Carouel* ハ「ナポレオン」三世ノ危険人物ヲ以テ目スル *Magnin* *Yonkoldis* 等ノ革命運動ヲ利用シ其ノ運動ノ「サルヂニヤ」王室ヲ中心トスル伊統一ノ計画以外ニ遠スルコトヲ抑制セントセリ、「ナポレオン」三世ハ風ニ民族主義ノ理想ヲ抱キ又「ラテン」人種ヲ合セテソノ主トナリ、「ゲルマン」ノ「スラブ」ニ当ルノ空想ヲ有セリ、且ツ其ノ親戚故旧ニ伊人多ク青年トシテ伊ニ寄寓セルコトアリシ故伊ノ孤立ニ対スル内情深キノミナラス其ノ従弟「ナポレオン」親王ノ如キ傍ヨリ伊孤立ノ援助ヲ懇懇スルモノアリ然民族的运动ヲ援助スルコトニヨリ「ローマ」法王ト商レ其ノ機 *Buglinie* ト聯絡ヲ有スル旧教徒ノ反対ヲ招クニ至ランコトヲ懼レタリ、於茲「ナポレオン」三世ハ伊ニ関シ確信的政策ト保守的政策トノ間ニ彷徨シ断然タル決定ヲナスヲ得サリキ、然ルニ一八五八年一月 *Belin* ナル者「ナポレオン」三世ノ曾テ伊救援ヲ約スルニ不拘其ノ為ヲ履行セサルヲヤメテ爆彈ヲ「ナポレオン」三世ノ齒簿ニ投スルノ暴挙ヲ行ヘレ機「ナポレオン」三世ハ伊ヲ墮ヨリ孤立セシムルノ計画ニ着手サルニ至レリ、
一八五八年六月二十日及二十一日 *Caporn Plombilis* ニ会合シ

協議スルトコロアリ、コノ協議ノ結果ノ大様ヲ案スルニ若シ「サルヂニヤ」カ仏ノ内意ヲ得ヘマ時期ニ於テ革命的臭味ヲ帯ヒ又他ヨリ攻撃的ト認ノラレサルハモ戦争ヲ按ニ対シ行フ場合ニハ仏ハ「サルヂニヤ」ヲ助ケテ戦ニ加ハルハシトナシ、略々翌年春ヲ以テ交戦ニ入ルヲ定メシモノ、如シ、戦後「サルヂニヤ」ハ「バネチヤ」コロンバルド「ヲ併セテ場合ニヨリテハ Paris, Modena, Romagna」ヲ併セテ北伊王国ヲナシ伊半島ニ北伊中部伊 (Tavarni) チキストス「法王領及「ナポリ」王国 (Two Sicilies) ヲリナル聯邦ヲツクリ「ローマ」法王ヲ以テ聯邦ノ名譽主權トナサントシ、而シテ仏ハ伊ヲ埃ノ勢力ヨリ孤立セシムルヲ助カスルノ報酬トシテ *La Bay*」ヲ得ヘク場合ニヨリテハ *Milice*」ヲ併セ得ヘキモノトナセルモノノ如シ、

一八五八年十二月十日ニヨリ *Turin* ニ於テ仏及「サルヂニヤ」ノ間ニ秘密同盟條約結ハレタリ、其ノ大要ハ *Plombieres* ノ協議ニヨリステニ定マレルトコロナリ、仏ハ二十方ノ兵ヲ以テ伊ヲ助ケク埃ノ勢力ヲ全ク伊ヨリ驅逐サル、ニ至リテ初メテ講和スヘキコトヲ定メタリ、此ノ條約

ニ於テ仏ハ割讓ヲ締結セシメタルハ *Savoy* ニ止ル *Nice* ノ伊ニテスル計畫ハ伊ノ民族的獨立ノ程度ニ止マルト云ヒ得ヘクホタ民族的統一ヲ謀ムルニ至ラス、*Cavour* ハ「ナポレオン」ノ計畫ヲ以テ満足セスト雖モ民族的運動一度起ラハ遂ニ統一ニ達セサレハ止マサルヲ察シテ遂ニ同盟條約ニ調印セリ、*Car. II* 會合ノ後途ヲ斷シテ故ニ赴キ時ノ投政「ウイリアム」親王ニ會シ普ノ中立的態度ヲ守レハキヲ種メテ復歸國セリ、仏ハ東方向懸ニツク「ロシア」ト行動ヲ共ニシ伊戰等ニ関スル「コロンバ」ノ行動ヲ種メテ諸種ノ事件ニ関シテ普ト歩調ヲ全フシ普ノ投政ノ好意ヲ確ムルコトヲ圖レリ、

埃、「サルヂニヤ」ノ間ノ外交干係ハ已ニ險惡ナリシカ「サルヂニヤ」ハ「ナポレオン」三世ト秘密條約ヲ結フヲ得タルヲ以テ埃ヲ排斥シテ戰ヲ起サシメントシ種々計畫スルトコロアリ、埃及ヒ「サルヂニヤ」ハ共ニ戦備ヲ整ヘ美ハ二月中旬頭停ヲ提議シ「ロシア」ハ仏帝ノ希望ニ基キテ列國會議前催ヲ提議シ埃ハ先ツ「サルヂニヤ」ヲシテ戦備ヲ廢セシメ又會議ニ「サルヂニヤ」ヲ加ヘサルコトヲ要求セリ、仏ハ「サルヂニヤ」ト共ニコノ要求

ヲ密セス。四月中旬ニ英ハ東ニ仏境及ヒ「サルヂニヤ」カ列国会議ノ開會
ニ先キ内閣ニ戰備ヲ撤去スルノ提議ヲナセリ。「ナポレオン」ニ世ハ戰ヲ
好ムモ尚ホサケント欲セシヲ以テ「サルヂニヤ」ニ説キテ之レヲ兼認セシ
メタリ。Councilハ開戦ノ好時期ヲ違スルヲ忌ムルカ迄々埃ハ列国会
議ノ策ノ不利ヲ諷スヘキヲタシス。Canningノ埃排斥ノ宣伝ノ結果ト
シテ生シタル双方ノ人心ヲ激昂ノ勢ニ促ナレヌ。Canningノ苦肉ノ策ニ
ヨリテ伝布セル虚報ニアマレテ後、「サルヂニヤ」ノ戰備ノトハハ
ナルコトヲ信シ而シテ戰一旦起ラハ俄乙聯邦ノ後援ヲ得ヘク英ノ好意的中
立ヲ守ルヘク、場合ニヨリ之レヲ同盟ニ引キ入ル、ヲ得ヘシトノ考ヘノ終
ニ意ヲ開戦ニ決シ戰備ヲ撤去シ軍隊ヲ平時ノ状態ニ復スルコトヲ要求スル
最後ノ通牒ヲ「サルヂニヤ」ニ送リ三日以内ニ返答ヲナスコトヲホメタリ、
Ultimatumハ四月二十三日「サルヂニヤ」ニ交付サレ、四月二十六
日「サルヂニヤ」ハ之レヲ拒絶シ戰ヲ好ムノ名ヲ蒙ラスシテ其ノ統一ノタ
メニ必要トスル戰ヲ開始スルヲ得タリ、四月二十八日埃カ「サルヂニヤ」
ニ對シテ宣戰ヲ行ヒ翌日埃軍ハ境ヲ越ヘテ「サルヂニヤ」ニ侵入シ、「サ

ルヂニヤ」モ埃ニ宣戰シ五月三日ニ至リ仏モ埃ニ對シテ宣戰ヲ行ヒ「アド
リマチック」海ニ至ルマテ伊ヲ自由ナラシムヘキコトヲ宣言セリ、
埃カ戰爭開始ヲ促セルノ外觀アルヲ以テ各國ハ心ヲ埃ヨリ痛スニ至レリ、
英ハ先ニ仏ノ努力カ伊ニ加フルコトヲオソレテ一時埃ニ對シテ好意ヲ表セ
シカゴハ、ニ至リ「ロシヤ」トクニ戰局ノ拡大ヲ防クノ策ニ出テタリ、
独乙諸國ハ仏ニ對シテ聯邦軍ノ動員ヲ議決セリ、普ハ「ナポレオン」ノ
同盟ノ提議ニハ応セザリシモ、ピソカニ埃カ戰事ニヨリテカヲ救ラスコト
ヲ悦ビ普初白ハ中立ヲ守リス独乙ノ聯邦ニ對シテ攻撃ニ出テシ埃ノ伊ニ於
ケル領土ニ干スル戰事ニ係シテ諸國カ埃ヲ援助スル義務ナマコトヲ説キ聯
邦議會ヲ抑ヘテミタリニ兵ヲ動かサ、ラシメントセリ、然ルニ仏軍ニミリ
ニ勝ツニ及ヒ普モ戰ノ準備ヲ修メ北征軍ノ統帥ノ任ニ當ルコトヲ条件トシ、
テ埃ヲ援助スヘキコトヲ提議シ、而シテ終ニ動員ヲ行ヒテ「ライン」方面
ニ兵カヲ集ムルニ至レリ、「ロシヤ」モ当初独乙聯邦ヲ牽制シテ戰局ノ拡
大スルヲ防グオリシカ、革命士俾各地ニ起リ且ツ「ナポレオン」カ「ハン
ガリー」ノ革命ヲ煽動シ「Kossuth」カ巨魁「タメ」ニ動搖「ポーランド」

方面ニ波及セントスルノ形勢ヲシテ革命ノ源廷ヲ峙ル、ニ至レルヨリ埃ハ

「ナポレオン」ハ一八五九年六月四日ノ *Magenta* ノ勝利ヲ得、次

イテ六月二十四日ニハ *Solferino* ノ勝利ヲ得タルヲ以テ「コンバ

ルデー」ハ其ノ叔カノ下ニ降リ「ミラン」モ仏軍ノ占領スルトコロトナレ

リ、然ルニ「ナポレオン」ハ「サルヂニマ」ト結ヘル内盟條約ヲ顧ミスシ

テ「ナルヂニマ」ニ圍ラスシテ独リ埃ト媾和談判ヲナスニ至ルコレハ埃

ノ援軍未リ優勢ヲ以テ堅固ノ地勢ニヨルニ至ルコトヲオソレ、一ハ普カ盛

ンニ戦備ヲ修メ独ノ他ノ諸邦モ亦動カトシ、「ロシヤ」モ革命運動源廷ヲ

オソレテ守立ノ態度ヲ変スルノ發生シタルニヨリ亦一ニハ何カ「ナポレオ

ン」ノ理想トセル聯邦 *Confederation* ヲ以テ満足セスシテ「サル

ヂニマ」王ノモトニ統一ヲトケ「ナポレオン」ノ予期セルトコロヨリモ遂

カニ強大ナラントスルノ形勢ヲ見テオソレテ抱クニ至レルニヨリ又一ニハ

戰場ノ惨害ヲ見テ自己ノ責任ノ重キヲアマフミ且ツ国内ノ「ローマ」旧教

徒ノ反対ノ優勢ノ高マルヲ以テ早く戦ヲ終結セシメントスル念ヲ察シタ

ルニヨルモノ、如シ、

ルニヨルモノ、如シ、

七月七日ニ休戦ヲ約シテ後七月十一日埃帝 *Francis Joseph* *Ni-*

Laprunca ニ於テ直接君主ト君主トノ談判ヲナシ媾和ヲ約 *Pron-*

iminary of Peace ヲ結ビ埃仏兩國ハ「ローマ」法王ヲ名譽的主

トスル聯邦ヲ伊ニ依ルコトニ一致シ埃ハ「コンバ」ルヂヤ」ヲ以テ讓渡シ仏

ハ更ニ之レヲ「ナルヂニマ」ニ与ヘ而シテ「ベネチヤ」ハ聯邦ノ一部ヲナ

スト内時ニ埃ニ属スヘキモノトセリ、又「タスカニー」ヲ「マドンナ」

ルマ」ノ國ヲ迷レテ亡命君主ハ其ノ旧領ヲ恢復スヘシトセリ、「ナルヂニ

マ」王ハテ法王領ニ於テ改革ヲ行ハシメントセリ、「ナルヂニマ」王ハ

「ナポレオン」カ埃ノ勢カヲ全ク伊半島ヨリ驅逐スルノ約束ニタカフヲ顧

ミスシテ又「ナルヂニマ」王ニハカルコトナリ媾和ヲ約ヲ結ヘルコトニ不

平ナリト虽モ止ムヲ得スシテ媾和ニ同意セリ、*Canstatt* ハ横リテ七月

十三日ニ首相ノ職ヲ辞セリ、「ナポレオン」ハ其ノ「ナルヂニマ」ニ對シ

テ約ヲ果サ、リシヲ以テコノ際 *Savoy* 及 *Nice* ヲ得ルヲ得サリ、

一八五九年十一月十日 *Jurice* ニ於テ媾和ノ確定條約結ハレタリ、仏及ヒ

一ニニ
奥ノ条約ニ於テハ伊聯邦ノ組織及ビ亡命君主ノ復位ニ干シテ約スルトコロアリシモ「サルヂニマ」カ奥又ハ仏ト結ヘル條約ニ於テハ毫モ之レニ干シテ言及スルトコロナシ、「サルヂニマ」ハ之レ等ノ事項ニツキテ條約上ノ拘束ヲツケス。

「ナポレオン」三世ハ其ノ伊政策ニ干シテ一方ニ於テハ「サルヂニマ」ヲ援助スルノ叔ヲ以テ奥、「ローマ」教會ヲ敵トスルノミナラス仏国内ノ保守党旧教党ト尙ル、ト同時ニ他方ニ於テ「サルヂニマ」ノ政府及伊統一ヲ希望スルモノヲ満足セシムルヲ得サリキ、於茲「ナポレオン」三世ハ維局ニ陥ルニ至レリ、「ナポレオン」三世ノ伊政策ハ当初ヨリ矛盾ヲ含メリ、伊ノ孤立及統一ノ勢ヲ助ケナカラ初ニハ「サルヂニマ」ノ強大ニ適クルヲ恐レテ「サルヂニマ」ニ因ラスシテ奥ト和ヲ結ビ後ニハ旧教徒ノ言ニキイラ「ローマ」問題ヲ以テ伊統一ノ完成ヲ待ケタリ。

「ナポレオン」ハ民族的孤立及統一ノ機運ヲ利用シテ自己ノ勢力ヲ加ヘ仏ノ自然の境界（ライン）ヲ確メント欲セルモ伊及独ノ二強國カ仏ノ近隣ニ出未タルコトハ仏ノ利益トナラスシテ「ナポレオン」ノ目的トスル所毫モ

行ハレサルニ至レリ、且ツ「ナポレオン」三世カ一旦民族的独立ヲ助ケルノ政策ヲトリナカラ自己ノ欲スル程度ニ民族的孤立ヲ止メント欲シ又「ビスマルク」ノ *eg. power for* 政策ヲ用ビテ民族的独立ヲ助ケル

ノ報酬ヲ求ムルヨリ反ツテ孤立ヲ助ケラレタル國民ノタメニ嫌惡サル、ニ至レリ、「ナポレオン」ハ屢々列國會議ニヨリ伊問題ノ解決ヲ求メント欲シ一八六〇年一月頃ニ會議ノ開催ヲナスコトニ略定マレルモ「ナポレオン」カ伊統一ノ勢ノ抑制シ難キヲ察シテ聲口之レヲ助ケテ *Jarvis* 及 *Nice* ノ報酬ヲ收メ旧教反對ノ声ヲ壓セント欲スルニ至レルヨリ一八五九年十二月下旬法王及國際會議ナル一書ヲ公ニセシメテ伊聯邦ノ組織ノ困難ニシテ亡命貴族ノ復位ノ実行シ難キヲ説キ「ローマ」法王ノ宗教上ノ地位ハ「ローマ」教會ノ領地ヲ縮小スルコトニヨリテ却テ之ヲ維持シ易キニ至ルヘキコトヲ説クニ至レリ、於茲奥及「ローマ」法王ハ會議ニ反對スルニ至レリ其ノ開催ヲ見ルヲ得スシテ止メタリ。

Concord ハ「ナポレオン」カ伊聯邦説ヲ抛テル頃一八六〇年一月二日ニ再ヒ入りテ首相トナリ、「ナポレオン」ヲシテ既成事実トシテ伊ノ統一ヲ承

總セシムルヲ得ハメコトヲ認メテ後 (*fait accompli*) 画策スル所
 アリ、伊ノ各地ニ統一的運動盛ニ行ハレ遂ニ一八六〇年三月十一日より
 十二日ニ亘リテ *Piskipicite* ニヨリ *Maddena*, *Paima*, *Roma-*
gra 及ヒ *Tussang* 各地方カ「サルヂニマ」ニ結合スルコトヲ決
 シ四月二日北伊王国ノ議會カ *Turim* ニ開カレタリ、「ナポレオン」中
 部伊ノ「サルヂニマ」ニ結合スルノ大勢カ妨クヘカラサルヲ知り *Savoy*
 及ヒ *Misice* ヲマニ讓與セシムルト云フ條件ヲ以テ伊諸地ノ結合ヲ承認セリ、
 三月二十四日 *Turin* ニ於テ *Savoy* 及 *Nice* 割讓條約結ハレタリ、
 コノ *Savoy* 及 *Misice* ハ四月中人民一般投票ノ形式ヲ踏ミテ後ハニ保
 合サレタリ、*Savoy* *Misice* ノ保合ハ伊人ノ仏ヲ悦ハサルニ至レル一
 原因ニシテ「ナポレオン」ハ之レカタメニ政全体ノ信用ヲオトシ殊ニ英ハ
 之ヨリ以後仏トソマニ對ルニ至レリ、
 此項 *Venetia*, *Naples*, *Sicily* 及ヒ法王領ノ未タ「サルヂニ
 マ」ニ保合サルノニ至ラザリシカ一ハ六〇年ノ初メ *Sicily* カ新タニ
 位ニツケル王「フランシス」ニ世ノ压制政治ニ對シテ反對運動ヲ起セルニ

兼シ五月五日 *Gairibaldi* ハ表面上「サルヂニマ」政府ト干渉スル所ナ
 タシテ「シリイ」遠征ノ途ニ上リ、七月末全島ヲ征服シ八月ニハ海峡ヲ
 越エテ伊半島ニ上陸セリ、「ナポリ」王ハ都ヲノカレ九月七日「ガリバル
 デ」カ「ナポリ」ノ都ニ入レリ、「ガリバルデー」ハ更ニ道シテ「ローマ」
 ニ進入セント欲セリ、然ルニ當時仏ノ占領軍カ「ローマ」ニ駐在セルヲ以テ
 「ガリバルデー」ノ軍隊ト仏ノ軍隊トノ間ニ衝突ノ起レラ怖レシメヌ「ナ
 ポレオン」カ仏ノ旧敵徒ニ對シテ「ローマ」法王ノ首都ノ攻撃ヲ容視シ得サル
 ヲ思ハシメタルヲ以テ *Carroux* ハ此ノ際一挙兩得ノ策ニ出テ、ノ兵
 ヲ出シテ *St.* 兵ノ「ローマ」ニ向フヲ止メ以テ仏ノ好意ヲソナクト合時ニ、
 兵ノ南進ノ途上通過スル法王領ヲ占領シテ後日合併ノ素地ヲ作レリ、*Went-*
avia, *Marches* 及 *Segretous*) 「サルヂニマ」ノ法王領ニ對
 スルコノ処置ハ其以外ノ諸國ノ非難スル所ナリシカ *Carroux* ハ仏モ「ロ
 ーマ」法王ノ手ニ保有スル以上ハ強クコレヲ爭ハサルヘクソノ以外ノ國ノ「
 サルヂニマ」ニ對シテ強カヲ加フルコトナカルヘクヲ図リテ比ノ処置ニ出
 タリ、九月「サルヂニマ」軍「ナポリ」ニ入り十月二十一日、*Piskipicite*

ルニヨリテ「ナポリ」及「シシリー」ヲ「サルヂニヤ」ニ併合セリ、其ノ
 後數日ニシテ又 *Pelibriate* ニヨリテ「サルヂニヤ」軍ノ占領セル法王
 領ヲ併合セリ、一八六一年二月十八日「ベネチヤ」ヲ「ローマ」ヲ除ク以外
 ノ伊各地ノ人民ヲ代表スル新ナル議會 *Trivium* ニ開カレタリ、於茲伊
 王國ナリ「サルヂニヤ」王 *Victor Emmanuel* ハ三月十七日ニ伊
 王ヲ稱スルニ至レリ、然ルニ四月六日ニ至リテ *Carroll* カ伊統一ノ完
 成ヲ見ルニ及ハスシテ病死スルニ至レリ、

英ハ若初伊統一ニヨリ「ナポレオン」三世ノ勢カノ伊ニ加ハルヲオソレシ
 カ「ナポレオン」ノ伊ニ於テ人望ヲ失フヲ見ルニ及ヒ熱心ニ伊王國ノ成立ヲ
 歡迎セリ、仏ハ伊王國ヲ承認スルモ依然「ローマ」ニ兵ヲ止メテ「ローマ」法王
 ヲ守ラシメタリ、

一八六二年六月ニ至リ「ナポレオン」ハ「ロシヤ」帝及普王ヲ勸誘シテ伊王
 國ノ承認ヲ行ハシメタリ、而シテ一八六四年九月十五日ノ仏伊間ノ條約ニ
 ヨリ伊政府ハ「フロレンス」ヲ伊王國ノ首府トナシ、「ローマ」ヲ得ルコ
 トヲ求メ又法王領ヲ尊重シ外部ノ攻撃ニ對シテ之レヲ防禦スヘキコトヲ約

シ仏ハ新次「ローマ」ノ占領軍ヲ撤去スヘキコトヲ約シ一八六六年ノ終ニ仏軍
 一時「ローマ」ヲ撤退セリ、然ルコ「ガリバルディー」カ更ニ「ローマ」ヲ占領ノ企
 ヲナセルヨリ一八六七年十一月三日仏軍更ニ占領ヲ行ヘリ、仏軍ノ終ニ全
 ク「ローマ」ヲ撤退セルハ普仏戰後ノ折ナリ、「ナポレオン」三世ハ伊ヲシテ
 「ベネチヤ」ヲ得セシメテ「ローマ」ヲ占領ヲ断念セシメント欲セシカ伊ハ普
 英戰争ノ際「ベネチヤ」ヲ得、其ノ後普仏戰後ノ時終ヒニ「ローマ」ヲ得テ其
 ノ統一ノ業ヲ完成スルニ至ルナリ、

メキシコノ事件

「ナポレオン」三世ハ伊統一ノ事業ヲ換ケシノ故ヲ以テ「ローマ」法王ノ怨ヲカ
 ビ「カトリック」教徒ノ人望ヲ失ヒタルヲ憂ヘ法王ノ熱心ヲ收メ *Yankee*
Revolution 前ノ人望ヲ復セント欲シ「シリヤ」ニ於テ近隣ノ土地ノ虚放ニ會
 ヒシ「カトリック」ノ信徒ノタメニ仇ヲ報ヒ且ツ残存セル信徒ヲ保護セン
 ト欲シ一八六〇年八月全地方ニ遠征隊ヲ派遣シ一八六二年六月諸強國間ノ
 條約ニ依リ *Sebastian* (*Sibon*) ニ於テ土政府ノ権カト諸諸政府ノ
 支配ノ下ニヤソ教徒カ自治政ヲ行フヘキコトヲ定メシメタリ (*Sibon*)
 一ニ文

ニ於テ Maximilian カ特別ノ地位ヲ作り居タリ、又「メキシコ」ニ於テ旧教ノ僧侶ヲ兵ノ國ノ政府ノタメニ勢力ヲ削ラレメルヲ回復シ共和政府ヲ倒シテ仏ノ権力ニ依頼スヘキ新帝國ヲ米大陸ニ立ツルノ計畫ヲ建テントスルニ至レリ、(Guarney カ反対セリ、僧侶ノ名)

皇帝、弟 Maximilian 大公ヲ以テ「メキシコ」帝トスルコトニヨリテ皇帝及 Pope トノ敎心ヲ收メント欲セリ、偶々合衆國ニ於テ一八六一
年四月ヨリ南北戦争行ハレテソノ R. T. Johnson 氏トシテ「メキシコ」
實カヲ以テ支持スルコト難カラサルノ形勢ニ在ルヲ機會トシテ「メキシコ」
内ノ擾乱ノタメニ擧害ヲ蒙ル人民ノタメニ賠償ヲ求ムルノ名義ヲ以テ一八
六一年十月三十日「メキシコ」ニ對シテ「メキシコ」ニ對シ
テ三國カ共内的ノ強カ手敢ヲ行フコト、ナリタリ、「メキシコ」ノ首相
P. P. 閣内閣軍ノ總指揮官ノ任ニ當リ一旦一八六二年二月「メキシコ」共
和政府ノ大統領 Guaymas ト一ツノ條約ヲ結ヘルモ「メキシコ」三世ハ
此ノ條約ヲ否認シ人ヲシテ「メキシコ」大公ヲ「メキシコ」帝トスル
ノ議ヲ主張セシメタリ、「メキシコ」及英ノ代表者ハ四月九日ノ処置ヲ以

テ非難スヘキモノトナシ終ヒニ英ノ軍ヲ國ニ歸スニ至レリ、

「メキシコ」三世ハ漸次軍隊ヲ増シ兵ハ四万人ニ達セリ、一八六三年
三月「メキシコ」三世カ埃ニ對シテ内閣ヲ結フコトヲ提議シタルカソノ
折ニ「メキシコ」ニ於テ仏軍ニ「メキシコ」大公ヲ「メキシコ」帝タ
ラシムルノ旨ハ近キニ在リト言ヘリ、ソノ後一五七三年七月仏軍「メキシ
コ」ニ入り貴紳 (Notables) ノ會議ヲシテ「メキシコ」大公ヲ
推シテ「メキシコ」帝トナスコトヲ徹底セシメタルカ大公ハ之レヲ受領ス
ルニ躊躇セリ、一八六四年四月十日終ニ一ツノ條約ノ調印ニヨリテ (Treaty
Guadalupe 條約) 「メキシコ」帝位ニ即クコトヲ決シ六月以後「メキシコ」
ニ召タルヲ「メキシコ」人ノ大敵ハ「メキシコ」ヲ奉スルノ意志ナクシテ
抵抗ヲ続ケタリ、而シテ「メキシコ」カ僧侶ノ專横ヲ抑ヘントスルヨリ
Pope ノ反對ヲ受クルニ至リテ一八六五年四月ニ於テ合衆國ノ南北戦争
テスルヲ得ルニ至リテ一八六五年十二月六日「メキシコ」三世ニ對シテ
Mon. Alvarado ヲ主張シテ仏軍カ「メキシコ」ヨリ撤退スルヲ請求シ其ノ

仏政府ノ体面ヲ傷ケサル様留意シタルニモ不拘止ムヲ得サレハ実カラ用ヒ
サルヲ憚ラサル決心ヲ示セル故「ナポレオン」三世終ヒニ *N. S. A.*ノ
要求ヲ容レ一八六六年末マテニ仏軍ヲ「アメリカ」ヨリ召還スヘキコトヲ
約シ於茲「ナポレオン」ノ「メキシコ」遠征ハ全然失敗ニ帰シ「マキシミ
リアン」大公ハ仏軍ノ援助ヲ失ヒテ終ヒニ「メキシコ」共和政府ノタメニ
捕ヘラレテ絞殺サレタリ（一八六六年六月中旬）

「ポーランド」事件ニ於ケル「ナポレオン」三世ノ失敗

「ナポレオン」三世ハ「クリミア」戦役以後「ロシア」ト接近セントシ
タルカ *Principe de Shays* カ外務大臣トナリテヨリツトメテ
美境ニ接近セント欲セリ、

「ポーランド」ハ一八三一年ニ於テ「ウィーン」会議ノ担保セル憲法ヲ廢
化セラレタリ、以後「ロシア」帝ノ專制政治ノ下ニ虐政ヲ受ケイタリシカ一
八六三年一月十五日ニ「ポーランド」人カ兵ヲ率ケテ「ロシア」ニ反セリ、
ソノ反乱ハ数日ヲ出スシテ全国ニ普クヒロガル、ニ至レリ、英ハ「ポーラ
ンド」人ニ對シテ内情ヲ表シ「ルカ」之カ独立ヲ實現セシムルハ東欧三國ノ

間ノ「ポーランド」分割ニ依リ生シタル其内利益ヲ消滅セシメ仏ヲ敵トシ
テ此國ノ結合スルノ動機ヲ奪フモノニシテ以テ英ハ比ノ際独立ヲ要求スル
ニ至ラスシテ一八一五年ノ條約（「ウィーン」會議）ノ実行ヲ要求スルニ止メ
タリ（「ポーランド」ハ五憲王國トシテ別ニ立ツコト）仏ヲシテ「ロシア」ト稱
レシメント欲スルヲ以テ仏ヲシテ「ポーランド」人ノ独立ニ對シテ内情スルノ
宣言ヲ舉ゲシメント努メタリ、

一八四六年「ポーランド」ノ *Prussia* ヲ併合セル事件アルモ「ポー
ランド」事件ノ起レル當時ニ於テハ英ハ「ポーランド」ノ反乱ニ對シテ助ヲ并
ヘ「ポーランド」ノ叛徒ノ「ガリシヤ」ヲ根絶地トスルコトヲ制止セス、然ルウ「
ポーランド」ノ全然独立ヲ遂クルコトハ英ノ「ハンガリ」ニ至テス（地方ニ
對スル恩例ヲ示スコト、ナルヲ以テ英ノ独立ヲ希望スルニ至テス）（英ハ「
ロシア」トノ間ノ *Roggen State*、*Stat Stamp* トナルコトヲ欲セザル
ニハ非サルモ恩例ヲ減スト云フコトヨリ賛成セス）然レ當時英ハ「ポーラ
ンド」ノ反叛ヲ助ケタル真意ハ何處ニアルカト云フニ一ハ「ナポレオン」
三世ニシテ「ポーランド」回復ノタメニ「ロシア」帝ニ反對スヘキ内盟ヲ結

フヘキノ希望ヲ懐カシメテ「ロシヤ」ハ、仏ノ關係ヲ相離レシメント欲スルコトアリ、又一ツニハ「ロシヤ」ヲシテ壞ヲ怒ラシムルヲ不利ナリト知ラシメントスル故ナリ也、

「プロシヤ」ハ一八六二年九月以來「ビスマーク」カPremiseトヨリ、
「ロシヤ」ノ好意ヲツナクコトヲ必要トナシ「ポーランド」事件ニツキ当初ヨリ最モ諷色鮮明ナル態度ヲトリ「ロシヤ」ヲ助けテ叛徒ヲ鎮圧スルノ正当ナルヲトナヘタリ、(ハ國際法上「プロシヤ」ノ主張ハ正シトスフ、干渉ハ不法ナリトテ非ヲナスモノアレト干渉ハ國家ノ意思ニ對シテ強制ヲ加フルコトニテ政府ノ意思ニ基キテ叛徒鎮圧ニ協カスル故干渉ニ非ス、即チ政府ノ意思ニ反セサル Co-operationsハ國際法上正当ナリ)

一八六三年一月下旬「プロシヤ」カ「ロシヤ」ニ告クルニ「ポーランド」叛徒ヲ鎮圧スルニ協カスヘキコトヲ以テシ終ニ二月八日遂ニ「ロシヤ」ト一ノ條約ヲ結ビ普ヘ次ニ「ポーランド」叛徒ニ對シテ一切ノ援助ヲ取ハサルノミナラズ必要ノ場合ニハ國境ノ内外ヲ論セス積極的ニ暴動ノ鎮壓ニ協カシ且ツ「

ロシヤ」兵ヲ必要アレハ普ノ國境内ニ侵入スルコトヲ許スヘキヲ約シコレニヨリテ「ロシヤ」ノ野心ヲ求メ得タリ、

「ナポレオン」三世モ當初「ロシヤ」ト國交ヲ善スルヲ欲セス且ツ英及壞ノ意圖ヲ忖度セルヲ以テ公然「ポーランド」獨立ニ同情ヲ表スルカ如キ言動ヲサケシモ仏國民カ「ポーランド」人ニ同情ヲヨセ Polen Transition

Polen Transition ナリ、「ポーランド」ヲスオーデン Prick ハ仏ノ天然ノ英國ニテ被乙テ抑ヘントスルハ傳統的政策ナリ、自由黨ハ自由ノ名ニヨリテ之ニ助テ英ヘンコトヲ主張シ旧教徒モ「ローマ」開放ノ名ニヨリテ之ヲ支持セント主張シ「ナポレオン」三世ハ積極的態度ヲ採ラサルトキハ民望ヲ失フニ至ルコトヲオソレ外務大臣 Alvanys de Prings ノ説ヲ容レ普カ「ポーランド」叛亂鎮壓ニタツサハル事ニ干シテ其壞ト共ニ普ヲ叱責セントスルニ至レリ、D. de S. ハ「ポーランド」事件カ元來「ロシヤ」内部ノ事柄ナリシニ「プロシヤ」カ二月八日ノ條約ヲ結ヘルコトニヨリ European Question トナレリトナシ、仏・英・普ノ三國ヨリ「プロシヤ」ニ對シテ二月八日ノ條約ニ干スル説明ヲ求メルコト、セルカ之レニ對シテ「ロシヤ」

マーク」を極メテ賤賤ナル語ヲ以テ答弁ヲナセルニ、英、埃ハ満足ノ意ヲ
 表シテ深ク普ヲ追求スルコトヲセザリヌ（コレ *internationalism* ヲ非スミ
 テ *co-operation* ナレハナリ）、「ポーランド」ニ於テ叛乱一旦鎮定
 セントヤシカ再々叛徒ノ勢力挽回セルヨリ「ナポレオン」ハ叛徒ノ首長ヲ
 助ケテ「ロシア」帝ニ友誼的ニ讞告スルニ「ポーランド」王國ヲ再興シ且
 弟 *Constantin* 大公ヲ其ノ王トナスコトヲ以テシ、「ロシア」帝ハ叛乱
 ノ語ヲ以テ其ノ勅告ヲ退ケタリ、（コレコソ國際法上ノ干渉ナルカ故ニ）「
 ナポレオン」三世ハ埃ト同盟スルノ策ヲ立テ、同盟ノ條件トシテ「ポーラ
 ンド」ヲ再興シ、埃使「ガリシヤ」ヲ之レニ合ハセ埃ハ代償トシテ「シレ
 シヤ」ヲ「ロシア」ヨリ回復シ且ハ埃カ独乙ノ聯邦組織ヲ改革シテ其ノ
 勢カヲ独乙内ニ於テ松グルコトヲ認メ他方ニハ埃ハ「ベネチア」ヲ伊ニ讓
 リ其ノ代償トシテ「アドリアチツク」海ニ沿ヘル土耳其領ノ一部ヲ併セ且
 耳古ハ更ニ代償トシテ「ロシア」ヨリ「シレスシア」(*Georgia*)、西方
)ヲ割取スヘシトセリ、
 如斯計画ノ実行ハ大戦争ヲ起スコトヲ必要トシ「ロシア」普ヲ敵トシ土

耳古カ如ルマモ知ルス、埃帝ノナシ得サルトコロナリ、埃ハコノ談判ヲ直
 ニ拒絶スルコトヲハ、カリ英ヲコノ談判ニ加ハラシムルコトヲ求メタリ、
 英ハ初メヨリ此ノ種ノ提議ニハ賛成セザリヌ、
 「ポーランド」叛徒ノ等猶獄ヲ加フルマ三月ニ旬英政府ハ仏ヲ初トシソノ
 他ノ政諸國ニ通牒ヲ發シテ各ヲ「ロシア」帝ニ送り「ロシア」帝カ叛徒ノ
 権利ヲ尊重スヘムコトヲ勸告セントセシニ仏ハ直ニ之ニ同意ヲ表シ埃モ亦
 之ニ応シ三國ハ各々別ニ「ポーランド」再興ヲス、ムル各ヲ「ロシア」帝
 ニ送レリ、英ハ干渉ノ理由トシテ「ロンドン」條約ノ規定セル「ポーラン
 ド」ヲ一割エトシテ「ロシア」帝カネテ之ヲ主ル *Personal Union*
 トストノ條約ノ狀態ヲ回復セシムルコトヲ求メタルカ「ロンドン」會議ノ
 條約履行スルコト）ハハ民族獨立ノ主義ニ基キテ定ニ「ポーランド」ノタ
 メニ「ロンドン」會議ノトクニ之ニ屬セシメタル地方ヲ要求スルノミナラ
 スソノ以前「ポーランド」王國ノ領地トナリシ地方ニ与ヘ一割ヲ紅贖セシ
 ムヘギコトヲ主張セリ、
 埃ノ要求スルトコロモ略ハノ要求スルトコロニ近シ、「ロシア」ハ仏ヲ棄テ

内閣談判ヲナセルヲ知り大イニ憤レルカ時日ノ遷延ヲ回ラント欲シ三國ノ要求ニ対シテハ明白ニ答フルコトナク四月二十六日「ロシヤ」ノ首相 *Sokoloff*

Sokoloff ヨリ答ヲ三國ニ遣リ三國ニボムルニ「ポーランド」ノ提議ノ銀

定ニ千スル協約ノ基礎ヲ不スコトヲ以テシ、三國ハ要求條件協定ニ六週間

ノ時日ヲ費セリ、六月十七日ニ至リ協定ヲ得タルコトハ次ノ如シ、

(1) 一切ノ犯罪人ノ大赦

(2) 代議制度ノ施行

(3) 「ポーランド」ノ人民ノ就官ノ権利ノ承認

(4) 信仰ノ自由

(5) 「ポーランド」ノ行政司法及教育上「ポーランド」語ヲ公用語トスルコト、

(6) 一足ノ徴兵制度ノ制定

等ノ六條件ニスキサルニ至レリ、

三國ハ之等ノ條件ニ干シテ審議スルタメニ「ウィーン」ノ會議條約調印ノ大

國ノ代表者ヲ集メテ會議ヲ開カンコトヲ求メ且ソ「ロシヤ」ノ叛徒ニ対シテ

休戦ヲ英フルコトヲ求メタリ、从外務大臣 *D. L. S.* ハ六月廿日英、奥

ニ提議スルニ「ポーランド」條約ヲ結ヒテ三國カ「ポーランド」事件ノ答ヲ結フタ

メニ協力シテ或ハ外交手段ヲ用ヒ或ハ其ノ他ノ手段ヲ用ヒテ「兵カニヨル

「モ舎ム」時機ノ必要ニ恣ニスヘキコトヲ約セ、コトヲ以テヤリ、奥ハ英ノ

同意ヲ得ルニ非レハ之ニ恣ニスルヲ得ストナシ英政府ハ断然如斯條約ヲ結フ

ヲ得ハ三國ハ其ノ実行ヲ阻フルコト能ハサル條件ヲ「ロシヤ」ニ提出シテ徒ニ

其ノ感情ヲ害シタルニ止マルニ至レリ、

「ロシヤ」首相 *Sokoloff* ハ三國ノ意見ノ一致ヲ得サルヲ知り三

國ノ要求ヲ拒絶シ七月十三日三國ニ答フルニ「ロシヤ」帝ハ「ポーランド」ノ叛徒

ヲ表セル後ニ非サレハ之レニ干スル談判ヲ開クコト能ハサルヲ以テシ、且

コノ談判ハ先ニ「ポーランド」ノ分割ニ與レル普、奥、「ロシヤ」三國ノ間ニ於

テ之ヲ行フヘシトナセリ、从英奥ノ三國ハ共ニ「ロシヤ」ノ提議ニ恣ニスル

ヲ肯セサリシモ仏ヨリ英、奥ニ対シテ三國カ連署シテ提議排斥ノ旨面ヲ「

ロシヤ」政府ニ出シ以テ三國ノ一致ノ鞏固ナルコトヲ示サント提議セシカ

英政府ノ答ル、トコロトナラス、八月旬旬三國ハ各々別ニ答面ヲ作りテ「

ロシヤ」ノ提議ヲ拒絶スルノ意ヲ表スルニ止メタルヲ以テ「ロシヤ」ハ頭

ル事態ヲ輕視セリ、普ハ英ニ告クルニ英カ「ポーランド」ヲ助クルニ於テ
ハ彼乙聯邦ハ即時ニ其ノ兵ヲ「ホルスタイン」及ヒ *Southernburg* ニ容
ルヘキヲ以テセリ、英ハコハニ於テ益々「ポーランド」事件ニツキテ躊躇
ノ色ヲ表ハスニ至レリ、从ハ英政府ノ「ポーランド」事件ニ関スル不信義
ヲ憤リ又壞モ八月初旬「ナポレオン」三世ニ函ヲスシテ突然独乙聯邦ヲ同
巴ノ叔カ内ニ置カントスルノ策ヲ試ミタルニ對シテ不平ナルヲ以テ英、仏、
壞ノ三國ハ到底兵カヲ以テ「ロシヤ」ト爭フコト出来サルコト明白トナレリ、
ハ「クリミア」戰爭トノ比較「ロシヤ」ハ三國ニ對シテス觀念スルトコロナ
「ロシヤ」首相 *Memorandum* ハ九月七日ニ「Memorandum」ヲ以テ三國ニ
答ヘ、「ポーランド」ニ干スル外交上ノ爭議ハ今々全ク其ノ局ヲ結ヘリトナ
シ「ポーランド」叛亂ノ久シク繼續スルハ壞諸國カ外部ヨリ内情ヲ叛徒ニ
寄セルノ致スルトナシ、叛徒カ先ツ無條件ニ降伏セサルヘカラストナシテ
皇帝カ多少ノ讓歩ヲナスヘシトスルモ外國ノ強圧ニヨルモノナルヘカラス
シテ皇帝ノ暴意ニヨルモノナラサルヘカラストナセリ、「ナポレオン」三
世ハ「ロシヤ」ノ *Memorandum* ヨリ凌辱ヲ受ケシコトヲ感シ當時英カ独乙

一三八

聯邦議會ノ「ホルスタイン」占領ヲ固ルヲシテ「ナポレオン」ノ助カヲ求
メント欲スルニ策シ英ト相携ヘテ「ロシヤ」ニ當ルヲ固ルニ至レリ、英ニ
告クルニ若シ英ニシテ「ポーランド」ノ爲メニ断然タル処置ニ出スルコト
ハ仏ス「デンマーク」ノタメニ其ノカヲ尽スヘキコトヲトナシ、(英ハ當時
ノ皇太子「エドワード」三世ノ如クハ「デンマーク」ヨリ来ル、此所ニ於テ
十月ノ初メ英ハ「ロシヤ」帝カ「ポーランド」ヲ領有スルノ権利ヲ失ヘル
モノト認ムルコトヲ「ロシヤ」政府ニ通告スヘキコトヲ説ケリ、从、壞、
同様ノ通告ヲ「ロシヤ」政府ニ送ルヲ求メタリ、
从政府ハ英カ先ツコノ通告ヲ送ラハ仏モ亦送ルヘシト云ヒケルモ壞ハ「
ロシヤ」カ此ノ如ク通告ニ接スルトモハ必ス普ト会シ直ニ戰爭開始ニ出ツ
ルニ至ルヘクソノ際先ツ攻撃ヲ受クルハ壞ナラサルヘカラストナシ、
仏カ予メ正式ノ條約ヲ提議シ兵力的援助ヲ壞ニ与アルコトヲ約スルニアラ
ズハ英ノ提議ニ應ズル能ハストナシ、英政府ハ壞政府ノ求ムルトコロヲ
以テ過大ナリトシテ之レニ應ズラ肯ンセサリ、於茲壞政府ハ長ク「ロ
シヤ」ノ強迫ノ下ニアルコトヲ欲セスシテ「ロシヤ」ノ九月七日ノ *Memo-*

一三九

対シテ「ポーランド」問題ヲ終結セルモノト認ムルモノト明言ス
 ルニ至レリ、英政府ハ「ロシア」帝ニ対シテ抗議ヲ送ラント欲セルカ、
 「ビスマルク」ハ人ヲシテ英政府ニ告ケシムルニ英カ若シ「ロシア」帝ヲ
 以テソノ「ポーランド」領有ノ権利ヲ失ヘルモノトナサハ「ロシア」、普
 ノニ國及独乙聯邦モ亦「デンマーク」ヲ以テ「ホルスタイン」「シユレスウ
 イグ」ヲ領有スル権利ヲ失ヘルモノト看做スヘクモシ之レニ反シ英カ「
 ロシヤ」ニ対シテ上述ノ如ク宣言ヲナサ、レハ普王ハソノ全カヲ悉シテ
 乙ノ要求ヲ抑ヘ「デンマーク」王ト独乙聯邦トノ争ヒニツマテ英ノ調停ヲ
 容ル、ヲ拒マサルヘシトナセリ、英政府ハ「ビスマルク」ノ言ヨリ「ロシ
 ヤ」ニ抗議ヲ乘スルヲ止メ十月二十日「ロシヤ」政府ニ送リ英政府
 カ「ポーランド」及ヒ改諸國ニ対スル「ロシヤ」ノ好意的意嚮ニ対シテ
 足ラズフルニ至レリ、「ポーランド」問題ト「ホルスタイン」問題トモ係
 アリ、

「ナポレオン」三世ハ英及埃ノ処置ヲ憤リ外務大臣カニ國トノ接近ヲ失
 ハサルヘキノ言ヲ用ヒスシテ「ロシア」カ「プロシヤ」ト英ニ仏ニ親善ヲ

示スマ断然英埃ト断テ、「ロシア」、普ト結ハントスル怖レアリキ、抑ハ埃ト
 仏ト相商ル、コトヲ以テ自國ニ利アリトシ「ベネチヤ」ヲトルタメニ「
 ロシヤ」帝ニス、メテ「ポーランド」問題ヲ列國會議ニ付スル意アルコト
 ヲ示サシメ「ナポレオン」ハコノ機ニ際シ列國會議ニヨリテ當時ノ國際向
 題ナル「ポーランド」問題、「ローマ」問題、「スレッシェウイグ」、「ホルスタイン」
 問題等ノ諸問題ヲ解決スルハ一五年ノ條約ヲ改正スルノ意志ヲ遂行セント欲
 スルハ仏國及「ブルボン」家ノ屈辱條約ニヨリ十一月四日列國會議開催ニテ
 「奇ヲ英女王 *Victoria*」ノオクリ翌五日ノ議院ニ於ケル演説ニヨリ政列
 國會議ヲ開ス當時ノ政ノ國際問題ヲ議スルヲ以テセリ、一八一五年ノ「ウ
 イーン」條約ノ事實上ソノ效力ヲ失ヘルコトヲ遂ヘ人民ノ正当ナル希望ヲ
 抑テスルノ弊ヲ去ルノ必要ナルコトヲ説ケリ、英政府ハ列國會議ヲ閉テノ
 説ヲ採ラシ之レヲ以テ政ノ秩序ヲ紊リ英政府ノ禍亂ヲ招ケ所以トナセリ、
 埃モ亦仏ノ列國會議ヲ閉催ノ提議ニ反對セリ、(英仏ノ間ヲ齟齬トシ)
 「ロシヤ」、普モ亦送テ賛成スル得ナキヲ以テ十二月下旬「ナポレオン」
 三世ハ終ヒニソノ列國會議開催ノ提議ヲ撤回スルノ止ムヲ得サルニ至レリ、

一四二
一四三
一四四
一四五
一四六
一四七
一四八
一四九
一五〇
一五一
一五二
一五三
一五四
一五五
一五六
一五七
一五八
一五九
一六〇
一六一
一六二
一六三
一六四
一六五
一六六
一六七
一六八
一六九
一七〇
一七一
一七二
一七三
一七四
一七五
一七六
一七七
一七八
一七九
一八〇
一八一
一八二
一八三
一八四
一八五
一八六
一八七
一八八
一八九
一九〇
一九一
一九二
一九三
一九四
一九五
一九六
一九七
一九八
一九九
二〇〇
二〇一
二〇二
二〇三
二〇四
二〇五
二〇六
二〇七
二〇八
二〇九
二一〇
二一一
二一二
二一三
二一四
二一五
二一六
二一七
二一八
二一九
二二〇
二二一
二二二
二二三
二二四
二二五
二二六
二二七
二二八
二二九
二三〇
二三一
二三二
二三三
二三四
二三五
二三六
二三七
二三八
二三九
二四〇
二四一
二四二
二四三
二四四
二四五
二四六
二四七
二四八
二四九
二五〇
二五一
二五二
二五三
二五四
二五五
二五六
二五七
二五八
二五九
二六〇
二六一
二六二
二六三
二六四
二六五
二六六
二六七
二六八
二六九
二七〇
二七一
二七二
二七三
二七四
二七五
二七六
二七七
二七八
二七九
二八〇
二八一
二八二
二八三
二八四
二八五
二八六
二八七
二八八
二八九
二九〇
二九一
二九二
二九三
二九四
二九五
二九六
二九七
二九八
二九九
三〇〇
三〇一
三〇二
三〇三
三〇四
三〇五
三〇六
三〇七
三〇八
三〇九
三一〇
三一〇
三一一
三一二
三一三
三一四
三一五
三一六
三一七
三一八
三一九
三二〇
三二一
三二二
三二三
三二四
三二五
三二六
三二七
三二八
三二九
三三〇
三三一
三三二
三三三
三三四
三三五
三三六
三三七
三三八
三三九
三四〇
三四一
三四二
三四三
三四四
三四五
三四六
三四七
三四八
三四九
三五〇
三五一
三五二
三五三
三五四
三五五
三五六
三五七
三五八
三五九
三六〇
三六一
三六二
三六三
三六四
三六五
三六六
三六七
三六八
三六九
三七〇
三七一
三七二
三七三
三七四
三七五
三七六
三七七
三七八
三七九
三八〇
三八一
三八二
三八三
三八四
三八五
三八六
三八七
三八八
三八九
三九〇
三九一
三九二
三九三
三九四
三九五
三九六
三九七
三九八
三九九
四〇〇
四〇一
四〇二
四〇三
四〇四
四〇五
四〇六
四〇七
四〇八
四〇九
四一〇
四一一
四一二
四一三
四一四
四一五
四一六
四一七
四一八
四一九
四二〇
四二一
四二二
四二三
四二四
四二五
四二六
四二七
四二八
四二九
四三〇
四三一
四三二
四三三
四三四
四三五
四三六
四三七
四三八
四三九
四四〇
四四一
四四二
四四三
四四四
四四五
四四六
四四七
四四八
四四九
四五〇
四五二
四五三
四五四
四五五
四五六
四五七
四五八
四五九
四六〇
四六一
四六二
四六三
四六四
四六五
四六六
四六七
四六八
四六九
四七〇
四七一
四七二
四七三
四七四
四七五
四七六
四七七
四七八
四七九
四八〇
四八一
四八二
四八三
四八四
四八五
四八六
四八七
四八八
四八九
四九〇
四九一
四九二
四九三
四九四
四九五
四九六
四九七
四九八
四九九
五〇〇
五〇一
五〇二
五〇三
五〇四
五〇五
五〇六
五〇七
五〇八
五〇九
五一〇
五一〇
五一一
五一二
五一三
五一四
五一五
五一六
五一七
五一八
五一九
五二〇
五二一
五二二
五二三
五二四
五二五
五二六
五二七
五二八
五二九
五三〇
五三一
五三二
五三三
五三四
五三五
五三六
五三七
五三八
五三九
五四〇
五四一
五四二
五四三
五四四
五四五
五四六
五四七
五四八
五四九
五五〇
五五一
五五二
五五三
五五四
五五五
五五六
五五七
五五八
五五九
五六〇
五六一
五六二
五六三
五六四
五六五
五六六
五六七
五六八
五六九
五七〇
五七一
五七二
五七三
五七四
五七五
五七六
五七七
五七八
五七九
五八〇
五八一
五八二
五八三
五八四
五八五
五八六
五八七
五八八
五八九
五九〇
五九一
五九二
五九三
五九四
五九五
五九六
五九七
五九八
五九九
六〇〇
六〇一
六〇二
六〇三
六〇四
六〇五
六〇六
六〇七
六〇八
六〇九
六一〇
六一〇
六一一
六一二
六一三
六一四
六一五
六一六
六一七
六一八
六一九
六二〇
六二一
六二二
六二三
六二四
六二五
六二六
六二七
六二八
六二九
六三〇
六三一
六三二
六三三
六三四
六三五
六三六
六三七
六三八
六三九
六四〇
六四一
六四二
六四三
六四四
六四五
六四六
六四七
六四八
六四九
六五〇
六五一
六五二
六五三
六五四
六五五
六五六
六五七
六五八
六五九
六六〇
六六一
六六二
六六三
六六四
六六五
六六六
六六七
六六八
六六九
六七〇
六七一
六七二
六七三
六七四
六七五
六七六
六七七
六七八
六七九
七八〇
七八一
七八二
七八三
七八四
七八五
七八六
七八七
七八八
七八九
八九〇
八九一
八九二
八九三
八九四
八九五
八九六
八九七
八九八
八九九
九〇〇
九〇一
九〇二
九〇三
九〇四
九〇五
九〇六
九〇七
九〇八
九〇九
九一〇
九一一
九一二
九一三
九一四
九一五
九一六
九一七
九一八
九一九
九二〇
九二一
九二二
九二三
九二四
九二五
九二六
九二七
九二八
九二九
九三〇
九三一
九三二
九三三
九三四
九三五
九三六
九三七
九三八
九三九
九四〇
九四一
九四二
九四三
九四四
九四五
九四六
九四七
九四八
九四九
九五〇
九五二
九五三
九五四
九五五
九五六
九五七
九五八
九五九
九六〇
九六一
九六二
九六三
九六四
九六五
九六六
九六七
九六八
九六九
九七〇
九七一
九七二
九七三
九七四
九七五
九七六
九七七
九七八
九七九
九八〇
九八一
九八二
九八三
九八四
九八五
九八六
九八七
九八八
九八九
九九〇
九九一
九九二
九九三
九九四
九九五
九九六
九九七
九九八
九九九
一〇〇〇

War of Two Ruuker.

一八六一年一月、ケイリアム一世、プロシヤとエトナリ、*Blutkrieg* とい

呼ぶ事カント欲シテ、*プロシヤ* 軍備ヲ修マタリ、然ルニ「プロシヤ」ノ議

会ハ軍事費ノ予算ヲ否決シ、政府ト議會ト相衝突セリ、

一八六二年九月、「ビスマルク」宰相トナリ、独乙統一ヲ目的トスル大規模

ノ政策ヲ行フニ至リ、先ツ「プロシヤ」ト「独乙」国外ニ透ハントセリ、「ロシ

ヤ」ノ敵心ヲツナグ、必要アルヲ見テ「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト「プロシヤ」ト

ハ丁林王カ之レニ君臨スルトコロニシテ「デンマルク」ハ「シユエレスワイ
 グ」ニ於テソノ土地ヲ独乙人ヲ「デンマルク」化スルノ政策ヲトレリ、而
 國ノ独乙人種ハ常ニ「デンマルク」ノ統治ノ下ヨリ独乙セント欲セリ、独乙
 ハゴノ運動ニ於テ内情ヲ表シオリキ、「デンマルク」ニ「フレデリック」セ
 世ニ男系ノ繼承者ナク「デンマーク」本國ノ憲法ニヨレハ女系ニ王位ヲ繼
 承シ得ヘキコト明白ナルモニ公國ニ於テハ *hereditaria* (或主) *Salve*
Law ノ行ハレ女系ハ王位ヲ繼承シ得ストノ議論盛ニ行ハレタリ、

一八四八年ノ政變ノ頃「ホルスタイン」ノ人民カソノ正統ノ君主ト思惟
 セル *Augustenburger* 公ヲ戴キテ「デンマーク」ヨリ独立セント企テ

Pol. ハ連カニ兵ヲ「ホルスタイン」ニ入レテ之レヲ攻撃シ「シユレス
 ヲイグ」ヲ占領セリ、北独乙ノ小邦モ兵ヲ出セリ、然ルニ「ゴシヤ」、「ス
 キーデン」ヲフランス「キヤン」ヨリテ管モ一八五〇年七月二日ノ條約ニ
 ヲリ「シユレスワイグ」ヨリ撤兵シ「デンマルク」王ノ兵ヲ所領ヲ分割
 スルコトナクシテ相續者ヲ定ムルコトヲ認メタリ、而シテ「デンマーク」
 ハ「ホルスタイン」ノ叛徒ノ政府カ兵ヲトカサレハ兵ヲ鎮圧シ得ヘキヲ認

メシメタリ、之レヨリ先「ロンドン」ニ於ケルニ公國事件ヲ議スルタメノ
 列國會議ニ「開カレオリシカ」七月四日此ノ會議ニ列席セル諸國ノ全權委員
 ハ「イツ」議定書ニ調印シ「デンマーク」ノ領土保全ハ政治的利害向懸ナ
 ルノ原則ヲ認メ「フレデリック」七世ノ相續ヲ分割サル、コトナク「タメ」
 處置ヲ採ルヘキコトヲ求メ列國ノ安寧維持ニ必要ナル決定ヲ担保スヘキコ
 トヲ約セリ、「プロシヤ」ハ此ノ議定書ニハ加ハラサリシカバニ上述ノ條
 約ニヨリテ「デンマーク」ノ領土不可分ヲ認メタリ、

Speichelburg Christian

一八五二年五月四日「ロンドン」條約ハ「Speichelburg Christian」
 侯カ「デンマーク」ニ「フレデリック」七世ノ相續者タルコトヲ認メ「テ」
 ノ権利ヲ認メ「テ」ノ権利ヲ担保トスヘキコトヲ定メタリ、一八五五年十月
 ニ十日「デンマーク」ハ全土國ニ通シテ行ハルヘキ憲法ヲ發布シ之レヲニ
 公國ニモ施行セント欲セリ、然ルニ独乙人ノ反對強カリシタメ一八五八年
 八月ニ至リ「ホルスタイン」ヲ除キテ「シユレスワイグ」ニコノ憲法ヲ施
 行セントセリ、

独乙ハ之レニ干シテ不平ヲ唱ヘ嘆マス一八六二年三月三十日「デンマーク」

政府ハ「ホルスタイン」ニ干渉スル特別ノ法例ヲ發布シテニ公國ヲ分チ「
 シュレスウイグ」ヲ本國ト統一的ナラシムルノ趣意ヲ明セセルヲ以テ「
 ンマーク」ト独乙聯邦議會トノ間ニ争ヒ起レリ、「デンマーク」ハ九月二十九
 日「デンマーク」及「シュレスウイグ」ニ施行スヘキ新憲法案ヲ「デンマーク」議會
 ニ提出シ西國ノ統一ヲ実行セント欲セリ、然ルニ独乙ノ聯邦議會ハ十月一
 日之レニ干渉スルニ決定セリ、コノ時ニ際シ十一月十五日「デンマーク」
 王「フレデリック」七世死シ、*Christian IX* 位ニツケリ、十一月八
 日 *Hol.* 以外ノ「デンマーク」領土ニ施行サルヘキ新憲法ヲ公布セリ、*Qu-*
getenburg 公(前 *Qu.* ノ子)ハニ公國ニ対スル結果ノ権利ヲ主張シ独
 乙聯邦議會ハ十一月廿八日ニ「デンマーク」ヨリ出セル「ホルスタイン」ノ代表
 者ヲ以テ参列ノ資格ナシトシテ之ヲ議會ヨリ逐ヒ、十二月七日「ホルスタ
 イン」ノ右領ヲ行フヘキ「議決」セリ、同十五日聯邦議會ハ「ホルスタ
 イン」ヨリ撤兵スルコトヲ「デンマーク」ニ求メ十二月二十一日ニハ *Karoly,*
Idaroyes ノ二國ノ軍ハ抵抗ヲ受ケスシテ侵入セリ、之ヨリ先「ビスマ
 ッ」ハ英及「ト林」ニ對シ温和ノ態度ヲ維持シ英ノ調停ヲ容レントスルニ賛成ス

ルノ態度ヲ示セルカ十一月四日「トボレオン」カ「ビクトリア」女王ニ提
 議セル列國會議説ハ英ノタメニ拒絶セラル、ニ至リテヨリ英仏ノ間ニ反目
 ノ状ヲ生シ仏カ「デンマーク」事件ニ関シテ英ヲ助クル意思ナキコト明白
 トナリテ後「ビスマック」ハ十二月中旬以後俄カニ英ノ態度ヲ變シ聯邦議會
 ヲシテ英ノ調停ヲ受諾セシムルノ重キヲ説クニ至レリ、而シテ十二月廿八
 日ニ「ト林」ヨリ出セル「ホルスタイン」ノ代表者ヲ聯邦議會ヨリ追フノ議カ
 聯邦議會ニテ可決セラル、マ同日普、澳ノ全権委員ハ「ホルスタイン」ニ干渉
 シ「ト林」ノ権利ニ疑ヲサシハサミ普エハ「ロンドン」條約ヲ守ルノ義務アルヲ認
 ムレトモ「ト林」ハ先ツコノ條約ト角ルヘカ「ラサル種々」ノ協定ノ約スル所ヲ突
 行セサルヘカ「ラストナス」ノ共同の宣言書ヲ發布セリ、十一月廿四日 *Sax-*
ony, Hannover ノ兵カ *Hol.* ノ占領ヲ終リテ四時 *Augustenbury*
 侯ハ *Kiel* ニ於テ仮政府ヲ建テタリ、十二月廿八日澳、普ハ聯邦議會ニ
 於テ *Sch.* ヲ十一月十八日ノ新憲法施行区域ヨリ除外スルノ要求ヲナスヲ
 聯邦議會ニ求メ「ト林」カ之レニ同意ヲセサルトハ「ソ」ノ正当ナル要求ノ達成
 ヲ期スルヲ担保トシテ *Sch.* ヲ占領スヘキコトヲ主張セリ、

之レヨリ先「ロビスマルク」ハ塊ヲ誘ヒテ十二月二十五日ニ公国ノ相繼向
 應ニ干渉シテ杜ニ聯邦諸国ニ対シテ「ロンドン」條約ヲ無視シ得サルコトヲ
 唱ヘシカ之ハ一ハ一時列国ノ猜疑心ヲ抱クコトヲ防カント欲スルモノニシ
 テ又一ハ聯邦諸国ノ *Augsburg* 侯ヲニ公国ノ君主トナサントスル
 ノ計画ヲグチキテ以テニ公国ヲ自由ニ処分スルノ素地ヲ作ラント欲セルナ
 リ「ロビスマルク」ハ丁林カ *Sax. Thul.* ヨリ分離シテ之レヲ取扱ハント
 スルコトヲ以テ不正ナリトシテ此ノ英ヨリ丁林ノ紛議ノ口実ヲ作ラントセリ
 英ハ *Sax.* ノ占領ニ干渉スル普項ノ聯邦議會ニ於ケル提議ヲキ、テ「ロン
 ドン」條約ノ加盟國及杜ニ聯邦議會ノ全権委員ノ會議ヲ「ロンドン」又ハ「
 パリー」ニ開キテニ公国事件ヲ議シコノ議事ノ始ヲスルニ至ルマテハ現状維
 持ヲ行ハシムヘキコトヲ提議セリ、然レニハ「ポーランド」事件ニ干ス
 ル利國會議開催ノ議カ英反對ノヌメニ破ラレシコトヲ合メルヲ以テコノ所
 ノ英ノ舉議ニ恣セスシテ却テ一八六四年一月四日ニハ杜ニ諸国ニ通牒ヲ發
 シテ此政府カ今後「ロンドン」條約ヲ以テ巴ニ效カヲ失ヘルモノトミナスコ
 トヲ宣言スルニ至レリ、

「ロシヤ」モ亦普項カ担保ノ名ヲ以テ *Sax.* ヲ占領スルコトヲ承認スヘキ
 コトヲ説クニ至レリ、於茲、英ノ提議セル列國會議モ南カル、ヲ得サルニ
 至レリ、一月十四日聯邦議會カ *Sax.* 占領ニ干スル普、塊國ニ國ノ提議
 ヲ否決スルヤニ國ハ聯邦議會ト異レテ独立行動ヲトルコトヲ宣言スルニ至
 レリ、

而シテ一月十六日普、塊間ニ「ベルリン」内閣條約調印サレ内日ニ國ヨ
 リ聯合的 *Altinitime* ヲ「デンマーク」ニオクリ、十一月ノ憲法ヲニ日
 内ニ破棄スルコトヲ要求シ「デンマーク」ハ一月十八日ニニ國ノ要求ヲ拒
 絶シ戰爭開始スルニ至レリ、塊ハ「ロビスマルク」ノ民主的革政運動ニ反對
 スルノ保守的傾向ニ信頼シニ公国事件ニ関シテ「プロシヤ」ト行動ヲ共ニ
 シ独乙内ノ元ノ内閣國ト自レ聯邦議會ニ於ケル積年ノ努力ヲ抛テ「ロビスマ
 ーク」ノ野心ヲ包藏セル政策ニ追従シテ無名ノ戰ニ干係シテ禍ノ自國ニ及
 フコトヲ察セサリキ、

英カ一月十八日普、塊ニ回ニ向ヒテ「デンマーク」王國領土保全ノ主義
 ヲ守ルヘキコトヲ正式ニ宣言スルコトヲ求ムルヤ、「ロビスマーク」ハ普カ

一五〇
 領土保全ノ主義ヲ
 加緊スルノ意思ヲ有セスシテ只「デンマーク」ハ飽クマテモ一八五一年及
 ビ一八五二年ノ協商ノ中ニ含まレテ居ル約束ヲ実行セサルカ又ハ他國ノ武
 裝的干渉 *armed interference* ニヨリテ普、埃ニ於テ一層ノ強權ヲ執
 ヘル等ノタメニ新タナル処置ヲ講セサルヲ得サルニ至レルコトアラハ英ノ
 確定ニツマテハ「ロンドン」條約締結國ノ參内ヲ要スハキコトヲ認メタリ
 コノ答ヲ察セシ翌日一八六四(一)二月一日普軍ハ「ホルスライン」ニ於
 ケル *Kiel* 其他ニ三ノ要地ヲ占領シ之レ等ノ土地ニ駐在シ居リシ独聯邦
 軍ニ迫リテ撤退ヲナシメタリ、独乙ニ於テハ普、埃ニ國ノ横暴ナル態度
 ニ付テ非難ノ声高マリシモ聯邦議會ハ英カヲ以テニ國ト爭フコトヲ得サリ
 キ、英ハ一八六四年一月十八日ハ、露及ヒ「スウェーデン」ニ對シテ「デン
 マーク」ノ領土保全ノ維持ノタメニ列國ノ協賛及ヒ協力ノ必要ナルコトヲ
 説キシカハ英ト共内行動ヲ行フコトヲ好マス、
 「ロシヤ」ハ普ト特別ノ關係ヲ有スルヲ以テ敢テ動カス「デンマーク」
 ハ二月六日英、仏、「ロシヤ」、「スウェーデン」ニ對シテ助力ヲ求メ英ハ「コ

シヤ」ヲ動カサントセルモ成功セザリキ、普、埃ハ只「シニレスウイジ」
 ヲ占領スルニ止メスシテ終ヒニ軍ヲス、メテ「林」本土ノ一部ナル *gutter-land*
 二侵入スルニ至レリ、英ハ一月二十三日双方ノ交戦國ニ向ヒテ
 「ロンドン」ニ於テ會議ヲ開キ独乙「デンマーク」間ノ問題ヲ議スルコト
 ヲ提議シ種々交渉ノスエ、四月二十五日開會セリ、五月九日會議ニ於テ一
 ケ月ノ休戦ヲ決シ五月十二日ヨリ媾和条件ヲ議スルニ至レリ、
 普ハ表面埃及聯邦議會ト共ニニ公國ヲ独立セシメテ *Augustenburger*
 條ヲ數カシムル議ニ賛成スルモ「ロシヤ」ヲシテコレニ反對セシメタリ、
 英カ「デンマーク」ノ領土保全ノ主義ヲ抛テ「デンマーク」ヲシテ
Sole ノ約ニ命ニテ保有セシムルコトヲ試ミシモ議定セスシテ六月ニ
 十五日會議空シク解散セリ、同日ニ休戦期限ニ付テ戰鬪ノ再入ヲ見ルニ至
 リシカ「デンマーク」ハ遂ニ力敵セスシテ休戦ヲ要求スルニ至リテ八月一
 日「ウイーン」ニ於テ予備條約ニ調印シ十月三十日「ウイーン」ノ媾和
 本條約ヲ締結シ *1864* 及 *Sole* ニ干スル一切ノ権利ヲ普及埃ニ讓与シ、
 「デンマーク」ハ二國カ共内シテニ公國ニ干シテトルヘキ処置ヲ予メ英認

スルコトヲ約セリ、コ、ニ於テ「デンマーク」ノ領土保全ヲ担保セル一ハ
五二年五月「ロンドン」條約ハ反故紙ト同様ナリ、

「ロシヤ」ハ普ノ「ポーランド」問題ニ於ケル行動ニ感謝シ普ノニ公事
件ニ於ケル不利益ヲ曠スコトヲ欲セス、仏ハ「ナポレオン」三世カ民族主
義ノ説ヲ抱懐スル莫ヨリ「デンマルク」ヲ助クル能ハサルノミナラス、英
ノ「ポーランド」問題ニ干シテ仏ニ協カセサリシコトヲ含ミ居リシ故ニ公同向
意ニヨリ英ニ教セント欲シ之ト共同的行動ヲナスコトヲサケタリ、何ハ「バ
ネチア」ヲ得ント欲シテ普ノ同盟ヲ求メ且ツ木々外國ノ事ニ干突スルノ余
裕ヲ存シ居ラサルヲ以テ英ヲ助ケテ「ロンドン」條約ヲ維持セシメントハカル
コトナシ、英ハ独リニ公同問題ニツキテ心配セルカソノ「Palmator
ノ政策ハ反対者 *Disraeli* (*Baconfield*)」ノ評セル如ク実行
セラレサル脅迫ハ履行セラレサル約束トニオハレリ、「デンマーク」モ却
テ英ヲ恣ニ至レリ、

普ハ奥トトモニ十一月二十九日講和條約ノ締結ヲ聯邦議會ニ教スルト共
ニ聯邦議會カ干渉実施ノ完結ヲ宣言シ且ツ聯邦軍ヲ召還スヘキコトヲ聯邦

議會ニ要求セリ、サキニ「ロンドン」會議ニ於テ一時 *Augustenbur-*
g 侯ノ叔ヲ兼認セル如ク言ヲナセルニ不拘「ビスマルク」ハ他ニ権利
ヲ要求スルモノ、現ハレシト云フ事ヲ口実トシテ法律家ヲシテ西公同正統
ノ権利者ノ何モノナルカヲ調査セシメ調査委員ハ「王」ヲ以テ正當ノ権利
者トナシ、普、奥ニ固カ正當ノ権利ヲ「王」ヨリ讓与サレタルヲ以テ現在ニ
於ケル正當ナル権利存ナリトナセリ、コ、ニ於テ「ビスマルク」ハ奥ニ對シテ
賠償金ヲ英ヘテニ公同ノ完全ナル領土権ヲ普ニ收メントセリ、奥ハ之ヲ拒
絶シ俄ニ聯邦議會ト共ニ *Anglo* 侯ノ主張ヲ助ケントセリ、於茲普、奥間
ニ危機ヲ生セリ、然ルニ普ノ *William* ハ當時末夕奥ト戦争ヲナスノ
責任ヲトルヲ欲セスシテ奥帝ト会見シ其ノ結果一八六五年八月十四日
gastrin 條約ヲ結ビ普、奥ニ固カニ公同ノ共同領有 *Leandowii-*
niam ヲ維持シ當分ノ固ソノ行政ヲ分担スヘシトナシ「プロシヤ」ハ
Sal. ヲオサメ奥ハ *1866* ヲ治ムヘシトナシタリ、*Lauenburg*
(従来 *Hol.* ト同様ニ取扱ハル) ハ普ヨリ奥ニ一定ノ金額(ニ五〇万フ
ロリン)ヲ英ヘテ純粋ナル普領トナセリ、

「プロスマーク」ハ普ヲ中心トシテ独乙ヲ統一スルタメニ埃ト戦ヒテ独乙以外ニ逐フノ必要ヲ感シ埃ト戦ヲ開クニ先チ外交上ノ準備ヲナセリ、伊カ埃ヨリ「プロベネチア」ヲ買ハントシテ拒絶ニ合ヒ強カニ依ラサレハ「プロベネチア」ヲ得レシハサルヲ見埃トテ激視スルニ衆シテ「プロスマーク」ハ伊トノ同盟ヲ求メタリ、

Gastein 條約ノ締結前一八六五年五月十四日「プロスマルク」ハ「ロベルリン」ニ於テ *Carlsruhe* ト会見シ、「ロシヤ」ハ「伊ニ國カ同盟條約ヲ結ビテ協同シテ埃ヲウツヘヤコトヲ口約セリ、然ルニ普王ハ「プロスマーク」ノ意見ヲ抑ヘテ遂ニ *Gastein* 條約ヲ結フニ至レリ、「プロスマーク」ハ「ロシヤ」カ已ニ普ニ好意ヲ有スルヲ以テ益々之レト接近スルコトヲハカレリ、而シテ中立ヲ守テシムルノ必要アル故「プロスマーク」ハ一八六五年十月ニ *Biarritz* ニ於テ「ナポレオン」三世ト会合シタリ、(*Plombiere* ノ会談ニ等シ) 此ノ会合ノ結果ハ之レヲ明ニスルヲ得サルモ「プロスマーク」ハ普カ埃ノ状態ヲ改善スルノ必要アルト「普」ニシテ *Sch. Val.* ヲ保合シテ領土ノ拡張ヲ行フコトヲ許スハ此ヲシテ「ロシヤ」埃ニ依頼セサルヲ得セシム

ル所以ニシテ「ナポレオン」三世ヲシテニ公國同盟ニ於テ普ノ自由行動ヲ認ムルヲ明言セシメ普カ埃ト戦フヲ反対セサレヲ認メ又普「イタリー」ノ同盟ヲ承認スルノ意アルヲ確メタルカ如シ、

然レトモ「ナポレオン」ハ將來ノ行動ノ自由ヲ確保セント欲シテ敢テ確言スル所ナク自ら明白ニ中立ヲ守ルヘキヲ約セサルト共ニ又用カニ報償ヲ要求セサリシモノ、如シ、「プロスマルク」ハ「フランス」河岸ニ於テ「土地」ヲ得セシムルヲホノメカシタルカ如シト虽モ「ナポレオン」ハ之ニ對シテ其ノ求めル所ヲ明言セズ又「フランス」ノ意アルコトヲ説ケルニ止メタルカ如シ、「ナポレオン」ハ普埃間ノ戦争ニ於テ普カ速ニ勝利ヲ得ルヲ干渉セサル故戦争長ヒクニツレテ兵カヲ備ヘテ戦ニ勞レタル西又戰國ニ臨ミソノ間ニ干渉ヲ容レエレヲ機念トシテ列國會議ヲ開キ一八一五年ノ條約ヲ改正シ埃ノ政治地圖ニ変更ヲ兵ニ民族主義ノ理想ヲ行フト同時ニ「フランス」ノ境界ヲ埃ケ自然の境界ヲ得ルノ宿志ヲ遂ケ「メキシコ」事件「ポーランド」事件等ニ於ケル外交上ノ大敵ヲ償ハントセリ、

「ナポレオン」ハ戦ノ長引クヲ最モ希望シ而シテ普カ埃及之ヲ助ケル独聯邦

一対シテ急速ニ勝利ヲ得ルノ予想セサルヲ以テ伊ノ普ト同盟スルヲ承認シ
 タリ、「ナポレオン」ハ普カ換ト戦ヲ開クヲ奨励スルカ如ク態度ヲ示シタルカ
 敵ヲ明約ヲナサス行動ノ自由ヲ保持セント欲セリ、而シテ普ノ勝ナシ場合
 ニ於テモ尚ホ仏ノ領土拡張ヲ認メシムルノ談判ノ余地ヲ有セント欲シタル
 カ其ノ求ムル所ヲ明言セズ、伊ニテ若シ普カ伊ト同盟シテ伊ヲシテ
 ベネチアレヲ取得セシムルヲ得ハ「ナポレオン」カ自ラ危険ヲ冒サスシテ伊人
 ニ満足ヲ与ヘ得ヘキヲ思ヘルカ如ク普ト伊ト同盟スルニ反対ヲ入ル、ノ考
 ヘナシ

「ビスマルク」ハ「ナポレオン」カ空虚ナル計画ヲ持シテ其ノ態度ヲ曖昧ニシ以
 テ干渉スルノ機熟スルヲ待ツヲ知リテ一方ニ於テ外交談判ニヨリテ仏ヲ
 操リ戦争ノ進捗ニ務メタリ

ニ公因ニ於テ普ノ管轄ノ下ニアル *Belg.* ハ *Augustenburgh*
 侯ヲ助ケル一※ノ運動ヲ鎮圧セントシ、侯ノ管轄ノ下ニアル *Idol.* ニ於テ
 ハ *Angou.* 侯ノ党兵ノ運動ヲ苟クモ阻止スルノ考ヘナシ、一八六六年一
 月ニ *Angou.* 侯ヲ戴ケル一派ノ人々カ *Altona* ノ市ニ於テ公合ヲ催

シ、ニ公因ノ議會ノ召集要求ノ議決ヲナスメ、「ビスマルク」ハ六月二十六
 日「ウィーン」ニ *Rechts* マデリテ侯ノ革命的運動ヲ斥責スルヲ責メテ
Angou. 侯ノ一派ヲ普及侯ノ権利ニ対スル *protest* ノ態度ヲ含メル行
 動ヲ全然禁止スヘキヲ求メタリ、若シ侯ニシテ満足ヲ普ニ与フルハ普ハ政
 策ノ自由ヲ留保シ、普ノ利トスルトコロニ依リテ行動スルノ外ナカルヘシ
 トナシタリ、 侯政府ハ二月七日ニ普ノ要求ヲ拒絶シ、同時ニ戦備ヲ收メ
 タリ、

Guettin 條約ノ結ハレタル前ニ *Ris. + Cornwall* トノ間ニ既ニ同
 盟ニテスル談判(協商)行ハレシカ *B.* 條約ノ為メニ普、伊同盟協約ハ一
 且頓挫セリ、一八六六年二月十二日普伊間ニ通商條約結ハレ三月ヨリ再ニ
 同盟談判前カレタリ、伊ハ普ト同盟ニテスル「ナポレオン」ノ反対ナキヲ確
 メテ後同盟談判ヲ再ヒ開ケリ、然ルニ「ビスマルク」ハ伊カ同盟談判ヲ利用シ
 テ侯ト談判ヲナシ金ニ代ヘテ「ベネチア」ヲ得ルノ目的ヲ達スルノオソレアル
 ヲ以テ又伊カ普ノ欲セサル時期ニ戦争ノ開始スルヲ恐レテ伊ハ又普カ「伊
 太利トノ同盟談判ヲ利用シテ再ヒ *Guettin* 條約締結ノ如キヲ行ヒニ

公国問題ニ于テ埃ニ圧迫ヲ加ヘントスルニ止マランコトヲ快レタリ、双方ノ疑ノタメニ談判容易ニ進捗セザリシカ三月二十七日ニ至リ、ロビスマレタレハ同盟談判ノ進捗ヲ求メテ四月八日ニ至リ、ロベルリンニ於テ同盟條約締結スルニ至レリ、

此ノ條約ハ三ヶ月以内ニ普カ独乙ノ聯邦組織ノ改革ノタメニ埃ト戦ヲ開クニ至ル場合ニハ伊ハ直チニ埃ニ宣戦スヘキヲ約シ双方ノ同意ナクシテ媾和休戦ヲ行ハサルヘク伊カ Lombardica, Venetiae 等埃ヲシテ割讓セシメ又普カ人口ニ於テ之ト公様ナル土地ヲ埃ヲシテ割讓セシメメルト

又ハ宣戦スハ休戦ノ全意ヲ拒ムコトヲ得サルモノトナシタリ、ロビスマルクハ埃トノ戦争ノ名義ヲニ公国ニ求メスシテ独乙聯邦組織改革ノ問題ニ求メタリ、三月十六日埃カ連章(Circular)ヲ独乙聯邦諸國ニ發シテニ公国問題ニ于スル普ノ態度ヲ批進シ必要ノ場合ニハ争ヒテ聯邦議會ニ提出シ且ソ聯邦軍ノ動員ヲホメント欲スト云フコトヲ告ケタルコトアリ、ロビスマルクハ二月二十四日通牒ヲ聯邦諸國ニ送り、埃ノ文書ニ答ヘテ先ツ戰備ヲ修メテ戦ヲイトメルハ埃ニ外ナラサル故、埃ニ現在ノ状態ノ

責ヲ負ハサルヘカラサルヲ説クト同時ニ新タナル争ノ端ヲ聯邦組織問題ニ求メテ現在ノ聯邦組織ハ不完全ナル此ヲ改革セサルヘカラサルヲ説キ而シテ普、埃ニ前戦ヲ見ル場合ニ於ケル聯邦諸國ノ向背ヲ向ヘリ、コノ Point ヲ察セル三月後ニ普ハ断然伊ト同盟談判ヲ行フニ至レリ、伊ト同盟條約締結調印ノ日ノ翌月四月九日聯邦議會ニ提出スルニ聯邦組織改革ノ案ヲ以テ修正案ヲ議スヘキ独乙國民議會ノ議員ヲ普通選挙ニヨリ送出セシメンコトヲ提議セリ、四月八日埃ハ普ノ攻撃的態度ヲ指摘シ埃カ戰意ナケレハ普ハ先ツ戰備ヲ撤センコトヲホメタリ、

伊エカ普伊同盟條約ヲ批准シタル翌日四月十四日ニ於テロビスマルクハ埃カ先ツ戰備ヲ行フ故先ツ戰備撤去ヲ行ハサルヘカラストセリ、埃ハ四月十八日普ニ答フニ四月二十五日ヲ期シテ戰備ヲ止ムヘキ故其後四十八時間内ニ於テ普モ戰備ヲ撤スヘキトセリ、ロビスマルクノ戦争ノ機會ヲ失フコトヲオソレタルカ止ムヲ得スシテ二十一日同意ノ旨ヲ答ヘ埃カ戰備ノ撤去ヲ行フニ從ソテ普モ順次之レヲ行フコトヲ諾ルニ至レリ、然レニ Prussia 同盟條約ノ結果伊方面ニ戦ノ行ハルニ至レルヨリ、埃ハ伊方面ノ戰備ヲ

昔ノ交渉ノ範圍外ニオカント、「ビスマルク」ハ戰備撤去ニ反対スルノ口實ヲ
得ルニ至リ戰備撤去ノ談判ハ不調ニ帰セリ、

境ハ刺戟ノ避クヘカラサルヲ以テ「ナポレオン」ニ對シテモハニシテ自ラ中
立ヲ守リ且ツ伊ヲシテ中立ヲ守ラシメ境カ「ベネチア」ヲ兵フル代償ノ土地ヲ
普方面ニ得ルコトヲ默認セハ「ベネチア」ヲ「ナポレオン」ノ手ヲシテ低ニ讓兵
スヘシトナセリ、「ナポレオン」ハ好意的ニコノ提議ヲ迎ヘタルカ伊ハ巴ニ同
意ヲ結ヘルヲ以テ（普ト）コノ提議ニ應セザリヌ、

「ナポレオン」三世ハ五月中旬ニハ公同問題ニ對シテ聯邦問題反「ベネチア」
問題ヲ列國會議ニ附スルコトヲ提議シタリ、英、「ロシア」之レニ贊成シヨ
國ノ名ヲ以テ事件ヲ保固タル境、普、伊及他ニ聯邦ニ對シテ列國會議ニ上
述ノ問題ヲ所議スルヲ勧誘スルニ至リタルカ、「ビスマルク」ハ皇帝ノ提議ノ
タメニ好機ヲ迎スルヲ便シケルモ境カ會議ニ於テ此ニ列席スル一國ノ領土
ノ拡張又ハ勢力ノ増加ヲナサシムルコトヲナナ、ルニ及ヒ Pope ノ代表
者ヲ會議ニ列セシムヘキ條件ヲ提出セル政列國會議ノ開催ハ行ハレサルニ
至レリ、境ハ一旦聯邦議會ト斷チタルカコ、ニ至リ普ニ對シテ聯邦議會ノ

援助ヲ求メント欲シ六月一日ニ公同問題ヲ聯邦議會ニ提出シ「ホルスタイン」
會議ヲ四月十一日ニ召集セントセリ、之レハ *Augustine* 侯
ノ権利ヲ承認セシメントスルナリ、「ビスマルク」ハ *Schles.*、總督
ヲシテ首軍隊ヲ *Hohls.* ニ入ラシメタリ、六月十一日ニ境カ *Hohls.* ノ議
會ヲ召集セントスルヤ普ノ軍隊ハ兩院式ノ施行ノ任ヲ行フ境ノ官夫ヲ逮捕
セリ

Hohls. ノ全体ハ普ノ占領スルトコロトナリタリ、於茲境ハ聯邦議會ニ於
テ普ノ暴行ヲ訴ヘニ公同問題ニ就テ聯邦軍ヲ動員セシムルコトヲハ聯邦議
會ニ要求セリ、

コレヨリ先々六月四日「ビスマルク」ノ独乙聯邦諸國ニ提議スル一境ヲ除
外スル新聯邦組織案ヲ以テセリ、普送ニヨリ送出シタル議會ヲ召集シ聯邦
政府ヲ設ケ外交及和戰ノ権カヲ毎ハ聯邦共通ノ經濟事項ヲ処理セシメ聯邦
ノ共同軍隊ヲ南北ニ部ニ分チ北部ハ普王カ之レヲ統率シ、南部ハ *Bavaria*
Ria エヲシテ統率セシメタリ、

六月十四日、聯邦議會ハ聯邦軍ノ動員ヲ可決シタリ然ルニ普ノ代表者ヨ

ノ決議ヲ以テ普ニ對スル宣戰ト全視スヘシトナシ。普ハ在来ノ聯邦條約ヲ
破棄シタルモノト認メ其後之レニ拘束サル、コトナク、自由ノ行動ヲトル
ヘキコトヲ宣言シタルナリ。翌十五日「エスマルク」ハ「Idanover, Idee-
Caecil, Naasom, Satony」等ニ於テ「Ulthratum」ヲ送り兵
備ヲ平時ノ軍事狀態ニ復シ且ツ新タル議會ノ召集ニ同意センコトヲ
要求シ其ノ日ノ中ニ決答ヲナスコトヲ求メタリ、之レ等ノ固ハ之レニ恣セ
サリシヨリ普ハ直チニ進入シ右領ヲ行ヘリ、

「ナポレオン」ハ埃カ独乙ニ於テ新タニ領土ヲ得ル場合ニ於テハ「ベネチア」
ヲ伊ニ割譲スルコトヲ約セシメント欲セリ、埃ハ仏ヲシテ中立セシメ場合
ニヨリテハ之レヲシテ伊ヲ拘束セシメント思ヒコノ要求ニ應シ六月十二日
ニハ秘密條約結ハレタリ、「ナポレオン」三世ハ其ノ「Sg. new

trulyte attentive (espelleantust) 親望的中
立ノ地位ヲ保チテ徐々ニ形勢ヲ觀察シ、埃・普ノ戦ニ疲ル、ヲ待チテ之レ
ニ干渉シ埃ヲシテ「Silesia」ヲ普ヨリ取り返サシメ以テ埃ノ独乙ニ
於ケル地位ヲ維持セシメ、埃ヲシテ「ベネチア」ヲ英ニ讓ラシメ「Prussia

ニ對シテハ「Sch. Vol.」ニ公因ノ外ニ「Idanover, Idee-eu-
rel」等ヲ年ハテ北独乙ノ霸勢的地位ヲ維持セシメ、而シテ仏ハ「ライン」
ノ左岸ニ於ケル普領ヲトリ、而シテ独乙、普、埃以外ノ國ヲシテ独乙内ニ
於テ此等ノ國ニ對立スル第三ノ団体ヲ作ラシメ仏カソノ団体ノ保護者トナ
ラントセリ、「オポレオン」一世ノ「Confederative of Rhein」
ヲ實現セントスルモノナリ、

「エスマルク」ハ「ナポレオン」ノ態度ニツキ憂慮セル故「ナポレオン」ノ要求セン
トスル所ヲ知ラントスルニ熱心ニシテ或ハ仏ノ境ニ近キ仏語ノ用ヒラル、
地方仏ニ入ルコトヲ認ムルノ意ヲ示シ或ハ「Massella」ノ上流ノ西岸ヲ仏
ノトルニ任スノ意アリト云フ風ヲ示シ以テ「ナポレオン」ノ胸中ニ計画
ヲ察知セント欲シタルナリ、

然レトモ「ナポレオン」ハ普軍ノ迅速ナル勝利ヲ得ルコトヲ予想セサル故
代償ノ問題ニ就キ明言スルコトヲサケタリ、「Compensation」トハ
或四カ土地ヲ失ハハ代リテ他ノ土地ヲ得ル、コハ兵力平衡ノ思想カ入ッテ
オルコ、ニ云フ代償ニ於テハ「エスマルク」ハ埃ニ對シテ迅速ニ勝利ヲ得ル

必要ヲ感シ *Moltke* ノ統率ノモトニ普軍ヲシテ六月二十一日國境ヲ

越エテ「ボヘミア」方面ニ侵入セシメタリ
「ウイーン」ヲサシテ「マシム」ノ *Benedek* 將軍ハ *Sadowa*

附近ニ於テ (*Koniggratz* ノ戰争) 普ヲ防カント欲シテ大敗シ (七月三
日) タリ。官戰ヲ行フテヨリ三週間ヲ出テスミテ勝敗大セリ。然ルニ伊方

面ニ於テハ六月三日ノ宣戰ノ後ニ埃軍カ六月二十五日ニハ *Custoza*
ニ於テ伊軍ヲ破リ其ノ後埃ノ海軍ハ七月二十日 *Lissa* 附近ノ戰ニ於テ
伊海軍ヲ破レリ。

Faenza 於ケル普ノ戰勝ハ「ナポレオン」ノ意味トスル所ニシテ
ノ政府内ニ於テハ兵力ヲ以テ干涉ヲ行フト云フ説アリシカハ
又伊ハ已ニ仏ト同盟シテ戰フル際ナル故之レト聯合シテ干涉ノ策ニ出ツル

ヲ得ス。「ナポレオン」ハ止ムヲ得スシテ兵力的干涉ノ策ヲ止メテ單純ナル
調停ヲ行フ事ニ決シテ普講和條件ノ基礎ヲ公然提議スルニ至レリ。

埃ハ伊カ讓ルヘキ「ベネチア」以外ノ土地ヲ保有シ彼乙聯邦ハ之レヲ解
散シテ埃ハ新組織ニ加入セサルコトヲシ *Moravia* 河以北ノ埃乙諸國

ハ普ノ霸政ノモトニ北汝乙聯邦ヲ組織シ *Moravia* 河以南ノ埃乙諸國ハ別
ニ一ツノ結合ヲ組織シ (*Union*) 南北西四國ノ干渉ハ兩國ノ約束ノ協

議ニヨリ定ムヘキコトヲシタリ。 *Mal. Sol.* ノ權利ハ之レヲ完全ニ普
ニ帰属セシメ唯 *Sole* ノ北部ノ地方ハ其ノ住民ノ意思ヲ問ヒテ之レヲ「
デンマーク」ニ復帰セシムヘントシタリ。

普王ハ戰事ノ開始ヲ躊躇セルモ一度戰事ノ形勢ヲ見ルモ普力強乙全体ニ
對シテ權利ヲ行フコトヲ主張セントシテ普カ占領セル土地ヲ埃ヲシテ割讓

セシメント欲シ又 *military* *Reinforcement* ノタメニ「ウイーン」ニ
入市ノ式ヲナサシメント欲シタリ。「ビスマルク」ハ埃ヲ強乙以外ニ排斥スル

ノ重要ナル目的ヲ達スル以上ハ其ノ他ノ事項ニ就テ大ナル要求ヲナスコト
ヲ不可ナリトシタリ。「ビスマルク」カ講和條件ニ干シテ「プロシヤ」王及

ソノ「プロシヤ」ノ軍人ノ意見ニ反對シテ溫和説ヲ唱ヘタル理由ノ一ハ「ビスマ
ルク」カ自ラ後ニ述ヘタルカ如ク (*Spekulation und Benimmungen*

gen 中ニ記セリ) 其ノ主トシテ着眼セル所ハ埃日埃ト同盟ヲ結フノ余
地ヲ存スルカ爲ナリシヤモ知レス。サレト當時「ビスマルク」ヲシテ溫和説ヲ

採ラシメタルハ其ノ以外ニモ存シタルヲ蔽フヲ得ス。當時「プロシヤ」ノ同盟
 國タル伊ノ軍隊ハ *Cathagen* = 大敗シ戦争ノ長引クトモハ伊ニ向ヘル
Albert 大公カ兵ヲ率ヒテ北方ニ出ツルノ懼アリシカ爲ナリ。又戦争カ
 長引クトモハ仏カ独乙ノ諸國ト合シテ埃ニ加担スルノ懼アリシナリ又「ロシ
 ヤ」ノ好意的中立ノ態度ニ就テモ其ノ何時マテ埃ヲカニ就テ憂慮シタルナ
 リ。

「ビスマルク」ノ唱ヘシ溫和説ハ当初之レヲ「プロシヤ」等ニ入レナリシカ當
 時皆ノ皇太子「フリードリッヒ」三世ニナリク「ロシヤ」ノ助ニヨリテ遂ニエラシテ
 「プロシヤ」得スシテ「ビスマルク」ノ言ヲ容レシムルニ至リタリ。「ビスマルク」ハ始
 メニハ仏帝ニ対シテハ媾和條件トシテ埃ヲ独乙以外ニ退カシメ「プロシヤ」ヲ
 シラ独乙ニ合體ニ屬タラシメ「プロシヤ」軍ノ占領スル土地ヲ併合セントスルヲ
 告ケタルカ仏帝ハ之レヲ適重ナリトシテ「ビスマルク」ハ澳ノ戰敗ニ準シ「プロ
 シヤ」及仏カソノ領土ノ狀態ヲ變更シ且政ノ變更ヲ危クスルノ恐アル問題ヲ
 總テ解決スヘキヲ提議シタルカ當時仏帝ハ危險ナリトシテ容レシ「ビスマルク」
 「プロシヤ」カ十八日ニ至リテ仏ノ調停ニ同意ヲ表シ又北独乙ニ於ケル近隣ノ諸邦ノ

併合ニツキ兼認ヲ求メ且媾和ノ正式ノ談判ハ之レヲ交戦國ノ相互ノ間ニ於
 テ行フコトヲ認ムルヲ求メタリ七月廿二日「プロシヤ」ブルグニ於テ普埃間
 ニ於テ予定條約（媾和條約）ノ談判始マリニ國間ニ於テ四月二十六日「
 コラスブルグ」ノ媾和予備條約ノ調印ナリタリ。其體ノ條件ハ普埃間ノ協定
 ニヨリ決定セリ。而シテ埃ヨリ普ニニ千万ターレルンノ償金ヲ払ヘリ。
 伊ハコノ條約ニ加ハラサリシモ「ベネチヤ」カ仏帝ノ手ヲ經テ伊ニ歸ス
 ルニ至ルトモハ普王ハ伊ニ向ツテソノ條約及ヒ休戰ニ同意スヘキコトヲ求
 ムヘキヲ期シ「サイル」ノテアル。コノ予備條約ノ批准交換ハ七月二十八日ニ
 行ハレタリ。

「ビスマルク」ハ媾和予備條約本條約ノ締結ヲ急メ媾和本條約ハ八月 *Play*
 ニ於テ調印セラレタリ。コノ條約ノ規定スル大綱ハ「ニコラスブルグ」ノ予備
 條約ニ同シ「ナポレオン」ハ表面上ニ於テソノ調停ノ條件ヲ双方ノ交戦國ヲシ
 テ容レシメテ外交上ノ成功ヲ得タルノ外觀アルモ普ノ勢力ノ南下ヲ妨ケ埃
 土ト南独諸國等ヲ列スルヲ普ヲ制セントスル「ナポレオン」ノ計畫ハ幾何モナク
 画餅ニ帰シ且代價ノ問題ニ就テモ其ノ目的ヲ達スルヲ得サルニ終レリ。

伊ハ普ノ軍独ニ堪和ヲ行ヘルニ不平ナルノミナラス「ベネチヤ」ヲ仏帝ヲ介シテ讓ラルヲ決セントセハ臣「ベネチヤ」ノ外ニ *Freantina* ヲ得ルノ野心ヲ有シ戰爭ヲ続ケテ行ヒタルカ勝利ヲ得ル氣ハスシテ八月八日講和ヲ備條約ヲ結ビ十月二十日本條約ヲ結フニ至レリ

埃、普同ノ講和ヲ備條約談判終局ニ近ケル際「ナポレオン」ハ普ノ勢力増加ニ對スル *Benedictti* ニシテ七月二十二日ノ城ヨリ「ビスマルク」ト談判ヲ開始セシメタリ「ビスマルク」ハ *Berna* ニ對シテ「ライン」左岸ノ独乙ノ土地 (*Palatinate* ヨリ *Wailing* マテ) 及ヒ「バルギー」ニテテ語ルトコロアルモ莫ク「ナポレオン」ノ希望ヲ充ヌスノ意ナシ、只之レニヨリテ「ナポレオン」ヲ操リテ以テ事態ノ安定ヲ得ルノ時期ヲ得タルモノトセリ「ビスマルク」ハ独乙ノ「ライン」左岸ノ土地ニテテ仏ノ要求ヲ條約ノ形式ヲ以テ提出セシメテ後之ヲ世ノ中ニ洩ラシタリ、コノ條約案ニ依レハ仏ハ一八一四年仏領ヨリ「プロシヤ」領ニ移レル「ライン」左岸ノ地ヲ普ヲシテ割讓セシメ「ライン」左岸ノ地ニシテ *Byern*、*Wied*、*Baden* 大公ニ屬セルモノ (*sovereignty*、*Palatinate* トノ間ナリ)

ヲ仏ニ割讓スルコトヲ普カ不カスヘキモノトシ、又「トルクセンブルグ」レヲ独乙ノ聯邦ト結合スルノ條約ノ規定及ヒ「トルクセンブルグ」ノ要求ニ守兵ヲ置クノ権利ニテスル條約ノ規定ヲ排棄スヘシトナシタリ、八月五日 *Berlin* 議、ハ其ノ勝本ヲ「ビスマルク」ニ送りタルカ、直チニ特使ヲ發シテ之レヲ露帝ニ示シテ仏ノ野心ヲ訴ヘ而シテ一方ニ於テ *Benedictti* ニ對シテ独乙ノ土地ヲ割クコトノ到底普帝ノナストコロニテラサルヲ説キテ之レヲ拒絶スルニ至レリ、而シテ独乙以外ノ土地ニ付イテ仏カ代償ヲ得ルヲ必スシモ妨ケサルノ旨ヲ示シ且ツ仏カ普ト接近スルヲ欲スルヲ説ケリ、*Berlin* 議、ハ八月十日「パリ」ニ於テ「ナポレオン」ト會議ノ結果独乙ノ「ライン」左岸ノ土地ノ要求ノ條約案ノ責任ヲ外務大臣 *Armermale*、*Thiers* 等ニ負シテ之レヲ取消シ外務大臣ヲ免シ、独乙以外ノ「トルクセンブルグ」、*バルギー*、*ワットル* コトニテシテ普ト談判ヲナスニ決シテ *Berlin* 議、ハ八月十日以後「ビスマルク」ト協議ヲ初メタルカ、「ビスマルク」ハ之レニ對スル要求ヲ條約案ノ形式ニテ提出スルコトヲ求めタリ(二十日ニ出ス)、ソノ條約案ニヨレハ仏帝ハ普カ埃及ヒソノ同盟國ト試フノ結果

トシテ得タル土地ノ領有ヲ承認シ普王ハ仏ヲシテ「フレクセンブルグ」ノ大公國ヲ得セシムルタメニ尽力スヘク普王ハ相当ノ代償ヲ以テ「フレクセンブルグ」ヲ仏ニ得セシムルタメニ「デンマーク」王ト相談ヲナスヘシトナシタリ而シテ仏帝カ北独ニ諸國、南諸國ト共ニ一ツノ聯邦ヲ組織スルニ反対セサルヘシトナシ此ノ聯邦ニ南北共同ノ議會方法ヲ得ヘシ、仏帝カ兵ヲ *Werner* *line* ニ入レヌハ之ヲ征服セサルニ至ルヘキトキハ普帝ハ兵カノ助ケヲ仏ニ与フヘク之レニ対シテ宣戰スヘキ回ニ対シテ海陸ノカヲ尽シテ仏ヲ助ケヘシトナセリ、而シテ之等ノ事項ヲ遂行スルノ担保トシテ仏王埃帝ハ攻守同盟ヲナスト約セリ、而シテ兩國ハ互ニ其ノ領土ノ保全ヲ担保シソノ中ノ一國ノ領土カ他國ニヨリ攻撃ヲ受クルトキハ邊境ナク軍事協約ヲ結ヒテ互ニ相援助スヘシトナシタリ、

「ビスマルク」ハ表面ヨリ仏ニ反対スルコトナク談判ノ遲延ヲ因リ以テ埃ト、媾和カ本條約ニヨリテ確定スルヲ待テ而シテ其ノ間ニ「ライント」左岸ニテスル仏ノ條約案ヲ南独乙ノ諸政府ニ示シテ「ナポレオン」ノ依頼シ得ヘキヲ感セシメ八月二十三日ニ於ケル「フラーク」ノ媾和本條約ノ調印ニ先立テ *Musterburg, Baden, Bavaria* 等ト媾和條約ヲ結ブト内

時ニ秘密攻守同盟ヲ結ヒ外敵ノ独乙國內ニ入レルトキハソノ軍ヲ普ニ合シテ全軍隊ノ統率ヲ普王ニ与フルコトヲ約セシメタリ、之レニ依リテ「ナポレオン」ノ独乙ヲ南北ニ分ツノ案モ全然画餅ニ帰セリ、一八六七年ノ五月十五日ノ條約ニヨリ「プロシヤ」ハ南独乙ノ諸國ト同盟會盟ヲ復シ一八六七年四月同盟會議カ開ケル、ニ至レリ、「ビスマルク」ハ *Bismarck* ニ対シテ仏カ普ニ対スル好意ヲ有スルコトヲ世ニ明ニシテ仏ノ他意ナキヲ示スヲ求メ九月十六日「ナポレオン」三世ハ「プロシヤ」ノ在米ノ外交政策ヲ是認シ、改造サレシ後ノ歐カ世界ノ平和ニ担保ヲ与ヘ又仏ノ他意ニ対シテモ担保ヲ与ヘルコトヲ言明スル公文ヲ公ニセリ、

代償ノ談判ハ一八六六年九月以後「ビスマルク」カ數地ヲ *Torgau* ニナセリタメニ中絶シ十二月三日ニ至リ再び開始サレタルカ「ビスマルク」ハ「ルクセンブルグ」及「ベルギー」ニ關スル條約案ヲ「プロシヤ」王ヲシテ承認セシムルノ準備ホク版ラスト稱シテ談判ヲ勸ムルコトヲ肯セサリキ、「ナポレオン」ハ普ト南独乙トノ間ノ秘密同盟條約締結ノ事實ヲ明知シ軍備拡張ヲ行ハント欲セシカ輿論ノ反対ニ依リ之ヲ実行スルヲ得ザリキ、一八六七年一月七日ニ至リ仏政府ハ議會ノ開會期ニ臨ミ *Bismarck* ニ対シテ代償問題ニテスル談判ヲ再開

セシメタリ、コビスマルクハ普王カ、ルクセンブルグノ要塞ヨリ振兵スルヲ
 背セサルヲ語リ、又「ベルギー」ニ于シテ同盟條約ヲ結フコトニ付テハ至ノ反
 對セルヲ語レリ、而シテ新聞紙ヲ利用シテ「ライン」方面ノ独乙ノ土地
 ヲ要求セル事ヲ世ニ洩ラシ独乙人ノ心ニ對スル激昂ヲ致ヤシノタリ、コビ
 スマルクハ既ニ獨乙ノ本條約ヲ結ビ八月廿三日思心カ独乙ノ土地殊ニ
 「ライン」左岸ノ「ハッセン」 *Wormsstadt* ノ土地ヲ要求セルヲ「ロシヤ」ニ
 告ケテ益々「ロシヤ」ト接近スルヲ得タルヲ以テ最早ニ「ハッセン」ヲ奪ハシメ
 テ感シハ普商ニ於テ代價ニ南スル問題ヲ運轉セシムルコトヲ背ンセス普商
 戰爭ニヨリテ獨乙ヲ独乙ノ外ニ排斥シ又近隣ノ諸邦ヲ併合シテ普ノ本土トシ
 エストニアリヤ「ライン」ノ領土トシテ連絡セシムルニ北極ニ於テ獨乙ノ確定
 シ遂ニ道ニテ南極ノ諸國トモ攻守同盟ヲ結フニ至レリ、而シテ「ハッセン」
 ヲ全フスルタメニ「ハッセン」河以南ニ「プロシヤ」諸邦ノ及フヲ認ムルヲ欲セシ
 ルニ「ハッセン」戰フコトニヨリ「ハッセン」ノ獨乙ノ必要ヲ感シタリ、而シテ「ナポ
 レオン」ハ内治上及外交上ノ失敗相踵々国内ニ於ケル人望ヲ失フヲ以テ「ハッセン」
 ノ位ヲ維持スルカタメニアル成功ヲ望ムルニ急ナルニ至レリ、於是普ハ獨
 乙ノ戰機熟セントス。

「ルクセンブルグ」事件

普獨戰役ノ折ニ「ハッセン」ノ領土ヲ増スノ代價トシテ其ノ領土ノ擴張ヲ求メ
 「ライン」以西ノ獨乙ノ領土自「ハッセン」ブルグ「華」ニ屬シテ普ト協議
 スルヲマリシモ「プロシヤ」ノ「ハッセン」ノ領土ヲ所トナリシニ「ハッセン」
 シ「ハッセン」ノ失敗ニ終リ一八六一年ノ一月ヨリ三月ニ至リテ「ハッセン」ヨリ振兵ヲ
 ナスニ至レリ、於是「ハッセン」ノ内政ニ於テ「ハッセン」ノ政策ヲ非難スルノ聲漸ク高クナレリ、
 「ハッセン」ノ「ハッセン」ハ在米ノ外交上ノ失敗ヲ償フニ「ハッセン」ノ外交上ノ *Success*
 ヲ博スルニ意ニシテ「ルクセンブルグ」ノ大公國ヲ和蘭王ヨリ買取ルノ談判ヲ
 ナスニ至レリ、「ルクセンブルグ」ノ大公國ハ和蘭王カ之ヲ有スルモ一八一五年
 以後一八六六年ニ至ルマテは聯邦ノ一部ヲナセリ、普獨戰ノ戰爭ノ後獨乙
 聯邦ハ瓦解セシカ普ハ一八一五年ノ條約ニヨリテ獨乙ノ領土ニ普獨戰ニ備兵ヲ
 置ケリ、「ナポレオン」三世ハ一八六七年二月「ルクセンブルグ」ノ買取ヲ知政府
 ト談判スルニ至レリ、然ルニ「ロシヤ」ハ當初直捷ニ反對ヲナスヲナク
 反テ既成事實ヲ作りテ普王ノ事變ヲ承認ヲ覺ムルヲ以テ「ハッセン」政府ニ勸告セルカ
 新聞紙ヲ利用シテ獨乙ノ憤慨ヲ養成セシメテ而シテ四月二日ニ至リ獨乙

国民ノ反對ヲ理由トシテ當ニ仏和ニ成ラントセシ割讓條約ニ反對スルノ意
思ヲ和ニ告ケタリ、之レヨリ先三月十四日 *Friends*、仏ノ代議院ニ於
テ「ナポレオン」ノ民族主義的外交政策ヲ非難シ (*divide et impera*
即チ小國ニ命テ支配スルト云フ *Divide et impera* 以テ來ノ政策ニ反ス) 既成事實ハ
之ヲ如何トモスルヨ得ストスルモ向後ハ壞ト協商シテ伊ニ於テ「ローマ」
ヲ防守スヘク又普ノ勢力ノ「マイン」河ヲ下リテ南下スルヲ得サルヲ欲スシニ
對シテ仏首相 *Rouher* ハ「ナポレオン」ノ外交政策ヲ非議シ今又「乙ハニ
ツ」ノ *Notes* ニ切リ斷サレタリト述ヘタリ、普政府ハ之ニ對シ三月十九日
ニ於テ普カ既ニ一八六六年八月ニ於テ南狄乙ノ諸國ト結ヘル秘密同盟條約
ヲ公ニシテ普ノ勢力ノ「マイン」河ヲ越ヘテ南下セルノ既成事實ヲ世ニ示セ
リ於是仏ノ人心ノ激昂ヲ生シ主戰論盛ニニ嚙ヘラレタリ、然レ仏ニシテ
「ライオン」問題ヲ以テ普ト戰ハス故ニ全体テ敵トスヘキヲ知リ且ツ當時仏
ニ於テ軍備未タ備ハス同盟未タ存セサルヲ以テ遂ニ「ブルグ」問題ニ
干シテ列國會議ヲ開クノ議ヲ乘シ其ノ結果トシテ「ロンドン」ニ列國ノ會
議開カレ一八六七年五月十一日ノ條約ニ依リ「ブルグ」センブルグ」ハ強國ニ

依リ聯合的担保

guaranties collective

ヲ行ハラル

又中立國トナリソノ要塞ヲ壞ハシ守備兵ヲ置クヲ得ストシ、普ハ其ノ「ブルグ」
センブルグ」ニ於ケル守備兵ヲ撤退スルコト、ナレリ(兵回カ「スマルグ」ニ
讓歩ヲ勸ム「ナポレオン」三世ハ五月十四日コノ條約ニ干シテ官報紙上ニ於テ
仏カ普ヲシテ「ブルグ」ヨリ撤兵セシメタルコトヲ以テ大成功ヲ得
タルモノ、如ク説カシメシカ「ナポレオン」カ「ブルグ」センブルグ」ノ聯合ヲ企
テ、「ブルグ」マルク」ヲ「タメ」妨ケラレシ外交上ノ大敗ハ之ヲ最フ能ハサルナリ、

第三章 普佛戰爭

「ナポレオン」ハ代償問題ニ関シテ「ブルグ」ノ「タメ」ニ懸念セラレタルヲ怒
ミ之ニ報ヒントマル志アリキ、且ツ多數ノ外交上ノ大敗ノ「タメ」ニ何ヲカ
ノ事功ヲ挙クルニ急ナリ、偶々仏人ノ間ニ普ニ對スル敵愾心盛ナルヲ覺テ
「ナポレオン」ハ「ナポレオン」ノ言ニキ、普ニ對スル人望アル戰爭ニヨリソ
ノ威ヲ回復セントスルノ念ヲ抱クニ至レリ、然レトモ仏ノ朝野ノ反目甚シ

ク其ノ準備上施設セルトコロハ姑息ノ手段ニスキスシケ徒ラニ私人全体ヲ
 ンテ仏ニ対スル不安ノ念ヲ高カラシメシニ留マレリ、普ノ方面ニ於テハ俄
 統一ヲ企フスル為ニ仏ト戦フノ必要ヲ感シシコスマルクハ「ポルトガル」(参謀
 總長)「ロンドン」(陸軍大臣)ト計リテ軍備ヲ急テサリタス、仏ハ普ニ対スル敵軍ニ
 向スル同盟ヲ求メントセリ、仏ハ「ロシヤ」ノ方面ニ之ヲ求ムルヲ得ズ、仏
 ハ「パリ」會議(一八五六年)ニ於テ「ロシヤ」ニ接近スルヲ求メシメ
 「ロシヤ」ニ於テハ「クリミア」戦争ヲ以テ「ナポレオン」ノ野心ニ對シテ
 其ノ *Walt* ヲ終局セル「パリ」條約中ノ黑海中立ノ條約ヲ以テ兩國ノ
 距離トナシテ仏ヲ喜ハス、一八六三年「ポロランド」叛亂ノ際ニ仏ハ千
 歩ヲ企テシヲ以テ「ロシヤ」ハ之ヲ憤レリ、シカノミナラス「ロシヤ」ト普三
 皇ハ親戚(「ロシヤ」帝ノ叔父カ普王)ノ親シミアリテ普ハ一八三一年以來「ロ
 シヤ」ト相隣レシノ事實ナリ「ポロランド」事件以來益々接近セリ、一八七〇年
 五月 *Gravel* ノ温泉場ニ於テ普、露兩國君主會合ス、折ニ兩國間ニ條約
 ヲ締結スルニ至ラザリシモ、普ハ東歐ニ於ケル「ロシヤ」ノ利益就中黑海
 中立ニ関スル「パリ」條約ノ條款廢止ヲ解トシテ *Paris Francoise*

間ノ戦後ノ際ノ普ノ好意的中立ヲ確メシモノ、如シ露ハ普ト結フコトヲ以
 テ得策トナシ益々之レニ接近セシメントセリ、
 仏ハ同盟ヲ求メントセハ之レヲ伊及奥方面ニ求メサレテ得ズ、伊ハ統一
 ニ関シテ「ナポレオン」ニ恩義アリ、頃ハ「プロシヤ」ニ對シテ俄乙ニ於ケ
 ル利害ノ衝突ヲ有セル故此ノ方面ノゾミアリ、然レトモ仏カ同盟ヲ伊ニ求
 メントセハ伊人カ統一ヲ遂ケルカタメニ「ロシヤ」ヲトルヲ必要ナリトスル
 ヲ以テ仏兵カ「ローマ」ヨリ撤退シ「ローマ」法王領ヲ伊王國ノ領地トナシテ認
 メサルヲ得ズ、コレ仏ノ旧教黨、保守黨ノ反對スル所ナリ、仏ハ一八六四
 年九月ノ條約ニ基マテ一八六六年十二月一日「ローマ」ヨリ撤兵セルモノ一八
 六七年ノ秋ニ至リ *Gulibardi* 兵ヲ率ヒテ法王領ニ侵入スルニ普ハ
 兵ヲ送リテ法王ノ軍ヲ援ケテ「ガリバルデー」ノ軍ヲ *Mentana* 敗
 リ一八六七年十一月二日「仏兵ヲシテ「ローマ」ニ入りテ行衛センメグリ、
 「ナポレオン」三世ハ「ローマ」問題ノ処置ニ苦ミ列國會議ヲ附議セントセシモ
 其ノ目的ヲ達セザリタ、如斯形勢ナルヲ以テ仏伊間ニ同盟談判行ハレシモ
 「ローマ」問題カ同盟ノ妨ケヲナセルナリ、

嶼ニ至リテハ俄令伊統一ニ因シテハ仏ニ旧怨アリト云モ普ニ復仇シ独乙ニ
 於ケル叔カラ回復スルノ意アルヲ以テ嶼ノ首相 *Berest* (*Sarvan*
 人)ノ如クハ仏ト同盟スルニ大イニ熱心ナリキ。然シ乍嶼ノ軍備未ダ整ハ
 ス又意ニ対シテ好意ヲ示シテ嶼ノ背後ヲウカ、ハン事ヲオソレタリ、
 一八六七年八月中旬 *Salisbury* = 於テ嶼仏兩國君主会合セリ、
 コノ会合ニ於テ同盟談判アリシカ此ノ際、談判ニ於テハ嶼カ伊カ同盟ニ加
 ハルニ非ナレハ戦争ニ加ハル能ハストナシ又嶼カ戦争ノ準備ニ時ヨリ要シ
 仏ノ宣戦ノ後大通過候ニ非ナレハ宣戦ヲ行フ能ハストナシ又仏カ南独ノ保
 護者トシテ南独乙兵ヲ出スコトヲ求メタルモノ、如クナルカ遂ニ確乎タル
 條約ハ結フニ至ヲサリキ。一、 *Mensendardam* = 以テ二國カ共
 = *Plag* 條約ノ持續ニ其ノカマズシ殊ニ南独諸國カ北独聯邦ニ合併スル
 = 至ルコトヲ制止シ嶼向帝國ハ立憲代議院制ヲ変更セサルヘク東方ニ於テ
 (トルコ方面) 勉メテ現状ヲ維持シ「ダリシマ」カ *Crete* 島ヲトルキ
 = 反対シ「ロシマ」ニシテ「ルーマニア」ニ侵入セハ嶼ハスミマカニ占領
 スヘキコトヲ約セルカ其印語極メテ曖昧ナリ、其後仏嶼間ノ談判ハ一八六

八年及一八六九年ニ至リテ行ハレシナリ。嶼ハ普、仏兩國ノ戰フドキハ中
 立ヲ守リ露ノ敵ニ加ハルニ至リテ初メテ仏ヲ助フハシト、仏ハ普カ嶼ヲ襲
 フトキハ之レヲ援クヘキモ其ノ同意ナクシテ嶼ノ開始スル *War* = 加入
 セサルヘシトシテ互ニ斷保スルトゴロアルヲ以テ同盟條約ノ調印ヲ見ルニ
 至ラサリキ。兩國君主ハ外交上ノ問題ニ就テ共同ノ政策ヲトルヘク相手國
 = 知ラスシテ第三國ト政治上重大ナル條約ヲ結ハサルヘキコトヲ約スルニ
 止マリ、「ナポレオン」三世ハ一時平和主義カネテ民族主義 *Glouven* 内閣ヲ
 組織セシメ一八七〇年一月嶼ヲ中立トシテ仏普兩國ノ同時ノ軍備縮少ノ議
 コ提出セシメタリ、二月中「ビスマルク」ハ「プロシヤ」ノ軍隊ノ組織ハ如何ナル程
 度、縮少ヲモ許サ、ルヲ口実トシテ之レヲ拒絶セリ。 *Ad.* 内閣成立後「ナポ
 レオン」ハ復ニ嶼帝ト談判シ「内閣ニハカラス」一八七〇年 *Althert*
 大公國 *Dachau* = 使シ亦今年五月ニハ *Saburum* 將軍カ「ウー」ニ使節ヲ
 ラレ内閣ニ因シテ協議スルコトアリシモ同盟條約ヲ結フニ至ラサリキ。「ナ
 ポレオン」ト伊王 *Victor Emmanuel* トノ間ニ於テ一八七一年ノ頃由
 リ秘密ニ全盟談判行ハレ一八六九年六月七月ニ及ヒシカ伊王ハ常ニ「ローマ」

一入。
ヨリ仏兵ヲ撤スルコトヲ以テ同盟ノ條件トナシ、増ハ伊ヲ味方トスルニアラ
サレハ危險ヲ感スルヲ以テ仏帝ニス、ムルニ伊要求ヲ容レテ普ニ對スルモ
同盟ヲ結フコトヲ以テセルモノ、如キモ仏帝ハ国内ノ同教党ノ悍リテ、
ローマニ激突ヲ漸行スルヲ得ナリ。

「ロ」マニ同盟ノタメニ三國同盟成立スルヲ得又ハ日埃三國同盟ニ共同政策
ヲトルヲ約スル漢然タル條約ナリ、而シテ仏カ遠シテ戰フ普ニ對シテ南ク
トキハ埃伊兩國カ中立ノ地位ヲ維持スヘキコトヲ定メヨリ、一方ニ英アハ
一八六九年一八七〇年埃伊兩國ノ間ニ意見ノ交換アリテ政ノ事件ニ關スル
共同行為ヲ約束シ、普兩國戰爭ノ折ニハ相互ノ保全ヲ互ニ担保スヘキコト
ヲ約スルニ至レリ、埃ノ *Reims* ハ普仏同盟ノ際埃ハ戰命ノ初メヨリ交
戰ニ加ハルコトナク、伊ト深ク相結托シテ適當ノ時期ニ於テ交戰國ノ間ニ武
裝的調停ヲナスノ態度ヲ採ラントシ、仏カ戰ニ捷クハ二回ハ之レヲ助ケテ普
ヲ追撃スルト同時ニ仏ノ專横ヲ制セントナシ、又普カ戰ニ勝タハ二回ハ其ノ
同盟ノカニヨリ普ノ要求ヲ抑ヘルヘシトセリ、
仏ハ埃伊間ノ上述ノ條約ヲ承認シ、之ヲ以テ仏ノ利益ニ合スト考ヘシモノ

ノ如ク、コノ條約アルカタ、又ニ仏カ埃又ハ伊ヲ戰命ニ引入ル、ニハ實際上面
國ト共同ナル政策ヲトラサルヘカラサルニ至レルナリ、
「ナ」ボレホニ又南極
乙ニ關シテ空想ヲ抱ケリ、仏ノ一部ノ外交官ハ南極ノ人士ノ間ニ普排斥ノ
思想盛ナルヲ見テ、多數ノ人其カ普ヲ敵視スルト誤解シ、普ノ能力ノモト
ニ軍帝上及財産上ノ能力集中ステニナリシコトヲ知ラス、且南極諸政府ハ万
一ノ場合アハカリニ仏ヲ探レルヲ以テ、裏面ヲ報スル外交官ノ言ヲモカレシ
シテ、仏軍カ一度南極ニ向ヘハ南極ハ「ナ」ボレホニ一此ノ時ノ如ク、普ヲ去リ
仏ニツクヘシト思惟セリ、「ビス」マルクハ風ニ普仏同盟ノ戰爭ノサケヘカラサ
ルヲ知り、普々長ノ準備ヲナセルカ、ビスマルクハ埃伊ト仏トノ同盟談判ノ成
ヲ莫スルコト百方考ケシメ、同盟ナラザルトモハ、仏ト戰命ヲ開始セシ、彼又
ルト同時ニ列國及他乙人ノ同情ヲ得ルタメニ、仏ヲシテ攻撃的態度ニ出テシ
メントセリ、故ニ埃ルハ「ナ」ボレホニ對シテ宣戰ヲナスニ至ラシムル
為ニ畫策スル所アリ。

近因「ス」ペイン「カ」一八六八年九月ノ革命ニ依リ立憲政トナリ、其ノ三ヲ求
ムルニ、コノ革命ノ主謀者ノ一人ナル *Palm* カ「ビス」マルクノ裏面ノ政策ニ

ヨリ「ホド」ハンツォルレン、*Sigmundsson* 家ノ *Jakob* ヲ迎ヒス
ルコトヲ努力スルニ至レリ。

一八七〇年三月十五日普王ハ皇太子 *Jakob* 及ヒ其ノ父 *Wistane*

(*Arcturion*) 「ビスマルク」 *Melbye* 「ローン」等ハ相会シ *Stephan*

ノ候補ニ議セリ、衆議承諾スルトセルニ *Be*、ハ比ノ際候補トナルヲ

拒絶セリ、然ルニソノ後ニ至リテ独乙ノ祖國ノタメニ候補者タルコトニ全

意スヘキコトヲ普王ニ対シテ述フルニ至リ普王ハ直チニ之ニ同意スルニ全

ヲ契ヘタリ、六月二十五日 *Be*、ハ *Prin*ニ対シテ正式ニ全意ヲ表シ、

普王ハ六月二十八日 *Be*、ノ父 *Anton*ニ向ヒテ正式ニ *Be*、ノ候補ニツク

テ同意ヲ表スルニ當リ家長トシテ之ニ同意スルコトヲ附言セリ、ハ政府

カ七月三日ニ至リ初メテ之レヲ知リシカハ人ハ外交上ノ一決案ノタメ

ニ臨レラレタリトシテ憤慨シ外相 *due de Gramont* (*Bonapa-*

rist)、ハ六月ノ代議院ノ勇向ニ対スル返答中ハカ塊ノ地位相違ノ問題ニ

関シ従来中立ノ態度ヲ守レルモ他ノ國「チモール」五世ノ位ニ他ノ國ノ

皇族ヲ擢ヘテ以テ政現在ノ勢力均衡ヲ攪乱シハ利益及ヒ名譽ヲ危クスル

コトヲ傍觀スルコト能ハストナセリ、而シテハ政府ノ干渉ニ反シテ如斯キ
実行ナレントセリ、ハ政府ハ議員及國民ノ助力ニヨリ躊躇ナシ勇敢ニ義勇
ヲツクヌヘキ危期ヲ高メタリ、普駐劄使 *Benedetti*、カ七月四日
ニ普ノ外務省ニツイテ西王位相統向題ニツキテ普又ハ外務省ニテハ普ノ政
府ノ全クアツカリ知ラサルトコロナリト答ヘタリ、

之レニノ問題ヲ以テ「ホド」ハンツォルレン「家」一家事トナセリ、*Be*、

de Gramont、ノ余命ニヨリテ普王ノオレル *Bonap*、ニ於テ

普王カ *Be*、ニ勸告シテ其ノ候補ヲ辞退セシムルコトヲホメメントセル

ノ *Be*、ニアテタル私信ニ於テ急速ナル返答ヲ得ルコトヲ望ミ、若シ返答

不満足ナレハ仏カ換先ヲ制シテ一箇箇内ニ南戦スルコトヲ要ストルケリ、

九月ニ *Be*、カ普王ニ会合セルニ、普政府ハ全ク其關係ナリトナセリ、

リ「」於テハ議院ノ形勢切迫ヲ告ケハ政府ハ普王タル「ウイ」ハルム

ト「ホド」ハンツォルレン「家」タル「ウイ」ハルムノ區別ヲ認ムル家ハ

ストシ *Be*、ヲシテ普王ノ速カニ *Be*、ニ勸告シテ西王位ノ候補ヲ辞

セサルヘキヲ宣言スルコトヲ要求セシメタリ、普王ハ當時ハ戰事ノ開始

ヲ欲セザリシカレノ強制ニ依リテ已ムヲ得ク讓歩セルノ外觀ヲサケテ普三ノ威嚴ヲ敗壞セザラント欲シ直テニレノ要求ニ計シテ兼詰ヲ弁ヘスシテ曰ク事件カ物議ヲ醸スニ至ルヲ以テ *Steu* 及び *Sanction*、意思ヲ向フマメニスアニ交通ヲ行ヘリ、蓋シ *Steu* 及 *S.* ニシテ候補ヲ辞スルノ意思ヲラハ普王ハ之レヲ承認スヘク今又將ニ返答ノ至ルヲ待アリトセリ、トバリーレニ於テハ普王カ左右ニ托シテ戰ノ準備ヲナスモノトシテ人心激昂セリ、コノ反動トシテ彼乙ニ於テハ人心激昂シテ三ノ溫和ノ態度ヲアヤシムニ至レリ、政體固ハ概シテ *Steu*、*Ep.*、*Prin.* 三位候補ノコトカ秘密ニ画策サレシコトカ不可ナリトナシ、英、法、西政府ハステニ普政府トノ談判ヲナシ、又英、法、伊、諸政府ハ西政府ニ向ヒテ談判ヲナシ、トホルオン自身モ四國ニ於テ何人的ニ干渉トナルヲサケ談判ヲナセリ、(西ノ *Deveraux Steu* *gent*) ニ對シテ何人談判ス。

七月十二日ニ *Antony*、ハ國際ノ紛議ハオソク、ノ理由ニ蓋シソノ *Steu*、ノタメニ候補ヲ拜選スルノ事ヲ *Ep.*、*Prin.*ニ告ケ而シテコノ事實ヲ広ク世上ニ發表セリ、之ニヨリレノ西王位ニ處スル外交ノ主要目的ハ達セラ

レシモ戰勝ヲ得テ帝政ヲカメメントスルニ試論ノ *Bonapartist*、ハ之レヲ以テ満足セサル匪類ナレ新聞紙ノ所論ニ勅カサル、*Paris*、人民ノ激昂ニ甚シク議會ニ於テ得策ノ担保ニ因シテ黃國提出ナレ且ツ政府部内ノ一部ノ人士就中外務大臣 *Spramant*、侯、如マハ *Steu*、ノ候補カ普政府ノ國策ニ出テシ矣ヲ重要視シ当初ヨリ *Steu*、ノ拜選カ普王スハ其ノ政府ニヨリ宣言又ハ通告サル、コトヲ必要トナセルカコ、ニ至リ將來ノ担保ニ因シテ要求スルノ意思ヲ持スルニ至レリ、

一八七〇年ノ七月十二日ノ午後三時頃普ノ大使 *Wentzen*、ハ *Spramant*、*Wentzen*、ヲ訪ヒテ之レト会見セルニ *Spramant*、ハ普王カ命命ニ對シテ一ツノ手紙ヲ送り之レニヨリ普王カ「レオボルド」ノ西國王位繼承ヲ許可スルニ當リレ國民ノ利益又ハ威嚴ニ對シテ侵害ヲ加フルノ意思ナカリシカ明言シ「レオボルド」ノ候補拜選ニ參加シ普王ハ「レオボルド」ノ意思ニ生シタル誤解ノ原因カ今全クソノ跡ヲオサムルコトヲ希望スル旨ヲ普王カ表白ス、マアホメントセリ、从前相 *Clivien*、ニ途中ヨリコノ談判ニ加ハリ、コノ談判ハ之レヲ正式ノ談判ト云フヲ得サルカ如クモ之レハ普王ノ謝罪狀

ヲトラント欲スルモノナル故普王ノ許諾ヲ得サルハヌコトハ初メヨリ明白ナルナリ
 強ビテコノ要求ヲ賛カント欲ミタルコトハナキモノ、如キモ
 Wercker 対シテコノ提議ヲ明日ニ取消スノ手段ヲトラサリシモノ
 Grammont Wercker トノ会見ノ後ニ仏帝ノ旨ヲヤケ
 ラ七月十二日ノ午後七時 Anton 侯ハソノ Hea. ノタメニ行ハル拜見ヲシ
 テ充分ノ效果ヲ有セシムルタメ普王カ之ニ答知シ今後普王カ再ヒコノ提議
 フ許可セサルヘキノ担保的ノ宣言ヲ再フル事ヲ必要トスハヌコトヲ Bavel
 Letti 対シテ打電スルニ至レリ、七月十三日 Baudette Grammont
 前日午後七時ノ電報ヲ接収シテノ謁見ヲ求メントシ午前十時途上公
 園内ニ於テ偶々衆赤中ノ普王ト会談スルニ至リシカニハ Berne 新タナ
 ル要求ニ接シ之レニ告フレニ Hea. ノ辞退ヲ明カニ是認スル以外ニ於テハ
 何事ヲモナシ能ハサルコトヲ以テ其ノ日ノ中ニ Hea. ノ返答普王ヘキヲ以
 テ其ノ後ニ於テ重ネテ面会スヘシト告ケテ後ヲ命カテリ、然ルニ普王ノ
 Grammont カ普王ノ謝罪状ヲトラントスルノ談判ヲ行ハルコトニ願ス
 ン Wercker ノ報道ニ接シ情リシモノ、如ク Hea. ノ返答到着セル

モ Berne 見ルヲ欲セサルニ至リ、Be. ノ謁見ヲ求ムルニ対シテ特使武官
 マシニ之レニ告ケシムルニ Hea. ノ候補辞退ノ確報ヲ得タルヲ以テ而シテ
 王ハ其ノ事件ヲ全然終了セルモノト見做スコトヲ附言セシメタリ、Be-
 ンカ将来ノ担保ニ関シ更ニ謁見ヲ請ヘルニ対シ使者ヲ遣リ將來ノ担保ニ
 ツイテハステニ午前ノ会見ニ於テ述ヘタルトコロアリ、之ニツキ最早云フ
 ハヌコトヲ以テ謁見ノ要求ヲ却ケタリ、十三日ノ夜(九時四十五分)
 Grammont ハ更ニ普王ト交渉スヘキ事ヲ Berne. ニ訓令シ十四日 Be-
 re. ハ「ポリー」ニ帰ルノ故ヲ以テイトマラヒテ、謁見ヲ求メ普王ハ其ノ
 故ヲ妨クタメニ Cableing. ニ成立スル際停車場ニテ謁見ヲ毎々(午後五
 時過)最早何事モ告クヘヌコトナシトシ今後ノ談判ハ政府ニヨリヲ行ハル
 ハシト云ヒテ懇懇ニ別ヲツケタリ Berne. トノ会見後直チニ普王ハ Be-
 re. トノ交渉ノ願末ヲ「スマルク」ニ報道シ之レヲ外聞ニ在ル大臣並ニ新
 聞社ニ通知スハヌマ再ヤテ「スマルク」ノ裁量ニ委ヌル事ヲ明言セリ、「ビス
 マルク」ハ Hea. ノ候補辞退ニツキテ情レルニ際シ偶々「モルトケ」ロ「ン」等
 ト会食ノ折王ノ電報ニ接シコノ電報ノ文句ヲ削リテ其ノ簡率ニシテ前夜ノ

事情不明ナルカタメニ Berny カ普王ニ対シテ不当ノ要求ヲナシ王カ威嚴ヲ保テテ謁見ノ請求ヲ拒絶シ侍從武官ヲシテ最早何等ノ告クヘキ所ナシトシノ大使 (Berny) ニ依ハシメ Berny カ海軍ヲ蒙レル如キ形トナシテ之ヲ諸國駐劄ノ大使ニ通シ且之ヲ新聞紙上ニ於テ公ニセシメタリ、ヒスマルアルハ之レニヨリテ何時ニ依乙及仏西國民ノ激昂ヲ致サシムルヲ得タリ、而シテ Mescherer ヲシテ帰國セシメタリ、

仏ニ於テハ此カ Stea. / 辭退ヲ以テ満足ナル解決ト見做スヘキノ勅告ヲナセルニ拘ラス又所求ノ要求ヲ維持シ居タリ、然レトモ尚予備兵ノ召集ハ延期シオリタリ、仏ノ議會ニ於テ Spammont ハ西大使ヨリ Stea. / 辭退ノ正式ノ通知ヲ受ケタルモ普ト、交渉ハ未タ終了セサルヲ以テコレヲ報道スルヲ得スト速ヘタリ、其後 Berny / 電報ヲ送リ(九時四十五分)普王ニ電報ヲ命シ所求ノ担保ニ關スル何レカノ返答ヲ得テ帰國スヘキコトヲ所望セリ、仏ニ於テ普王ヲ所求ノ担保ニ關スル要求ヲ拒絶シ且ヒスマルクガ Ag Evans 電報ヲ公ニセシメタル中ニヨリ人心ノ激昂甚ダシク七月廿四日午後、閣議ニ於テ勅員ニ決シタリ、然ルニ勅員ノ命令出テ後更ニ Spammont ヲリ利國會議

開催ノ説ヲ出シ「ナポレオン」ハ之ニ賛成シテ一旦平和説ニ決シタルニ其ノ實行シ難キヲ見ルニ及ビ Saint Cloud / 於テ午後十時ヨリ更ニ閣議ヲ催シ會議中普政府カ Berny 電報ヲ公然諸國ニ通知シタルコトノ報道ヲ受ケ且ツ「ヒスマル」カ英大使 Hopkins / 向ヒテ仏カ普ヲ求メ戰爭ノ準備ヲナセルニ對シ其ノ仏方決然普ヲ攻撃セサルノ担保ヲ求メサルハカラサル事ヲ語レルノ報道ヲウケタルヨリ遂ニ勅員ヲ維持スルニ決シ翌十五日ノ閣議ニ於テ宣戰ニ決セリ、

七月十五日議會ノ委員會ニ於テ陸軍大臣ハ準備ノ整ヘルヲ説キ外務大臣ハ奥伊ノ同盟カ依然シ得ヘキ如キ語氣ヲ發ラシタリ、而シテ議決ニ於テ予備兵ノ召集ニ着手セルコトヲ報道シ仏ノ利益保全及名譽ヲ全フスルニ必要ナル処置ヲ速カニトラントスル事ヲ告ケタリ、於是仏議決ハ普王カ仏大使ノ謁見ノ請求ヲ拒絶シ而シテ普政府カ之レヲ諸外國政府ニ通知セル事ヲ以テ仏ノ名譽ヲ害セリトナシ之レヲ主要ナル理由トシテ軍事費五千万フラン支出ヲ議決シ内閣^普乙聯軍全体ノ勅員ヲ命シタリ、
英ハ先ツ調停ヲ入レ次ニ弟三國ノ調停ニ委スル勅告ヲナセルモ其效ナカ